

# CONCERT

*KORG DIGITAL PIANO*

*XC-2000f*



*XC-1000*

取扱説明書



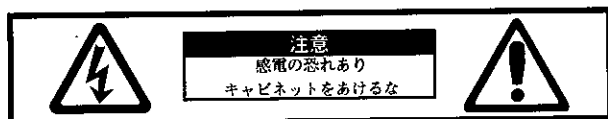
AI<sup>2</sup> Synthesis System

# KORG

このたびはコルグデジタルピアノ コンサート  
XC-2000f/XC-1000をお買い上げいただきま  
ことありがとうございます。本製品を末永くご愛  
用いただくためにもこの取扱説明書をよくお読  
みになって、正しい方法でご使用ください。

# はじめに

## 安全上のご注意



マークについて  
この機器に表示されているマークには、次のような意味があります。



このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。



このマークは、注意喚起シンボルであり取扱説明書などに、一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。

火災・感電・人身障害の危険を防止するには以下の指示を守ってください。

ピアノはご家庭の中で身近に置かれ、お子様から専門家の方まで幅広くご愛用いただくものです。ピアノは大きくて重いものですので、室内での置き場所や日常の取り扱いについて、安全にご使用いただくための注意をお願いします。小さなお子様には、最初にご家族の方から教えてあげてください。



## 警告



- 本製品を使用する前に、以下の指示をよく読んでください。
- 電源プラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込んでください。
- 設置は水平で平らな床面に行なってください。
- 本製品を移動する時に引きずって行なうと床面を傷付けるばかりでなく、思わぬ事故を起こしかねません。必ず2人以上で持ち上げて移動してください。
- 次のような場合には、直ちに電源を切って電源コードなどを取り外し、コルグ営業所、またはお買い上げになった販売店に修理を依頼してください。
  - 電源コードやプラグが破損したとき
  - 異物が内部に入ったり、液体がこぼれたとき
  - 製品が（雨などで）濡れたとき
  - 製品に異常や故障が生じたとき
- 次のような場所での使用や保存はしないでください。
  - 温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など：外装等の変形や火災の原因になります。）
  - 水気の近く（風呂場、洗面台、濡れた床など）や湿度の高い場所
  - ホコリの多い場所
  - 振動の多い場所
- 本製品はキーカバーまたは譜面立ての開閉時に指や手を挟みこむ恐れがありますので、十分注意してください。



- 修理／部品の交換などで、取扱説明書に書かれている以外のことは、絶対にしないでください。必ず最寄りのコルグ営業所またはコルグ営業技術課に相談してください。
- 本製品の上に上がったり、下にもぐり込んだりして遊ばないでください。
- 本製品の上に物を置かないでください。落ちると危険です。
- 本体に前後方向から無理な力を加えないでください。転倒の危険性があります。
- 地震の時はピアノに近づかないでください。
- 電源コードを無理に曲げたり、上に重いものを乗せたりしないでください。電源コードに傷がつき危険です。
- 本製品を単独で、あるいはヘッドホン、アンプ、スピーカーと組み合わせて使用した場合、設定によっては、永久的な難聴になる程度の音量になります。大音量や不快を感じる音量で、長時間使用しないでください。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。
- 本製品に、異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）や液体（水やジュースなど）を絶対にいれないでください。
- この機器を分解したり、改造したりしないでください。



## 警告 (スタンド)



- 付属のスタンドは「ST-3000 (付属) スタンドの組み立て方」(52ページ)に従って必ずピアノ本体を設置のうえ、使用してください。その際、必ず「ペダル用コネクター」を [PEDAL] 端子に差し込んでください。



- 付属のスタンドは、長期間ご使用になりますとネジが緩む場合があります。使用中に揺れが大きく感じられたり、使用場所を移動する際には、安全のため「ST-3000 (付属) スタンドの組み立て方」に従って、ネジを締め直してください。

## 警告 (イス)



- 付属の椅子はピアノの演奏用のみに使用してください。椅子で遊んだり、踏台にすると転倒したり壊れたりして危険です。
- 付属の椅子は一人用です。二人以上で腰掛けないでください。



- 高さ調節は椅子から降りて確実に行なってください。腰掛けのまま行なうと手を挟むことなどがあり危険です。

## 注意



- 本製品は正常な通気が妨げられることのない所に設置して、使用してください。
- 本製品はマイクロコンピュータを使用した機器です。このためラジオやテレビなどを接近して同時にご使用になりますと、それらに雑音が入ることがあります。逆にラジオ、テレビ、その他の電子機器から本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。ラジオ、テレビ、その他の電子機器などからは充分に離してご使用ください。
- 他の電気機器の電源コードといっしょのタコ足配線は危険です。本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。
- スイッチやツマミに必要以上の力を加えますと故障の原因となりますので注意してください。
- 長時間使用しない場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。



- 外装のお手入れは、必ず乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。ベンジンやシンナー系の液体は絶対にご使用にならないでください。(コンパウンド質、強燃性のポリッシャーも不可)。
- 製品をお買い上げいただいた日より一年間は、保証期間となり、修理は無償となりますが、保証書に購入店での手続きがない場合は無効になります。保証書は必ずお求めになった販売店で所定の手続きを行った後、大切に保管してください。
- 今後の参照のために、この取扱説明書はお読みになった後も大切に保管してください。
- 電源コードをコンセントに抜き差しするときは、必ず電源プラグを持ってください。



## バックアップバッテリーについて

本製品は、電源オフ後に内蔵メモリーの内容が消滅するのを防ぐために、バックアップ用バッテリーを装備しています。LED画面に“Lo”の表示が出たら、バッテリーの交換を行う必要がありますので、最寄りのコルグ製品取扱店または(株)コルグ営業技術課までお問い合わせください。

- “LO”表示を消すには、[MIDI]スイッチ(または[RESET]スイッチ)を押します。

## データについて

万一異常な動作をしたときに、メモリーの内容が消えてしまうことがありますので、大切なデータはフロッピーディスク(XC-2000fのみ)または外部のデータファイラー(記憶装置)等にセーブしておいてください。また、データの消失による損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

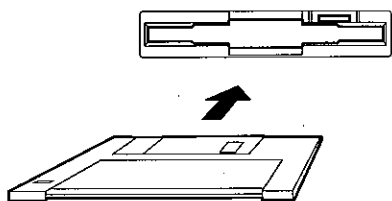
## ディスクドライブをお使いになる前に(XC-2000fのみ)

### フロッピーディスクの種類

フロッピーディスクは、2DDまたは2HDの3.5インチのフロッピーディスクを使用してください。2DDはMS-DOS 720kByte、2HDはMS-DOS 1.44MByteのフォーマットで使用してください。

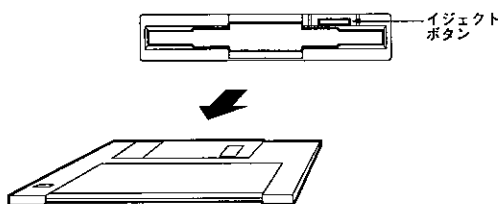
### フロッピーディスクの入れかた

フロッピーディスクはラベル面を上にして、ディスクドライブに対して、まっすぐに「カチッ」という音がするまで挿入してください。無理に押し込むと故障の原因になりますので注意してください。



### フロッピーディスクの取り出しかた

XC-2000fのディスクドライブが実行中でない(LED画面の右端の“-”が点滅していない)ことを必ず確認してから、イジェクトボタンを押して取り出します。



### フロッピーディスクの取り扱いについて

フロッピーディスクを取り扱うときは、次の点に注意してください。磁気ディスクが汚れたり、傷つけると読み出し書き込みができなくなります。

- シャッター部分を開けたり、フロッピーディスク内の磁気面に直接触れない。
- フロッピーディスクを本体のディスクドライブに入れたまま、XC-2000fを輸送しない(ヘッドがフロッピーディスクを傷つけるため)。
- フロッピーディスクをテレビ、ディスプレイ、スピーカー、電源トランスなど磁気を発生する機器には近づけない。
- 高温、多湿の場所、直射日光のあたる場所、ゴミやホコリの多い場所で使用、保管しない。
- フロッピーディスクの上にもものをのせないでください。
- フロッピーディスクを使ったあとはケースに入れて保管してください。
- ディスクドライブの動作中は、本体に衝撃を与えないでください。

### フロッピーディスクのライトプロテクトについて

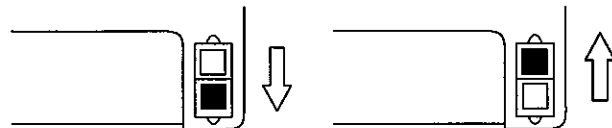
フロッピーディスクには、誤ってデータを消去してしまったり、書き換えてしまうことのないように、“ライトプロテクトホール”という小さな窓がついています。



セーブしたデータを壊してしまわないように、セーブ後はタブを下げて「書き込み禁止の状態」にしてください。

書き込み禁止の状態：ライトプロテクトホールが開いた状態になるようにタブを下げます。

書き込み可能な状態：ライトプロテクトホールが閉じた状態になるようにタブを上げます。



### ヘッドのクリーニング

ヘッドが汚れていると、保存や読み込み時にエラーが発生する原因になりますので、ヘッドを定期的にクリーニングしてください。ヘッドのクリーニングには、市販の湿式3.5インチ両面用ヘッドクリーニングディスクを使用してください。片面用を使用すると、ドライブを傷める原因となります。

1. クリーニングディスクをディスクドライブにセットした後、[LOAD]スイッチを押して読み込みを実行します。LED画面に“-”が点滅表示されます。
2. 約10秒後にイジェクトボタンを押して、クリーニングディスクを取り出します。  
長時間クリーニングを続けるとヘッドを傷めますので注意してください。



クリーニング後約5分間はディスクドライブを使用しないでください。クリーニング液が乾かないうちに使用しますと故障の原因になります。

## 目次

はじめに .....	ii
安全上のご注意 .....	ii
バックアップバッテリーについて .....	iii
データについて .....	iii
ディスクドライブをお使いになる前に(XC-2000fのみ) .....	iv
<b>1. 演奏するための準備 .....</b>	<b>2</b>
電源コードを差し込みます .....	2
電源をオンにします .....	2
キーカバーを開けます .....	2
音量を調節します .....	2
ヘッドホンを使うときは .....	2
譜面立てを使うときは .....	3
<b>2. 各部の名称とその機能 .....</b>	<b>4</b>
XC-2000f .....	4
XC-1000 .....	6
<b>3. デモ演奏を聴いてみましょう .....</b>	<b>8</b>
付属のデモディスクの演奏を聴いてみましょう(XC-2000fのみ) .....	9
<b>弾いてみましょう .....</b>	<b>10</b>
<b>1. 音色を選びます .....</b>	<b>10</b>
音色グループから音色を選ぶには .....	10
2つの[音色セレクター]を同時に鳴らすには .....	11
<b>2. 音色に残響や広がりを与えます .....</b>	<b>12</b>
音に残響を与えます .....	12
音に広がりを与えます .....	12
音の明るさを調節します .....	12
<b>3. ペダルを使った効果 .....</b>	<b>13</b>
ソフトペダル .....	13
ソステヌートペダル .....	13
ダンパーペダル .....	13
レイヤー時のペダルの設定 .....	13
<b>4. メトロノームに合わせて演奏します .....</b>	<b>14</b>
メトロノームを鳴らします .....	14
テンポを調節します .....	14
拍子を設定します .....	14
音量を調節します .....	15
拍子のアクセント音を選択します .....	15
音色などが思うとおりに設定できないときは .....	15

5. 鍵盤のタッチ感を変えます .....	16
6. 弾きやすく、歌いやすくします(移調) .....	17
7. 音程のずれを微調整します .....	18
"ヘルツ"単位と"セント"単位を切り替えるには .....	18
8. 音律を選びます .....	19
キー(調)を設定するには .....	20

## 演奏を録音/再生してみましょう..... 21

1. 演奏を録音します .....	21
2. 演奏を再生します .....	24
演奏の速さ(テンポ)を変えるには .....	24
音色を変えるには .....	24
演奏する小節を移動するには .....	25
演奏を繰り返し聴くには .....	25
3. アンサンブルを楽しむには .....	27
パートごとの音量を調節するには .....	27
マイナスワン演奏をするには .....	28
GMスコアを作るには(XC-2000fのみ) .....	28
4. 録音した演奏データのタイミングを整えるには .....	29
5. 2つのパートの演奏データを1つのパートにまとめるには .....	30
6. ソング/パートを消去します .....	31
ソングを消去します .....	31
パートを消去します .....	31
7. いくつかの録音方法 .....	32
録音モードの設定 .....	32
上書き .....	32
重ね書き .....	32
自動パンチイン/アウト .....	33
手動パンチイン/アウト .....	33
録音可能なメモリーの残量表示 .....	34

## XC-2000fのさまざまな機能..... 35

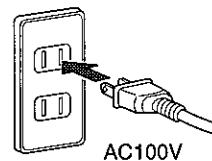
1. ディスクのフォーマット(初期化) .....	35
2. 演奏データをフロッピーディスクに保存します(セーブ) .....	36
3. フロッピーディスクから演奏データを読み込みます(ロード) ..	37
4. スタンダードMIDIファイルを再生します .....	38
5. スタンダードMIDIファイルを読み込みます .....	40
6. 演奏データをSMFにしてフロッピーディスクに保存します .....	41
7. マイクを接続して歌ってみましょう .....	42
8. 鍵盤のタッチの重さを変えます .....	43

他の機器との接続 .....	44
1. シンセサイザーやオーディオ機器との接続 .....	44
2. MIDI機器との接続 .....	45
MIDIとは? .....	45
MIDI端子の接続 .....	45
MIDIチャンネルの設定 .....	46
ローカルオン/オフの設定 .....	47
プログラムフィルターの設定 .....	47
コントロールチェンジの設定 .....	48
本体レコーダーの演奏データをデータファイラーに保存します .....	48
本体レコーダーと外部MIDI機器との同期 .....	49
3. コンピュータとの接続 .....	50
IBM PC (互換機)との接続 .....	51
Apple Macintoshとの接続 .....	51
NEC PC-98 シリーズとの接続 .....	51
資料 .....	52
1. ST-3000 (付属) スタンドの組み立て方 .....	52
2. PC-3000 (付属) イスの組み立て方 .....	54
3. KORG MIDI Driverのインストールとセットアップ .....	55
KORG MIDI DriverのWindows 3.1へのインストール .....	55
KORG MIDI Driver (Windows) のセットアップ .....	56
KORG MIDI DriverのWindows95へのインストール .....	57
KORG MIDI DriverのWindows95のセットアップを変更する場合 .....	58
KORG MIDI DriverのMacintoshへのインストール .....	59
KORG MIDI Driver (Macintosh) のセットアップ .....	59
4. MIDIインプリメンテーション .....	62
MIDIインプリメンテーションチャート .....	64
5. 音色グループリスト .....	65
[GM] 音色リスト (XC-2000fのみ) .....	65
[BASS] 音色リスト (XC-1000のみ) .....	65
[DRUM KIT] (ドラムキット) マップ .....	66
6. 操作スイッチ機能一覧 .....	68
7. LED 画面のメッセージ .....	70
8. 設定の初期化 .....	72
9. 故障とお思いになる前に .....	72
10. 索引 .....	74
11. 仕様 .....	75
アフターサービス .....	76

## 1. 演奏するための準備

### 電源コードを差し込みます

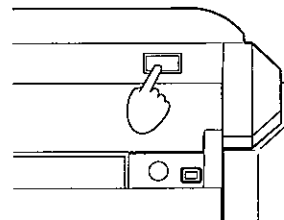
- 電源コードのプラグをコンセントに差し込みます。  
必ずAC100Vの電源コンセントに差し込んでください。



### 電源をオンにします

- **[POWER]** スイッチを押して、電源をオンにします。  
電源をオンにすると、正面左側にある**[POWER]** ランプが点灯します。  
⚠ このときペダルの初期化も行っていますので、**LED**画面に数字が表示されるまではペダルを踏まないでください。

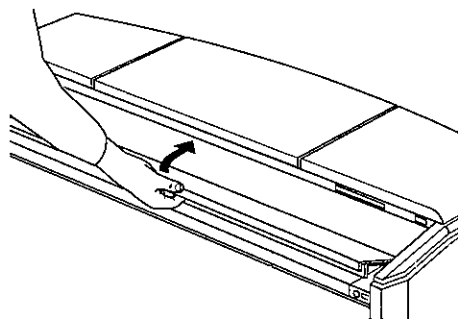
電源をオフにするときはもう一度**[POWER]** スイッチを押します。  
電源をオフにすると、正面左側にある**[POWER]** ランプが消灯します。



### キーカバーを開けます

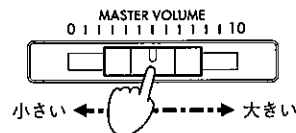
- ヘリの中央部分を軽く持ち上げて支えながら、静かに奥の方へスライドさせます。  
キーカバーを開けるときは、ヘリの中央部分を軽く持ち、前方へスライドさせます。(スライドさせ始めるときには多少の力を要します。)  
⚠ 開閉中は指や手を挟まないように十分注意してください。

無理な力を加えたり、乱暴に開閉しますと、故障の原因になることがあります。また、キーカバーを開けるときは、必ずヘッドホンおよびマイク(XC-2000fのみ)を端子から抜いてください。ヘッドホンやマイクを接続したままキーカバーを開けると、ピアノ本体やヘッドホン、マイク等の故障の原因となります。



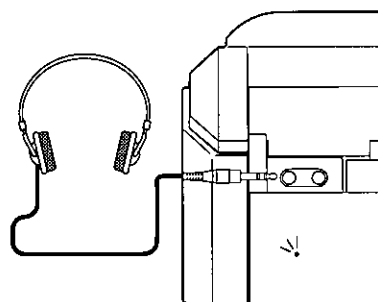
### 音量を調節します

- **[MASTER VOLUME]** スライダーを中程まで上げておきます。  
スライダーを右に動かすと音量が大きくなり、左に動かすと音が小さくなります。“0”の位置では音が出ません。実際に弾きながら、適度な音量に調節してください。  
[MASTER VOLUME] スライダーは、本体のスピーカーとヘッドホン端子、リアパネルの**[OUTPUT]** 端子から出力される音量をコントロールします。



### ヘッドホンを使うときは

- 本体左側にある**[PHONES]** 端子に、ステレオヘッドホンのミニプラグを差し込みます。  
ヘッドホン差し込むと、本体のスピーカーからは音が出なくなります。夜間などの周囲へ伝わる音量が気になるときは、ヘッドホンをお使いください。  
ヘッドホン端子は2つありますので、二人で演奏を聴くことができます。

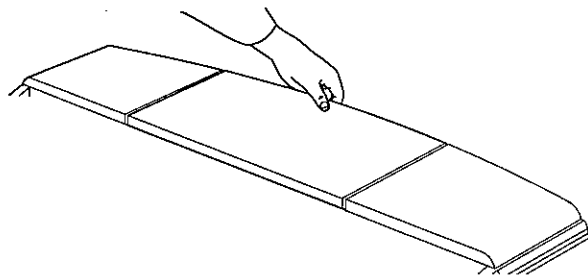




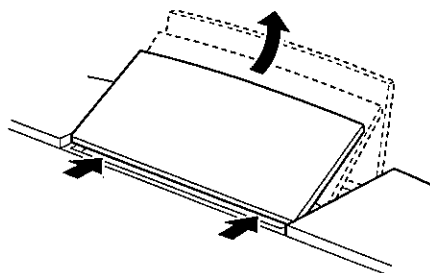
## 譜面立てを使うときは

### ● 譜面立ての立て方

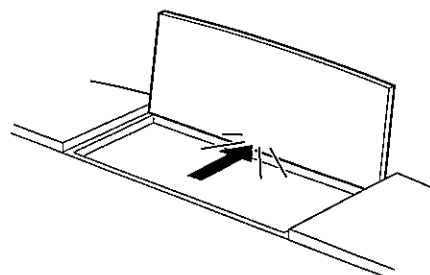
1. 譜面立てのリア側の中央を持ちます。



2. 上に引き上げるようにして、譜面立てをスライドさせます。

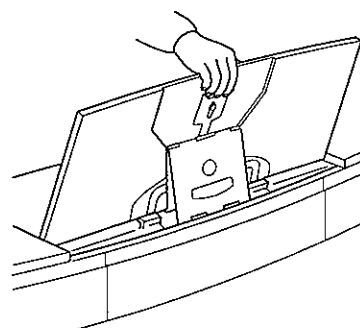


3. 最後まで引き上げたら、矢印部分を「カチャッ!」と音がするまで押してください。譜面立てがロックされます。

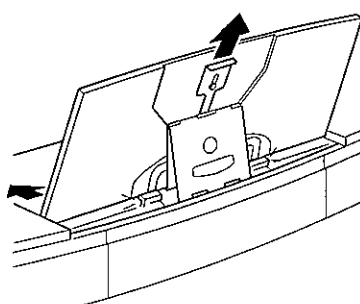


### ● 譜面立ての倒し方

1. 譜面立て裏側の中央にあるレバーを持ちます。



2. レバーを握るようにして引き上げます。そして譜面立てを押し下げるようにして譜面立て下部を前に動かし、ロックを解除します。



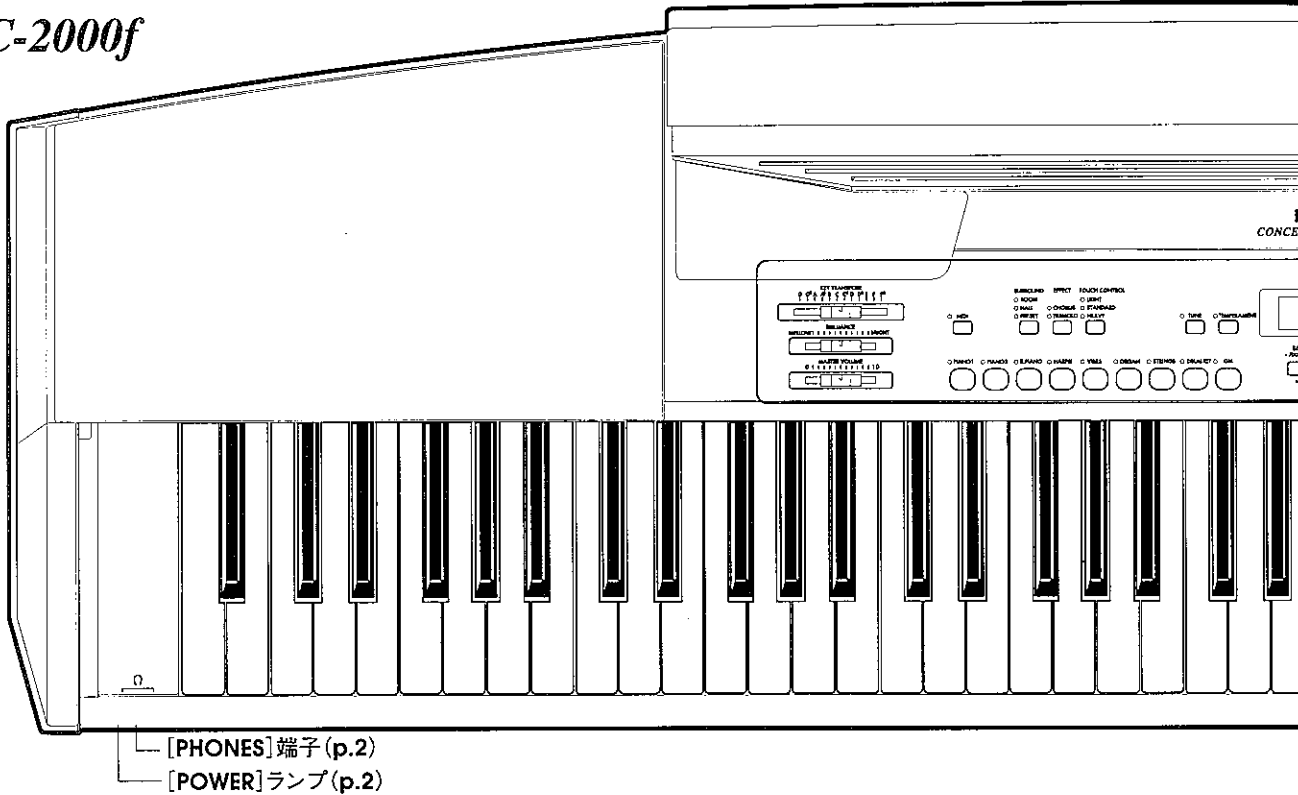
3. あとは、軽く上から押し込むようにして倒します。



指や手を挟まないように十分注意してください。

## 2. 各部の名称とその機能

### XC-2000f



#### MIDI(ミディ)

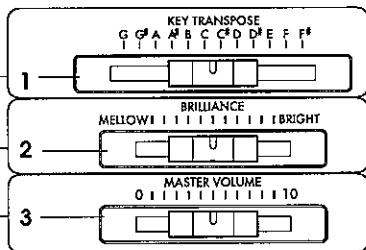
MIDIのさまざまな設定や他のスイッチと組み合わせていろいろな機能を設定するスイッチです。

4. [MIDI] (ミディ) スイッチ (p.68)

#### キートランスポーズ

移調を設定するスライダーです。

1. [KEY TRANSPOSE] スライダー (p.17)



#### マスターボリューム

スピーカーやヘッドホンから出る音量をコントロールするスライダーです。

3. [MASTER VOLUME] スライダー (p.2)

#### ブリリアンス

音色の明るさをコントロールするスライダーです。

2. [BRILLIANCE] スライダー (p.12)

#### タッチコントロール

鍵盤タッチによる音量変化の度合を設定するスイッチです。

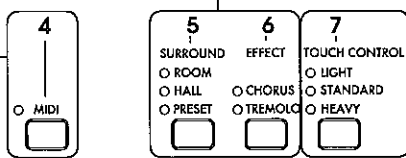
7. [TOUCH CONTROL] スイッチ (p.16)

#### サラウンド、エフェクト

音色にさまざまな効果を加えるスイッチです。

5. [SURROUND] スイッチ (p.12)

6. [EFFECT] スイッチ (p.12)



#### チューン

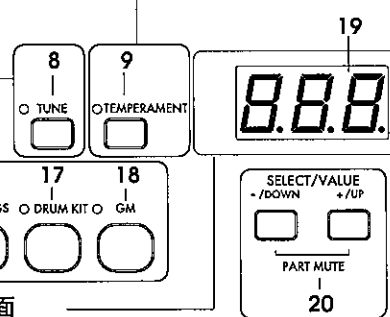
ピッチ (音程) を調整するスイッチです。

8. [TUNE] スイッチ (p.18)

#### テンペラメント

古典調律など音律を選択するスイッチです。

9. [TEMPERAMENT] スイッチ (p.17)



#### LED 画面

テンポや音色番号などを表示します。

19. LED 画面

#### セレクト/バリュー

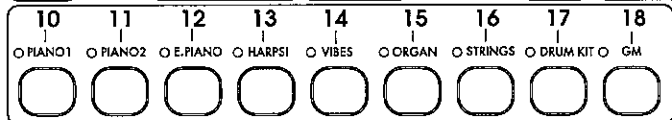
LED 画面の中の値などを設定するスイッチです。

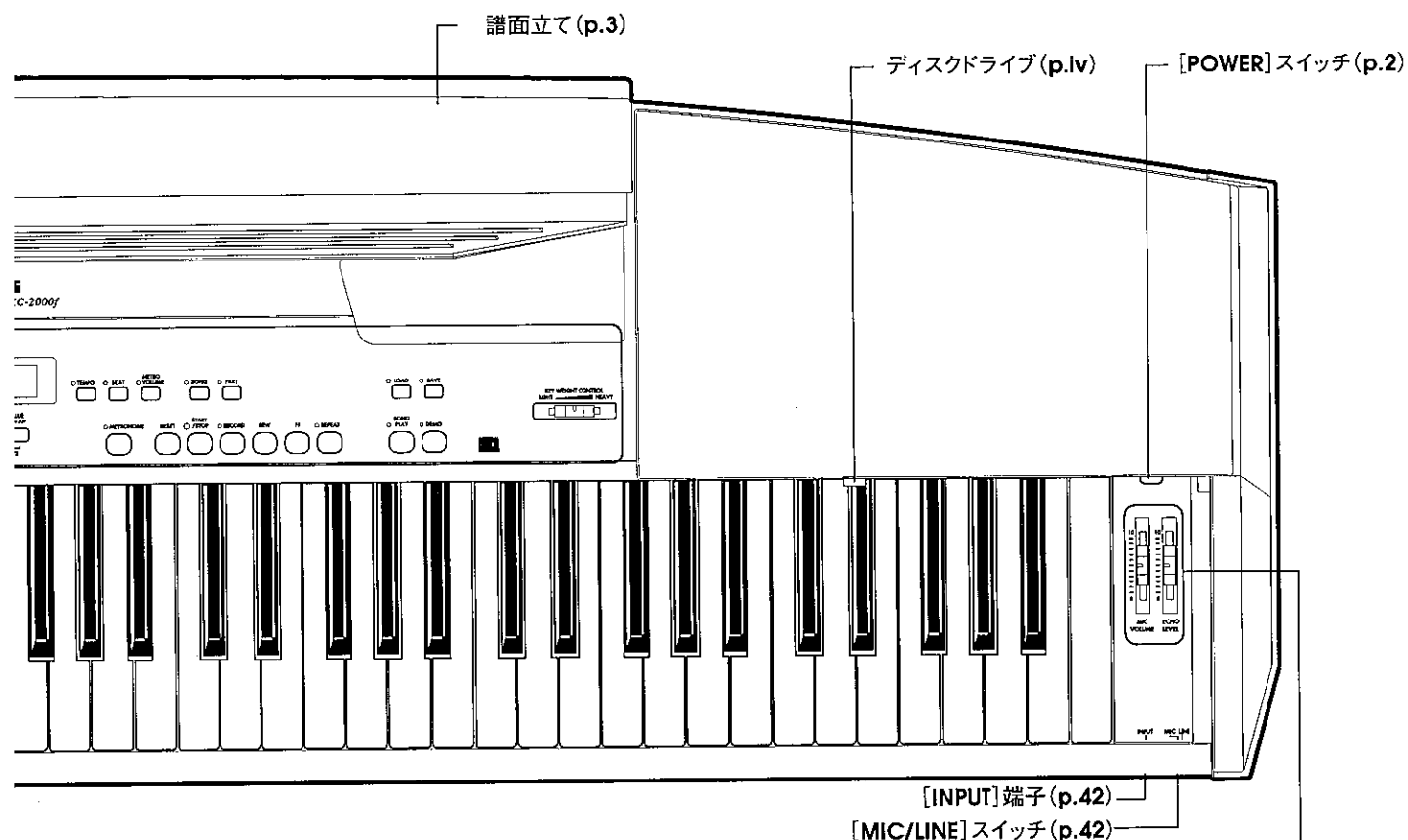
20. [+ / UP] スイッチ, [- / DOWN] スイッチ

#### 音色セレクト

音色を選択するスイッチです。

10. [PIANO1] スイッチ, 11. [PIANO2] スイッチ, 12. [E.PIANO] スイッチ, 13. [HARPSI] スイッチ, 14. [VIBES] スイッチ, 15. [ORGAN] スイッチ, 16. [STRINGS] スイッチ, 17. [DRUM KIT] スイッチ, 18. [GM] スイッチ (p.10)





## テンポ、ビート、メトロボリューム

メトロノームの各値を設定するスイッチです。

21. [TEMPO] スイッチ, 22. [BEAT] スイッチ (p.14), 23. [METRO VOLUME] スイッチ (p.15)

## ソング、パート

レコーダー使用時やソングプレイ時にソング(曲)やパートの番号を選択するスイッチです。

24. [SONG] スイッチ, 25 [PART] スイッチ (p.21~)

## ロード、セーブ

演奏データをフロッピーディスクから読み込んだり、フロッピーディスクに保存するスイッチです。

33. [LOAD] スイッチ (p.37, 40), 34. [SAVE] スイッチ (p.36, 41)

## マイクボリューム、エコーレベル

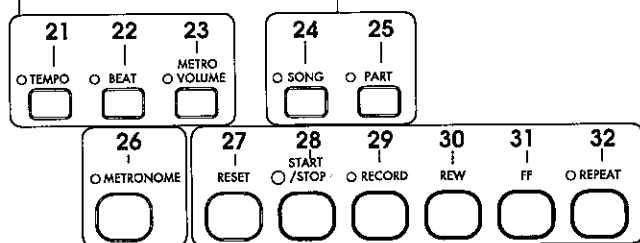
[INPUT] 端子にマイクを接続してカラオケなどを楽しむときに、マイクの音量や、エコーのかかりぐあいを調節するスライダーです。

[MIC VOLUME] スライダー, [ECHO LEVEL] スライダー (p.42)

## キーウエイトコントロール

鍵盤のタッチの重さを設定するスライダーです。

37. [KEY WEIGHT CONTROL] スイッチ (p.43)



## レコーダー

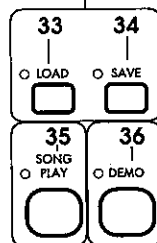
演奏を録音/再生するときに使用するスイッチです。

27. [RESET] スイッチ, 28. [START/STOP] スイッチ, 29. [RECORD] スイッチ, 30. [REW] スイッチ, 31. [FF] スイッチ, 32. [REPEAT] スイッチ (p.21~)

## メトロノーム

メトロノームをスタート/ストップするスイッチです。

26. [METRONOME] スイッチ (p.14)



## デモ

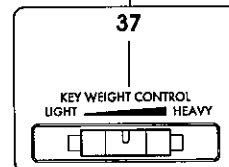
本体に内蔵されているデモ演奏を再生するスイッチです。

36. [DEMO] スイッチ (p.8)

## ソングプレイ

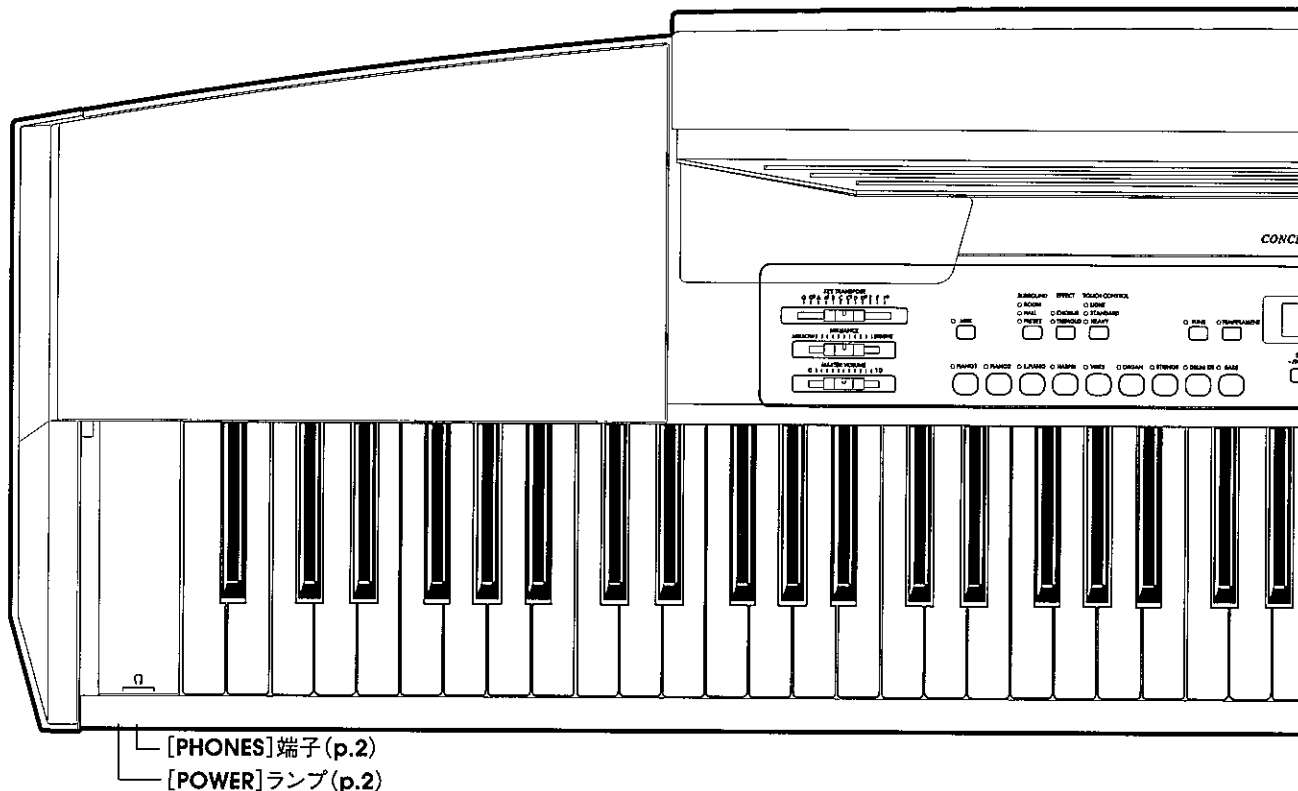
スタンダードMIDIファイルのソングファイルを再生するスイッチです。

35. [SONG PLAY] スイッチ (p.38)



GENERAL MIDI

## XC-1000



### MIDI (ミディ)

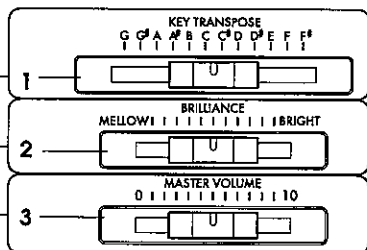
MIDIのさまざまな設定や他のスイッチと組み合わせていろいろな機能を設定するスイッチです。

4. [MIDI] (ミディ) スイッチ (p.68)

### キートランスポーズ

移調を設定するスライダーです。

1. [KEY TRANSPOSE] スライダー (p.17)



### マスターボリューム

スピーカーやヘッドホンから出る音量をコントロールするスライダーです。

3. [MASTER VOLUME] スライダー (p.2)

### ブリリアンス

音色の明るさをコントロールするスライダーです。

2. [BRILLIANCE] スライダー (p.12)

### タッチコントロール

鍵盤タッチによる音量変化の度合を設定するスイッチです。

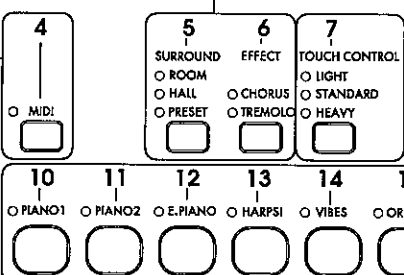
7. [TOUCH CONTROL] スイッチ (p.16)

### サラウンド、エフェクト

音色にさまざまな効果を加えるスイッチです。

5. [SURROUND] スイッチ (p.12)

6. [EFFECT] スイッチ (p.12)



### 音色セクター

音色を選択するスイッチです。

10. [PIANO1] スイッチ, 11. [PIANO2] スイッチ, 12. [E.PIANO] スイッチ, 13. [HARPSI] スイッチ, 14. [VIBES] スイッチ, 15. [ORGAN] スイッチ, 16. [STRINGS] スイッチ, 17. [DRUM KIT] スイッチ, 18. [BASS] スイッチ (p.10)

### チューン

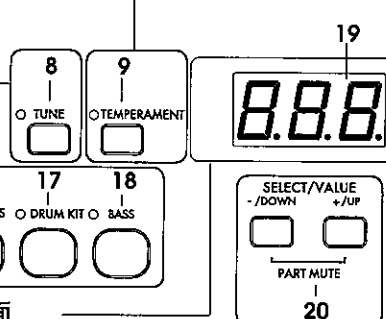
ピッチ (音程) を調整するスイッチです。

8. [TUNE] スイッチ (p.18)

### テンペラメント

古典調律など音律を選択するスイッチです。

9. [TEMPERAMENT] スイッチ (p.17)



### LED 画面

テンポや音色番号などを表示します。

19. LED 画面

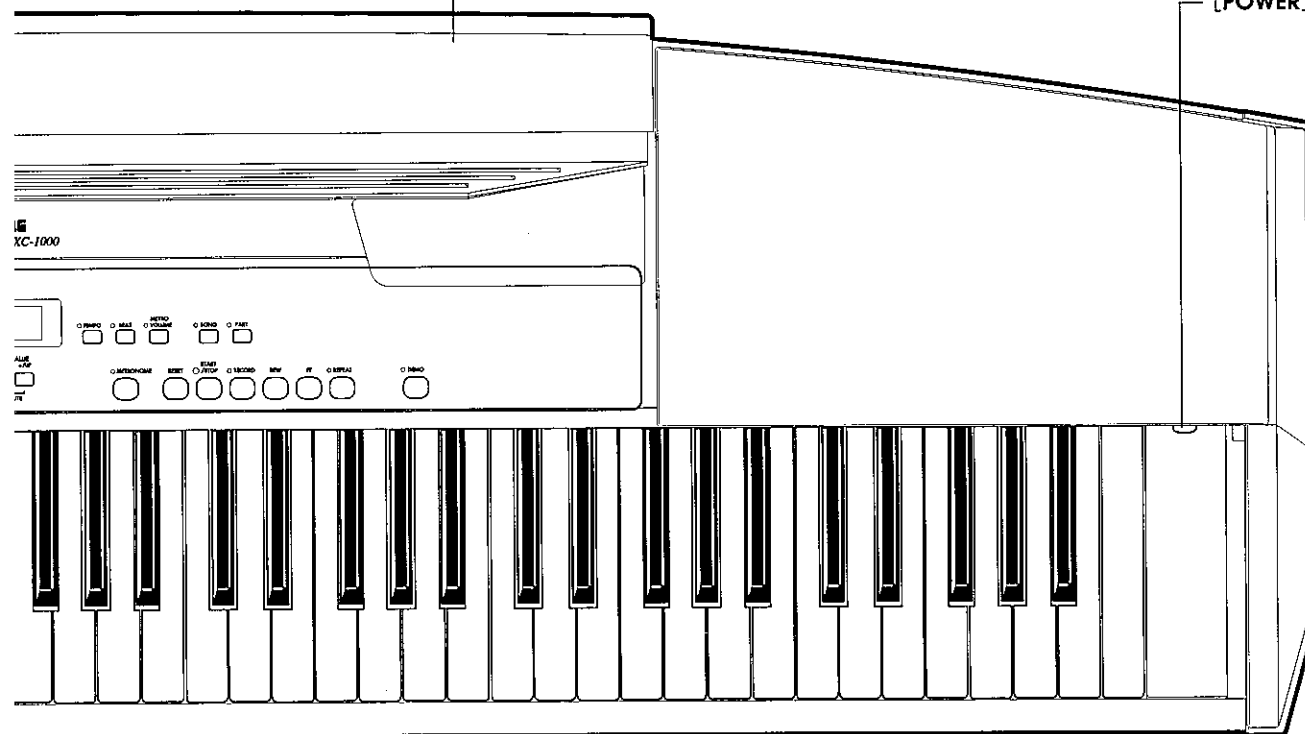
### セレクト/バリュー

LED 画面の中の値などを設定するスイッチです。

20. [+ /UP] スイッチ, [- /DOWN] スイッチ

譜面立て(p.3)

[POWER]スイッチ(p.2)



## テンポ、ビート、メトロボリューム

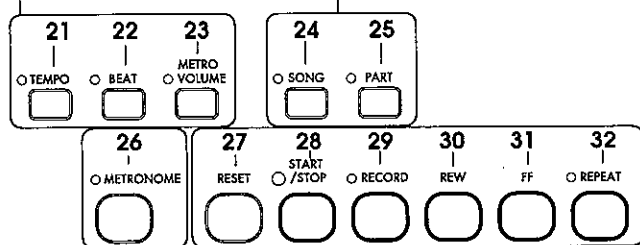
メトロノームの各値を設定するスイッチです。

21. [TEMPO]スイッチ, 22. [BEAT]スイッチ(p.14),  
23. [METRO VOLUME]スイッチ(p.15)

## ソング、パート

レコーダー使用時やソングプレイ時にソング(曲)やパートの番号を選択するスイッチです。

24. [SONG]スイッチ, 25 [PART]スイッチ(p.21~)



## レコーダー

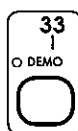
演奏を録音/再生するときに使用するスイッチです。

27. [RESET]スイッチ, 28. [START/STOP]スイッチ,  
29. [RECORD]スイッチ, 30. [REW]スイッチ,  
31. [FF]スイッチ, 32. [REPEAT]スイッチ(p.21~)

## メトロノーム

メトロノームをスタート/ストップするスイッチです。

26. [METRONOME]スイッチ(p.14)



## デモ

本体に内蔵されているデモ演奏を再生するスイッチです。

33. [DEMO]スイッチ(p.8)

### 3. デモ演奏を聴いてみましょう

デモ演奏を本体に5曲内蔵しています。デモ演奏を聴いてXC-2000f/XC-1000の豊かな音色とその表現力を確認してください。

1. **[DEMO]** スイッチを押します。

[DEMO]スイッチ左上のランプと[SONG]スイッチ左上のランプが点灯して、LED画面にデモ曲の番号(d01)が表示されます。



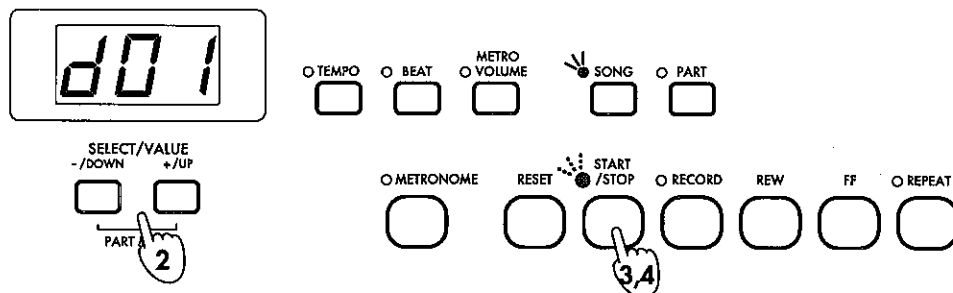
2. 聴きたい曲番号を**[+/UP]**スイッチまたは**[-/DOWN]**スイッチを押して選びます。

番号	曲 名
d01	G.ガーシュイン／ラブソディー・イン・ブルー
d02	F.ショパン／ボロネーズ イ長調「軍隊」Op.40-1
d03	KORGオリジナル／Splendid View
d04	KORGオリジナル／Ragtime Paradise
d05	F.リスト／愛の夢 第3番

3. **[START/STOP]** スイッチを押すと、デモ演奏が始まります。

[START/STOP]スイッチ左上のランプが曲のテンポに合わせて点滅します。

選んだデモ曲から順番に、全曲を繰り返し再生します。

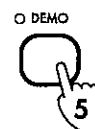


4. 演奏を止めたいときは**[START/STOP]**スイッチを押します。


[START/STOP]スイッチ左上のランプが消灯します。

5. デモ演奏を聴き終えたら、演奏されていないときに**[DEMO]**スイッチを押します。

[DEMO]スイッチ左上のランプが消灯します。



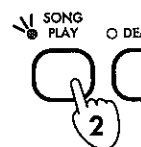
## 付属のデモディスクの演奏を聴いてみましょう(XC-2000fのみ)

 ここでの操作を行う前に「ディスクドライブをお使いになる前に」(ivページ)をお読みください。

1. 付属のデモディスクをXC-2000fのディスクドライブに挿入します。

2. [SONG PLAY]スイッチを押します。

[SONG PLAY]スイッチ左上のランプと[SONG]スイッチ左上のランプが点灯し、ディスクを認識後、LED画面にはフロッピーディスクに収録されているデモ演奏の曲番号(F01)が表示されます。



3. 聴きたい曲番号を[+/UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、選びます。

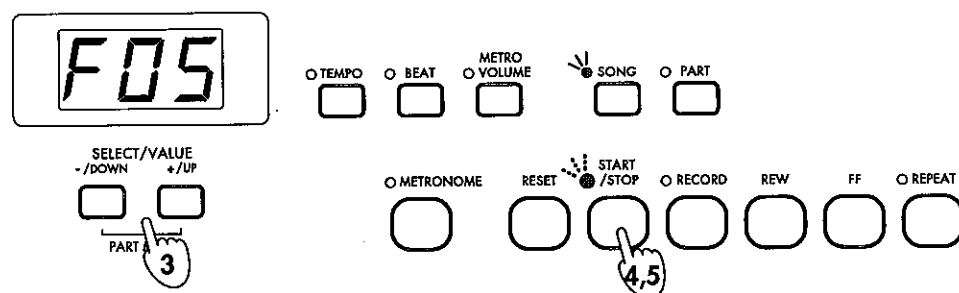
番号	曲 名
F01	G.ガーシュイン／ラプソディー・イン・ブルー
F02	F.ショパン／ボロネーズ イ長調「軍隊」Op.40-1
F03	KORGオリジナル／Splendid View
F04	KORGオリジナル／Ragtime Paradise
F05	F.リスト／愛の夢 第3番
F06	M.ムソルグスキー／展覧会の絵〜プロムナード
F07	J.シュトラウス1世／T.アレキサンダー：編曲／ラデツキー行進曲 Op.228
F08	T.アレキサンダー／Classifallo

F01～F05は、内蔵のデモ演奏と同じ内容です。

4. [START/STOP]スイッチを押すと、デモ演奏が始まります。

[START/STOP]スイッチ左上のランプが曲のテンポに合わせて点滅し始めます。

選んだ曲の再生が終わると、自動的に次の番号の曲が再生されます。F08番の曲まで再生し終わると止まります。

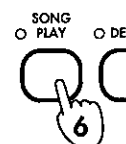


5. 演奏を終了するときは[START/STOP]スイッチを押します。

[START/STOP]スイッチ左上のランプが消灯します。

6. デモ演奏を聴き終えたら、演奏されていないときに[SONG PLAY]スイッチを押します。

[SONG PLAY]スイッチ左上のランプが消灯します。



 付属のデモディスクに収録されているソングファイルは独自のフォーマットで保存されています。

### ソングプレイについて

スタンダードMIDIファイル(SMF)などのソングファイルを、フロッピーディスクから直接読み込んで再生します。オプションのKORG SMF/GMライブラリーや市販のSMF/GMデータなどもこのソングプレイモードで手軽に再生することができます(38ページ参照)。マイクをXC-2000fの正面右側の[INPUT]端子に接続して、これらの演奏に合わせてカラオケを楽しむことができます(42ページ参照)。

# 弾いてみましょう

## 1. 音色を選びます

XC-2000f には143音色、XC-1000には16音色が内蔵されています。

- [音色セクター]を押して、弾きたい音色を選びます。  
選んだ[音色セクター]左上のランプが点灯し、その音色で演奏することができます。

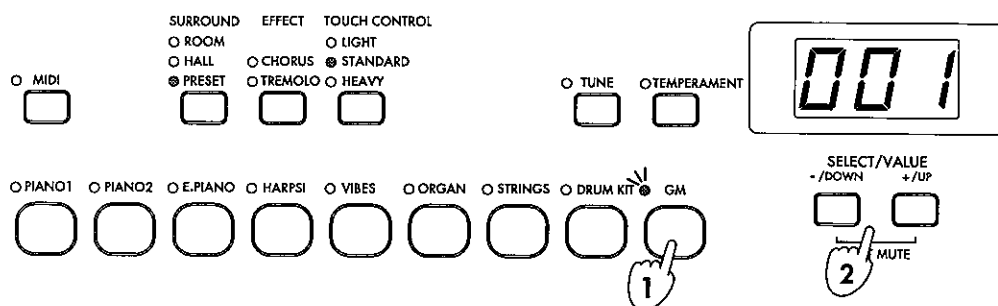


※図はXC-2000fです。

### 音色グループから音色を選ぶには

XC-2000f の[DRUM KIT]と[GM]、XC-1000の[BASS]には複数の音色が入っています。そのなかから1つの音色を選び、演奏することができます。

- 複数の音色が入っている[音色セクター]を押します。  
選んだ[音色セクター]左上のランプが点灯し、LED画面には現在選ばれている音色番号が表示されます。
- [+/UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、音色を選びます。  
音色のリストは65ページをご覧ください。[+/UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを1回押すたびに音色番号が1ずつ増減します。また、現在選んでいる(左上のランプが点灯している)[音色セクター]を押しながら[+/UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押すと、音色番号が10ずつ増減します。10以上の音色番号がない音色では最後の番号が選ばれます。



音色	XC-1000	XC-2000f	音の特徴
PIANO1 (ピアノ1)	○	○	広がり感のある豊かなアコースティックピアノの音
PIANO 2 (ピアノ2)	○	○	落ち着いた感じのアコースティックピアノの音
E. PIANO (エレクトリックピアノ)	○	○	軽やかで透明感のあるエレクトリックピアノの音
HARPSI (ハーブシコード)	○	○	クラシックな趣のある繊細なハーブシコードの音
VIBES (ビブラフォン)	○	○	まろやかなビブラフォンの音
ORGAN (オルガン)	○	○	荘厳なパイプオルガンの音
STRINGS (ストリングス)	○	○	バイオリンなどの弦楽器によるアンサンブルの音
DRUM KIT (ドラムキット)	○	○	XC-1000はGM(ジェネラルミディ)に準拠したGM Kitの1音色 XC-2000fは前述のGM Kitと独自構成による7ドラムキットの合計8音色
GM (ジェネラルミディ)		○	GMに準拠した128音色
BASS (ベース)	○		アコースティックベースやシンセベースなどの8種類のベース音



 [PIANO1]と、[GM] (XC-2000fのみ)と[BASS] (XC-1000のみ)の一部の音色 (65ページ参照)では最大同時発音数は16音になります。それ以外の音色では32音です。

● 電源オン時の音色は、XC-2000fは[PIANO1]が選ばれます。XC-1000は電源オフ直前に設定していたソング1のパート1の音色が選ばれます。

(例)

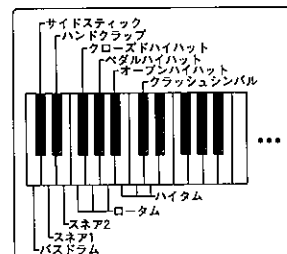
**DRUMKIT (ドラムキット)とは?**

鍵盤ごとにスネアやハイハットなどのドラムサウンドを右図のように割り当てたものです。

**GM (ジェネラルミディ)とは?**



XC-2000fはGMシステムに準拠しています。GM (General MIDI System Level 1)とは、メーカーや機種を越えて音源の音色配列などを標準化するために定められた世界標準の規定です。GMに準拠したMIDI音源、曲データには“GM”マークが付けられており、このマークが付いた曲データであれば、“GM”マークの付いたどの音源でも、ほぼ正確な演奏を再現することができます。XC-2000fでは[GM]の128個の音色、[DRUMKIT]の“01” (GM Kit)の音色がそれに当たります。

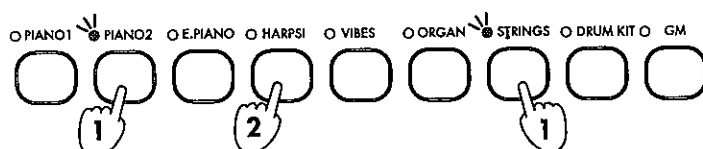


## 2つの[音色セクター]を同時に鳴らすには

1つの鍵盤を打鍵したときに、2つの[音色セクター]の音色 (たとえば[PIANO2]と[STRINGS])を同時に鳴らすことができます。これをレイヤー機能といいます。

1. 組み合わせたい2つの[音色セクター]の一方を押しながら、もう一方を押します。

選んだ2つの[音色セクター]左上のランプが点灯し、打鍵時には両方の音色が同時になります。



[DRUM KIT]は選べません。

はじめに押した[音色セクター]の[SURROUND]と[EFFECT]の効果 (12ページ参照) がかけられます。レイヤーにすると、同時に2つの音色を発音するため、最大同時発音数が少なくなります。本体レコーダーを使う際に、レイヤーを選ぶといくつかの制約を受けます。24ページをご覧ください。

2. [音色セクター]を一つだけ押すと、レイヤーが解除されます。

二つの音色の音量バランスを変えるには

● 音量を小さくしたいほうの[音色セクター]を押しながら、音量を大きくしたい[音色セクター]を繰り返し押します。



押すたびに繰り返し押している[音色セクター]の音色の音量が大きくなります。

● ボリュームバランスは、レイヤーを解除したあとでも記憶されています。

## 2. 音色に残響や広がりを与えます

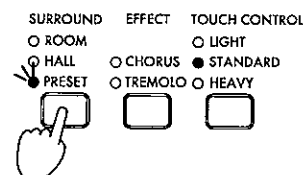
### 音に残響を与えます

[音色セレクター]で選んだ音色に残響を与え、心地よいサウンドにします。(サラウンド効果)

- [SURROUND]スイッチを押して、加えたい効果を選びます。

押すたびにスイッチ左上のランプが次々に点灯して効果が加わります。

サラウンド	効果の特徴
ROOM (ルーム)	小さな部屋の中で演奏を聴いているときの響きが得られます。
HALL (ホール)	コンサートホールの客席で演奏を聴いているときの響きが得られます。
PRESET (プリセット)	各音色に最適な効果が得られます。[PIANO1]または[PIANO2]を選び、ダンパーペダルを踏むとアコースティックピアノの響きをシミュレートした共鳴効果が得られます。また[GM] (XC-2000fのみ)の音色では“PRESET”に設定すると特に効果的です。
OFF (オフ:ランプ消灯)	サラウンド効果はかかりません。



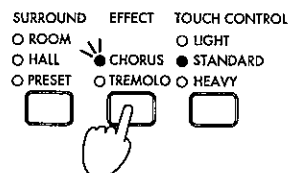
### 音に広がりを与えます

[音色セレクター]で選んだ音色にうねりを与え、広がりのある豊かな響きにします。(モジュレーション効果)

- [EFFECT]スイッチを押して、加えたい効果を選びます。

押すたびにスイッチ左上のランプが次々に点灯して効果が加わります。

エフェクト	効果の特徴
CHORUS (コーラス)	音が広がるような効果が得られます。
TREMOLO (トレモロ)	左右に音が行き交うような効果が得られます。
OFF (ランプ消灯)	モジュレーション効果はかかりません。



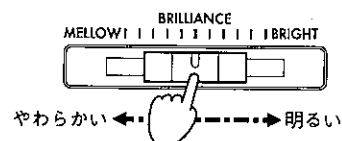
[SURROUND]で“PRESET”を選ぶと[EFFECT]スイッチのランプが消灯し、[SURROUND]と同様に、音色に最適な効果がかけられます。

[SURROUND]と[EFFECT]の効果は[音色セレクター]ごとに設定することができます。以後その[音色セレクター]を選ぶたびに、自動的に同じ効果が設定されます。

- XC-2000fは電源オフ直前に[PIANO1]に設定していた効果(サラウンドとエフェクト)が選ばれます。XC-1000は電源オフ直前のソング1のパート1に設定していた効果が選ばれます。

### 音の明るさを調節します

[BRILLIANCE]スライダーを右(“BRIGHT”)側に動かすと音が明るい感じの音になり、左(“MELLOW”)側に動かすとやわらかい感じの音になります。



### 3. ペダルを使った効果

XC-2000f/XC-1000fには、ダンパー、ソステヌート、ソフトの3種類のペダルがあります。これらのペダルを使って演奏に効果を出します。

#### ソフトペダル

ペダルを踏んでいる間は音がやわらかくおとなしい感じになります。ペダルを踏み込む深さで音のやわらかさを変化させることができます（ハーフペダル効果）。

#### ソステヌートペダル

ペダルを踏んだときに押えられていた鍵盤の音だけにダンパー効果がかり、踏んでいる間はその音だけが長く伸びます。ペダルを踏んでいる間に新たに弾いた音には効果はかかりません。

#### ダンパーペダル

ペダルを踏んでいる間は音が長く伸び、余韻のある豊かな響きになります。ペダルを踏み込む深さでダンパーのかかり具合を変化させることができます（ハーフペダル効果）。

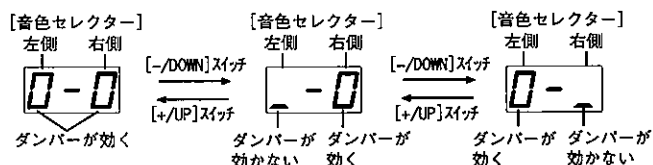
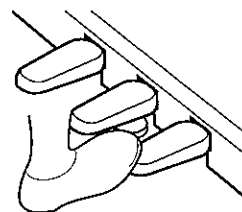
[PIANO 1]と[PIANO 2]の音色のときに[SURROUND]を“PRESET”にすると、ペダルを踏み込んだときにアコースティックピアノの弦の響きをシミュレートした共鳴効果が得られます。

### レイヤー時のペダルの設定

レイヤー時の二つの音色のうち、どちらの音色にダンパーペダルの効果をかけるかを設定します。たとえばピアノの音色にダンパーペダルの効果をかけ、ストリングスの音色にはダンパーペダルの効果をかけないで演奏することができます。

1. [MIDI]スイッチを押しながら、ダンパーペダルを踏みます。

[MIDI]スイッチ左上のランプが点灯し、LED画面に次のように表示されます。



LED画面の左が[音色セクター]の左側の設定で、右が[音色セクター]の右側の設定です。  
“0”でダンパーが効き、“-”がダンパーが効きません。


2. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、設定を選びます。

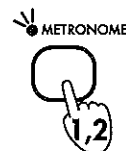
⦿ 電源を再度オンすると2つの[音色セクター]にダンパー効果がかけられます。

## 4. メトロノームに合わせて演奏します

正確なテンポに合わせて演奏するときなどにメトロノームを使います。  
このメトロノームは次章で説明するレコーダーの拍子やテンポの基準になります。

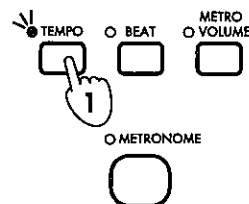
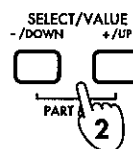
### メトロノームを鳴らします

1. **[METRONOME]**スイッチを押すと、メトロノームがスタートします。  
[METRONOME]スイッチ左上のランプが点灯します。
  2. もう一度**[METRONOME]**スイッチを押すと、メトロノームがストップします。  
[METRONOME]スイッチ左上のランプが消灯します。
-  メトロノームを鳴らすと、メトロノーム用に1音使われるため、最大同時発音数が1音分少なくなります。



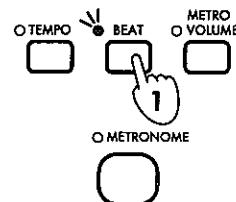
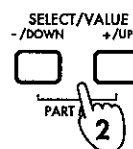
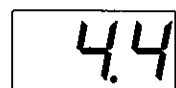
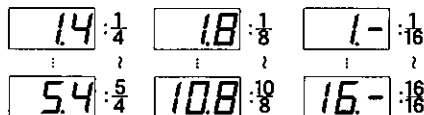
### テンポを調節します

1. **[TEMPO]**スイッチを押します。  
左上のランプが点灯して、LED画面に現在のメトロノームのテンポが表示されます。設定できる範囲は♩=30～250です。
2. **[+/UP]**スイッチまたは**[-/DOWN]**スイッチを押して、テンポを調節します。  
[+/UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを1回押すたびに数値が1ずつ増減します。押し続けると連続的に増減します。また、[TEMPO]スイッチを押しながら[+/UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押すと、数値が10ずつ増減します。




### 拍子を設定します

1. **[BEAT]**スイッチを押します。  
[BEAT]スイッチ左上のランプが点灯して、LED画面に現在のメトロノームの拍子が表示されます。設定できる拍子は、1/4～5/4、1/8～10/8、1/16～16/16です。次のように表示されます。



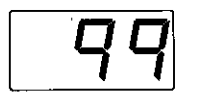
2. **[+/UP]**スイッチまたは**[-/DOWN]**スイッチを押して、拍子を設定します。  
[+/UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを1回押すたびに値が1ずつ増減します。押し続けると連続的に増減します。

 テンポ、拍子は各ソングごとに設定されます。

## 音量を調節します

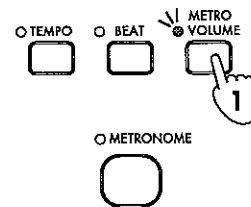
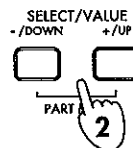
1. [METRO VOLUME]スイッチを押します。

[METRO VOLUME]スイッチ左上のランプが点灯して、LED画面に現在のメトロノームの音量が表示されます。設定できる音量は0(最小)~127(最大)です。



2. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、音量を調節します。

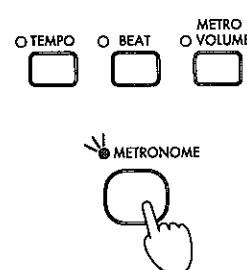
[+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを1回押すたびに数値が1ずつ増減します。押し続けると連続的に増減します。また、[METRO VOLUME]スイッチを押しながら[+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押すと、数値が10ずつ増減します。




## 拍子のアクセント音を選択します

拍子のアクセント音(強拍)をベルの音か通常のメトロノーム音にするか、またはアクセント音の鳴らない(弱拍のみ)ようにします。

- [MIDI]スイッチを押しながら[METRONOME]スイッチを押すと、押すたびに設定が次のように切り替わります。  
[MIDI]スイッチを押している間、[MIDI]スイッチ左上のランプが点灯し、[METRONOME]スイッチ左上のランプが設定によって点灯、消灯または点滅します。



アクセント音	ランプ
ベルの音	点灯
通常のメトロノーム音	消灯
アクセント音無し	点滅


 アクセント音にベルを選ぶとパート16がミュートされます。

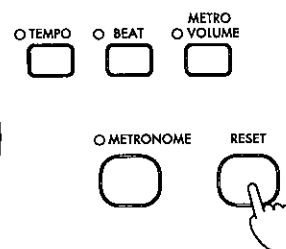
- 電源を立ち上げ直すと、XC-2000fはテンポ“120”、拍子“4/4”、音量“127”に設定されます。アクセント音については電源オフ直前の設定を記憶しています。XC-1000はこれらについて電源オフ直前の設定を記憶しています。

## 音色などが思うとおりに設定できないときは

XC-2000f/XC-1000のさまざまな機能を使い進めていくうちに、音色が思うとおりに設定できなくなることがあるかもしれません。そのようなときは次の操作(初期化)をしてから音色などを選び直してください。この操作をしたときに設定し直される内容については72ページをご覧ください。

- [MIDI]スイッチを押しながら、[RESET]スイッチを押します。

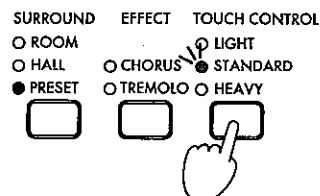
 上の操作をすると、ペダルの設定も初期化されますので、操作中はペダルを踏まないでください。



## 5. 鍵盤のタッチ感を変えます

鍵盤を弾く強さによる音の強弱の変化の度合いを設定します。これをタッチコントロール機能といいます。

- [TOUCH CONTROL] スイッチを押すたびに、設定が順番に切り替わります。



タッチコントロール 説明

<b>LIGHT</b>	弱く弾いてもフォルテシモ ( <i>ff</i> ) が出せるタッチです。	
<b>STANDARD</b>	通常のピアノタッチです。 XC-2000fでは、キーウェイトコントロール(43ページ参照)を“LIGHT”にすると、標準的なオルガンやシンセサイザーのタッチになります。“HEAVY”のとき通常のピアノタッチになります。	
<b>HEAVY</b>	強く弾かないとフォルテシモが出せないタッチです。ピアノシモ ( <i>pp</i> ) からフォルテシモまでダイナミックに表現できます。	

- ☞ 電源を入れた直後は、自動的に“STANDARD”に設定されます。

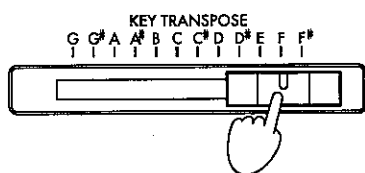
この機能では鍵盤自体のタッチの重さは変わりません。XC-2000fではキーウェイトコントロールにより鍵盤自体のタッチの重さを変えることができます(43ページ参照)。

## 6. 弾きやすく、歌いやすくします(移調)

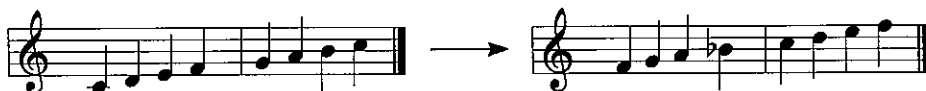
黒鍵を多く押さえるような弾きにくい曲や、キー(調)が低すぎたり高すぎたりして他の楽器や歌に演奏が合わせられないときなどに、キーを変える(移調する)ことによって、黒鍵をあまり使わない指使いで演奏したり、覚えたそのままの指使いで他の楽器や歌に演奏を合わせることができるようになります。これをキートランスポーズ機能といいます。

● [KEY TRANSPOSE] スライダーを移調したいキーに移動します。

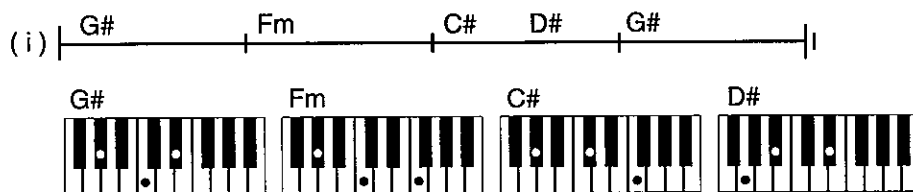
“C(ド)”の鍵盤に、[KEY TRANSPOSE] スライダーで設定したキーが割り当てられます。設定の範囲は、半音単位で11半音{G(-5)~F#(+6)}です。



例1) [KEY TRANSPOSE] スライダーを“F”に設定した場合、“C(ド)”の鍵盤を押すと“F(ファ)”の音で鳴ります。



例2) 黒鍵を多く使うコードをトランスポーズ機能を使って、これをもっと弾きやすい調に直します。



曲の全体を半音4つ分だけ高くすれば、コードは次のようになります。



こちらのほうがずっと弾きやすいですが、このまま弾くと当然もとの曲よりも高い音になってしまいます。XC-2000f/XC-1000から出る音の高さを逆に半音4つ分だけ低く、つまり[KEY TRANSPOSE] スライダーを“G#”に設定します。

例3) 曲の調子を半音上げて演奏するには、[KEY TRANSPOSE] スライダーを“C#”に設定します。半音下げる場合は“B”に設定します。

## 7. 音程のずれを微調整します

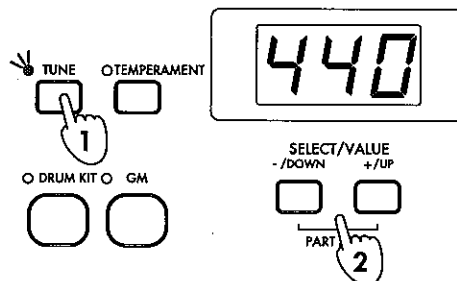
ピッチ(音程)の微調整を行ないます。他の楽器と合奏をするときなどに、楽器間の微妙な音程のずれを調整します。427~453Hz(ヘルツ)の範囲で設定できます。またもう少し細かく調整するために±50cent(セント)の範囲で設定もできます。

### 1. [TUNE]スイッチを押します。

[TUNE]スイッチのランプが点灯し、LED画面には現在のチューニング値が表示されます。

### 2. [+ /UP]スイッチまたは[- /DOWN]スイッチを押して、ピッチを調整します。

[+ /UP]スイッチまたは[- /DOWN]スイッチを1回押すたびに数値が1ずつ増減します。押し続けると連続的に増減します。



**Hz (ヘルツ):** 高さを示す絶対値の単位です。各楽器のピッチを合わせるために、ピアノの中央のA4(ラ)=440Hzが基準ピッチとして用いられています。この基準ピッチは地域や時代によって多少異なり、近年ではやや高めのピッチ(A4=441~444Hz)で調整されることが多くなってきています。

**cent(セント):** 音の高さの比率を示す最小の単位です。半音が100セント、1オクターブが1200セントです。1セントは非常に小さな単位ですので±3セント程度の差はあまり問題になりません。

## “ヘルツ”単位と“セント”単位を切り替えるには

### 1. [MIDI]スイッチを押しながら、[TUNE]スイッチを押します。

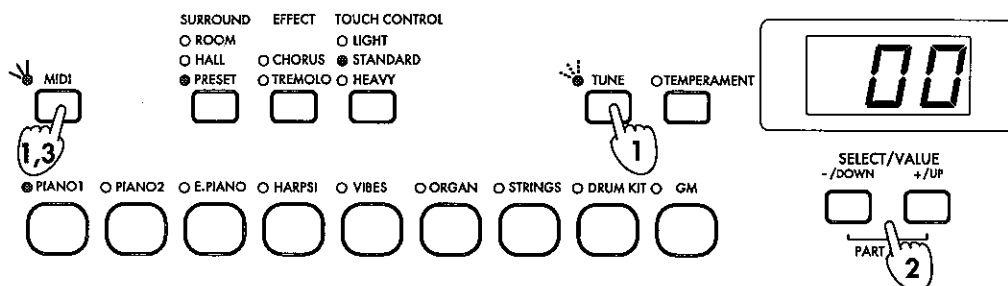
[MIDI]スイッチのランプが点灯し、[TUNE]スイッチのランプが点滅します。LED画面には現在のチューニング値(“セント”または“ヘルツ”)が表示されます。

### 2. [- /DOWN]スイッチを押すと“セント”単位に、[+ /UP]スイッチを押すと“ヘルツ”単位に切り替わります。

“セント”単位から“ヘルツ”単位の表示に切り替えると、現在の“セント”での設定に最も近い“ヘルツ”表示になり、チューニングの値もその高さになります。

### 3. チューニングする単位を選んだら、[MIDI]スイッチ(または[RESET]スイッチ)を押します。

[MIDI]スイッチと[TUNE]スイッチのランプが消灯し、“操作1”を行う前の設定画面に戻ります。そのため“操作1”を行う前に[TUNE]スイッチを押していれば[TUNE]スイッチのランプが点灯し、LED画面には切り替えた現在の単位が表示されます。



### 4. [TUNE]スイッチを押した後、[+ /UP]スイッチまたは[- /DOWN]スイッチを押して、チューニング値を調整します(上記操作参照)。

● チューニング値は、電源をオフにした後にも記憶されています。

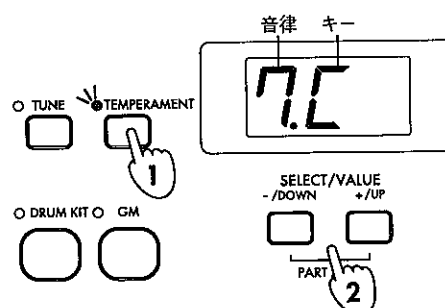


## 8. 音律を選びます

クラシック音楽には、古典的な調律法によって作曲された作品が数多く残っています。これらの曲の持つ本来の響きを再現するためにキルンベルガーやヴェルクマイスターなどの古典音律が用意されています。またその他にもアラビアやインドネシア特有の音律が用意されています。

### 1. [TEMPERAMENT]スイッチを押します。

[TEMPERAMENT]スイッチのランプが点灯し、現在選ばれている音律の番号がLED画面に表示されます。キー(調)の設定が必要な音律には音律番号の右側にキーが表示されます。



LED	音律名	キー	説明
0.	平均律		鍵盤楽器に最も幅広く用いられている通常の音律です。これは半音階が均等に配列されているため、どのキーでも均一のスケールで演奏することができます。
1.	平均律(ランダム)		平均律のピッチが若干不規則にずれます。音程が自然と不規則になりがちなアコースティック楽器を再現するのに向いています。
2.	純正律長音階	○	"キー"で設定した主調和音のメジャーコードが完全に調和する音律です。
3.	純正律短音階	○	"キー"で設定した主調和音のマイナーコードが完全に調和する音律です。
4.	アラビック(1/4)	○	アラビア音楽の1/4トーン音律です。 <b>rast do/bayati re</b> にはキーをC(ド)に、 <b>rast re/bayati mi</b> にはD(レ)、 <b>rast fa/bayati sol</b> にはF(ファ)、 <b>rast sol/bayati la</b> にはG(ソ)、 <b>rast si b/bayati do</b> にはA#(ラ#)を設定します。
5.	ピタゴラス	○	古代ギリシャの音律で、メロディー演奏に効果的です。
6.	ヴェルクマイスター	○	バロック時代の後期に用いられた平均律的な音律です。
7.	キルンベルガー	○	主にハーブシコードの調律に用いられている18世紀に考案された音律です。
8.	スレンドロ	○	1オクターブを5音で構成するインドネシアのガムラン音律です。キーがCのとき、C、D、F、G、A(ド、レ、ファ、ソ、ラ)の各鍵を使用します。
9.	ペログ	○	1オクターブを7音で構成するインドネシアのガムラン音律です。キーがCのとき、C、D、E、F、G、A、B(ド、レ、ミ、ファ、ソ、ラ、シ)の各鍵を使用します。

### 2. [+ /UP]スイッチまたは[- /DOWN]スイッチを押して、音律を選びます。

[+ /UP]スイッチまたは[- /DOWN]スイッチを1回押すたびに値が1ずつ増減します。押し続けると連続的に増減します。

## キー(調)を設定するには

前ページ表のキーの項目に“○”がついている音律では、演奏する曲の調に合った“キー”を設定します。

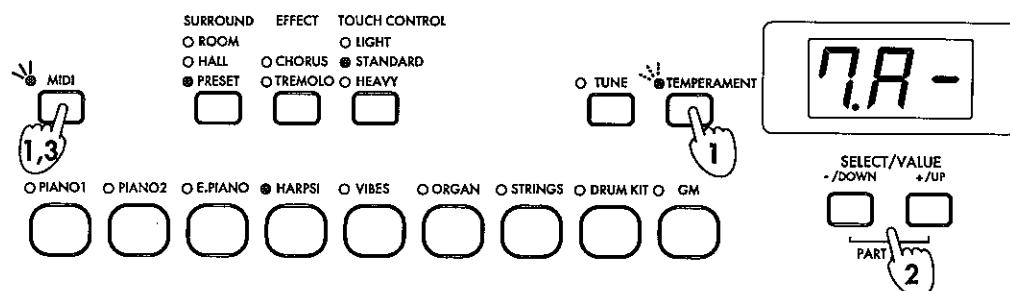
1. [MIDI]スイッチを押しながら、[TEMPERAMENT]スイッチを押します。

[MIDI]スイッチのランプが点灯し、[TEMPERAMENT]スイッチのランプが点滅します。LED画面には現在選ばれている音律の番号とキーが表示されます。

LED	キー	調	LED	キー	調
$\underline{C}$	C	ハ	$\underline{G}-$	G $\flat$ (#F)	変ト(嬰ヘ)
$\underline{d}-$	D $\flat$ (#C)	変ニ(嬰ハ)	$\underline{G}$	G	ト
$\underline{d}$	D	ニ	$\underline{A}-$	A $\flat$ (#G)	変イ(嬰ト)
$\underline{E}-$	E $\flat$ (#D)	変ホ(嬰ニ)	$\underline{A}$	A	イ
$\underline{E}$	E	ホ	$\underline{b}-$	B $\flat$ (#A)	変ロ(嬰イ)
$\underline{F}$	F	ヘ	$\underline{b}$	B	ロ

2. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、キーを設定します。

[+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを1回押すたびに値が1ずつ増減します。押し続けると連続的に増減します。



3. 設定が終わったら、[MIDI]スイッチ(または[RESET]スイッチ)を押します。

[MIDI]スイッチのランプが消灯し、操作“1”を行う前の設定画面に戻ります。

● 音律とキーは、電源をオフにした後にも記憶されています。


## ストレッチチューニングについて

[PIANO1]、[PIANO2]では、より自然な響きを得るために、平均律のピッチに対して低音域は低く、高音域は高いピッチに調整されています。


# 演奏を録音/再生してみましょう

## 1. 演奏を録音します

XC-2000f/XC-1000のレコーダーは、テープレコーダーを操作する手軽さで鍵盤の演奏を録音、再生することができます。10のソング(曲)を録音でき、1つのソングには16のパートがあります。これらのパートそれぞれに演奏を録音でき、それを同時に再生することができます。

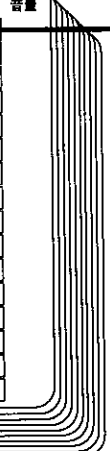
 工場出荷時にはメトロノームにベル音が設定されているため、パート16は使用できません。ベル音の設定を解除するとパート16が表示され、パート16の録音/再生が行えます(15ページ参照)。

● XC-2000fをご使用になる場合は、フロッピーディスクをディスクドライブにセットします。

 フロッピーディスクは市販の3.5インチのものをご使用ください(14ページ参照)。新しいフロッピーディスクをご使用になる場合は必ずフォーマットをしてください(35ページ参照)。

XC-2000fは電源をオフにするとレコーダーに録音した演奏データのすべてが失われてしまいます。そのため大切な演奏データはこまめに保存することをお勧めします。

初期化された  
ときの設定

ソング01 (合計10ソング)		音量
パート番号	音色	
パート1	PIANO1	
パート2	PIANO1	
パート3	PIANO1	
パート4	PIANO1	
パート5	PIANO1	
パート6	PIANO1	
パート7	PIANO1	
パート8	PIANO1	
パート9	PIANO1	
パート10	DRUM KIT (GM KIT)	
パート11	PIANO1	
パート12	PIANO1	
パート13	PIANO1	
パート14	PIANO1	
パート15	PIANO1	
パート16	PIANO1	



1. [SONG]スイッチを押します。

[SONG]スイッチ左上のランプが点灯し、LED画面に現在のソング番号(01~10)が表示されます。

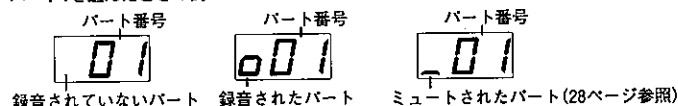
2. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、録音するソングを選びます。

[+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを1回押すたびにソング番号が1ずつ増減します。押し続けると連続的に増減します。

3. [PART]スイッチを押します。

[PART]スイッチ左上のランプが点灯し、LED画面に現在のパート番号(01~16)が表示されます。また、パート番号の左側に選ばれているパートの状態が表示されます。

パート1を選んだときの例

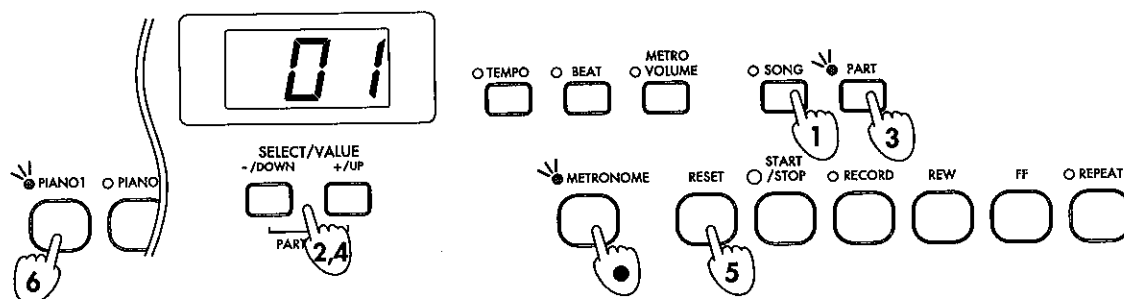


4. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、録音するパートを選びます。

通常は録音されていないパートを選びます。録音し直すときは録音された同じパートを選びます。押し続けると連続的に増減します。

5. [RESET]スイッチを押します。

[RESET]スイッチを押すと曲の最初に移動します。



6. [音色セクター]で音色を選びます。

再生時には、ここで選んだ音色が選ばれます。レイヤーにして録音する場合は24ページをご覧ください。

録音が始まってから[音色セクター]を押して音色を切り替えることができます。ただし、レイヤーは選べません。再生時には、録音中に[音色セクター]を押した位置で音色が自動的に切り替わります。

● メトロノームに合わせて演奏を録音する場合は、[METRONOME]スイッチを押して、メトロノームを鳴らしてください。

必要に応じて拍子、テンポやボリュームを調節してください(14ページ参照)。

● 録音する演奏のタイミングを補正(クオンタイズ)することができます。詳しくは29ページをご覧ください。

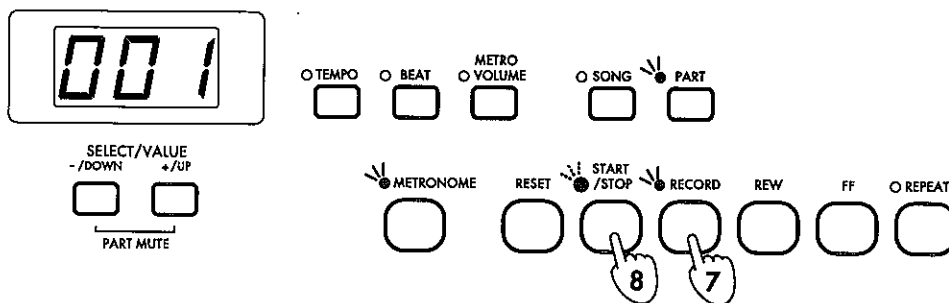
7. [RECORD]スイッチを押します。

[RECORD]スイッチ左上のランプが点灯します。この状態ではソング番号、パート番号を変更することはできません。変更する場合は、もう一度[RECORD]スイッチを押して録音待機の状態を解除してください。

8. 鍵盤を押すか、[START/STOP]スイッチを押すと、録音が始まります。

鍵盤を押すと、同時に録音が始まります。[START/STOP]スイッチを押すと、2小節のカウント(LED画面に“-02”→“-01”表示)後、録音が始まります。

録音している間は、[START/STOP]スイッチ左上のランプがテンポに合わせて拍子の頭では赤色に、それ以外では緑色に点滅します。

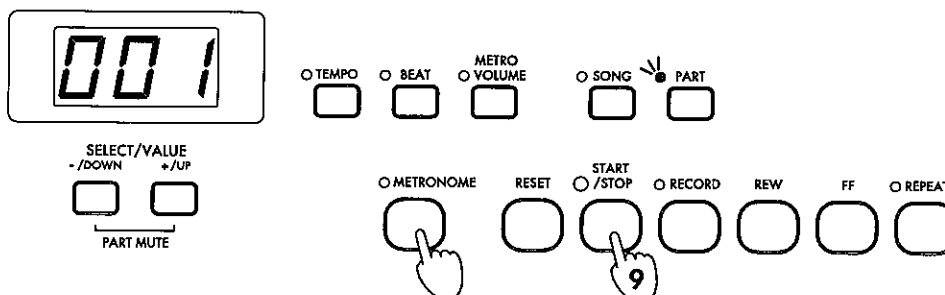


9. [START/STOP]スイッチを押すと、録音が終わります。

ここでの操作はXC-2000fとXC-1000とでは異なります。

☞ XC-1000の場合

[START/STOP]スイッチ左上のランプと[RECORD]スイッチのランプが消灯し、自動的に録音を開始した小節に移動します。メトロノームを鳴らしている場合は[METRONOME]スイッチを押してメトロノームを止めてください。



## XC-2000fの場合

[START/STOP]スイッチ左上のランプと[RECORD]スイッチのランプが消灯します。そして[SAVE]スイッチ左上のランプが点滅し、LED画面にはディスクを認識後、ファイル番号“F01”が表示され、今録音した演奏データをフロッピーディスクに保存するようにメッセージを出します。

フロッピーディスクが挿入されていないときは、LED画面に“nod”が表示され、[SAVE]スイッチ左上のランプが消灯します。

保存するには(フロッピーディスクがディスクドライブにセットされているときは)

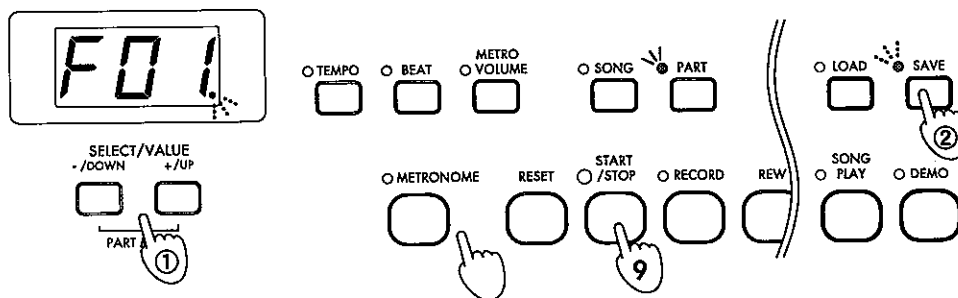
- ① [+ /UP]スイッチまたは[- /DOWN]スイッチを押して、保存するファイル番号をLED画面で選びます。

保存しようとしているファイル番号にデータがすでに入っている場合は、LED画面のファイル番号が点滅します。取っておきたいデータが入っている場合は、他のファイル番号を選んでから、次の操作②に進んでください。点滅しているファイル番号のファイルを消して、そのうえにファイルを保存してもよい場合は、そのまま次の操作②に進んでください。上書きした場合、元のファイル(1ファイルは10ソングです)は永久的に失われてしまいます。

- ② [SAVE]スイッチを押すと、保存が実行されます。

保存が終了すると[SAVE]スイッチ左上のランプが消灯し、自動的に一番始めの小節に移動します。メトロノームを鳴らしている場合は[METRONOME]スイッチを押してメトロノームを止めてください。

フロッピーディスクをディスクドライブに挿入していないときは36ページをご覧ください。



保存しないときは

- [RESET](または[MIDI])スイッチを押します。

[START/STOP]スイッチ左上のランプが消灯し、自動的に一番始めの小節に移動します。メトロノームを鳴らしている場合は[METRONOME]スイッチを押してメトロノームを止めてください。録音を開始した小節から演奏を確認したいときは[RESET]スイッチを押さずに、そのまま[START/STOP]スイッチを押してください。

## XC-2000fでの録音後の注意

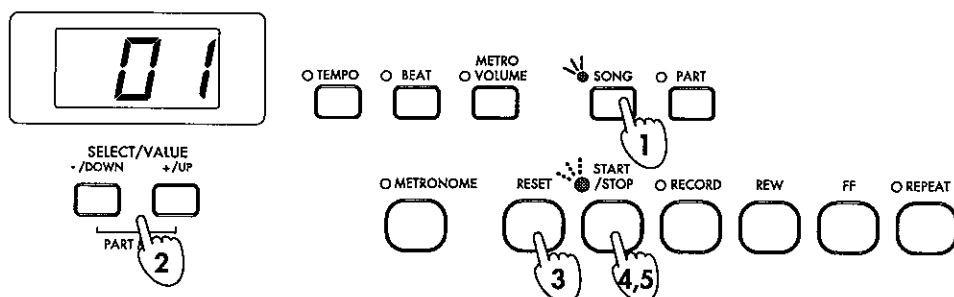
XC-2000f のレコーダーに録音した演奏データは次の操作を行うと失われます。大切な演奏データは本体のフロッピーディスクやデータファイラーに保存してください(36、48 ページ参照)。

- ・ 電源をオフにする。
- ・ フロッピーディスクから曲を読み込む(37、40ページ参照)。
- ・ ソングプレイでフォーマット1のデータを再生する(38ページ参照)。

XC-1000は電源を切っても演奏データは保存されています。

## 2. 演奏を再生します

1. **[SONG]**スイッチを押します。  
[SONG]スイッチ左上のランプが点灯し、LED画面に現在のソング番号(01~10)が表示されます。
2. **[+/UP]**スイッチまたは**[-/DOWN]**スイッチを押して、再生するソングを選びます。
3. **[RESET]**スイッチを押します。  
[RESET]スイッチを押すと、小節の最初にに戻ります。
4. **[START/STOP]**スイッチを押すと、演奏が始まります。  
再生されている間は[START/STOP]スイッチ左上のランプがテンポに合わせて点滅します。



5. **[START/STOP]**スイッチを押すと、演奏が停止します。  
[START/STOP]スイッチ左上のランプが消灯します。また、ソングのデータがすべて再生し終わっても同様に演奏が停止して[START/STOP]スイッチ左上のランプが消灯します。

### 演奏の速さ(テンポ)を変えるには

[TEMPO]スイッチを押した後、[+/UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押してLED画面に表示されるテンポを変えます(14ページ参照)。曲のテンポを変えてもピッチ(音の高さ)は変化しません。

### 音色を変えるには

録音したときの音色と違う音色で演奏を再生することができます。そのパートで再生したい音色を[音色セクター]を押して選びます。ただし、録音中に[音色セクター]を押して音色を切り替えた場合は、その位置で自動的に録音中に選んだ音色に切り替わります。



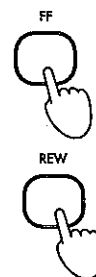
#### レイヤーを選んだときの注意

- ・レイヤーにすると、次の番号のパート(パート1をレイヤーにしたときはパート2)の演奏データは再生されなくなり、そのパートを選ぶことができなくなります。レイヤーを解除すると再生およびパートを選べるようになります。
- ・パート16(メトロノームにベル音を選んでいる場合はパート15)を選んでいるときにはレイヤーにできません。
- ・レイヤーにした2つのパートは、同じMIDIチャンネルになります。そのためMIDIプログラムチェンジを受信すると両方のパートが同じ音色になります。

### 演奏する小節を移動するには

[FF]スイッチを押すとLED画面に現在の小節が表示されます。小節表示後、[FF]スイッチを押すたびに、1小節単位で次の小節に進みます。押し続けると連続して小節が進みます。再生中に押すと移動中は音が出ません。

[REW]スイッチを押すとLED画面に現在の小節が表示されます。小節表示後、[REW]スイッチを押すたびに、1小節単位で前の小節に戻ります。押し続けると連続して小節に戻ります。再生中に押すと移動中は音が出ません。

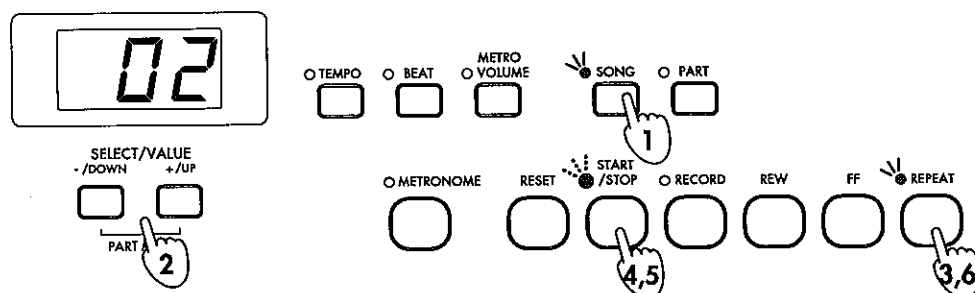


### 演奏を繰り返し聴くには


録音した曲全体や曲のある区間を繰り返し再生します。そのため一曲を続けて何回も聴きたいときや、演奏のむずかしい部分を繰り返し練習するときなどに便利です。

#### 1曲全体のリピート

1. [SONG]スイッチを押します。  
[SONG]スイッチ左上のランプが点灯し、LED画面に現在のソング番号が表示されます。
2. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、リピート再生するソング番号を選びます。
3. [REPEAT]スイッチを押します。  
[REPEAT]スイッチ左上のランプが点灯します。
4. [START/STOP]スイッチを押すと、1曲全体を繰り返し再生します。  
[START/STOP]スイッチ左上のランプがテンポに合わせて点滅します。



5. [START/STOP]スイッチを押すと、演奏が停止します。  
[START/STOP]スイッチ左上のランプが消灯します。
6. リピート演奏を解除するには、演奏が停止しているときに[REPEAT]スイッチを押します。  
[REPEAT]スイッチ左上のランプが消灯します。

 再生中には[REPEAT]スイッチをオフにすることができません。

### A-B区間のリピート

1. [SONG]スイッチを押します。

[SONG]スイッチ左上のランプが点灯し、LED画面に現在のソング番号が表示されます。

2. [+ /UP]スイッチまたは[- /DOWN]スイッチを押して、リピート再生するソング番号を選びます。

3. [START/STOP]スイッチを押して、演奏を再生します。

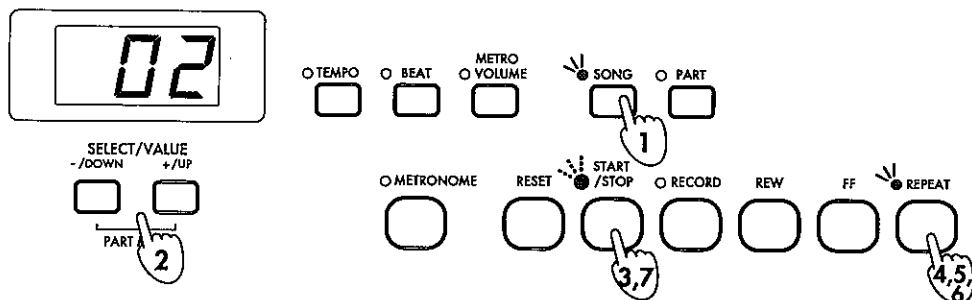
[START/STOP]スイッチ左上のランプがテンポに合わせて点滅します。

4. リピートを開始したいところで、[REPEAT]スイッチを押します。

[REPEAT]スイッチ左上のランプが点滅します。“開始小節”が設定されました。

5. さらに再生を続けて、リピートを終了したいところで[REPEAT]スイッチを押します。

[REPEAT]スイッチ左上のランプが点灯します。“終了小節”が設定され、区間内を繰り返し再生し始めます。



6. リピート区間の設定を解除するには、もう一度[REPEAT]スイッチを押します。

再生中に[REPEAT]スイッチを繰り返し押すと“開始小節”→“終了小節”→“設定解除”→“開始小節”というように順に設定されていきます。

7. [START/STOP]スイッチを押すと、演奏が停止します。

[START/STOP]スイッチ左上のランプが消灯します。



リピート区間の“開始点”と“終了点”はメトロノームで設定している小節単位で行われます。そのため、聴きながら設定した位置より実際の開始点は前に、終了点は後ろになる場合があります。

A-B区間のリピート中は、[REW]スイッチ、[FF]スイッチで小節を移動することができません。



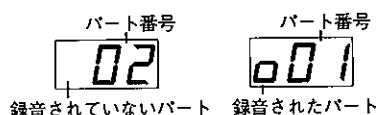
### 3. アンサンブルを楽しむには

すでに録音したパートを再生しながら、新たに別のパートに演奏を録音することができます。右手と左手の演奏を片手ずつ別々のパートに録音したり、ベースやドラムスなどの演奏を各パートに録音して、多彩なアンサンブルを楽しむことができます。

アンサンブル例

パート番号	音色	音量
パート1	PIANO1 右手	
パート2	PIANO1 左手	
パート3	Jazz Drm	
パート4	EPIANO	
パート5	STRINGS	
パート6	ORGAN	
パート7	PIANO1	
パート8	PIANO1	
パート9	PIANO1	
パート10	DRUM KIT OM KX	
パート11	PIANO1	
パート12	PIANO1	
パート13	PIANO1	
パート14	PIANO1	
パート15	PIANO1	
パート16	PIANO1	

1. **[SONG]**スイッチを押します。  
スイッチ左上のランプが点灯し、LED画面に現在のソング番号(01~10)が表示されます。
2. **[+/UP]**スイッチまたは**[-/DOWN]**スイッチを押して、アンサンブルを録音するソングを選びます。
3. **[PART]**スイッチを押します。  
[PART]スイッチ左上のランプが点灯し、LED画面に現在のパート番号(01~16)とパート番号の左側に選ばれているパートの状態が表示されます。



4. **[+/UP]**スイッチまたは**[-/DOWN]**スイッチを押して、録音されていないパートを選びます。
5. 「1. 演奏を録音します」(21 ページ)の操作“5”からを参照して、すでに録音を済ませた演奏を聴きながら追加するパートを録音してください。

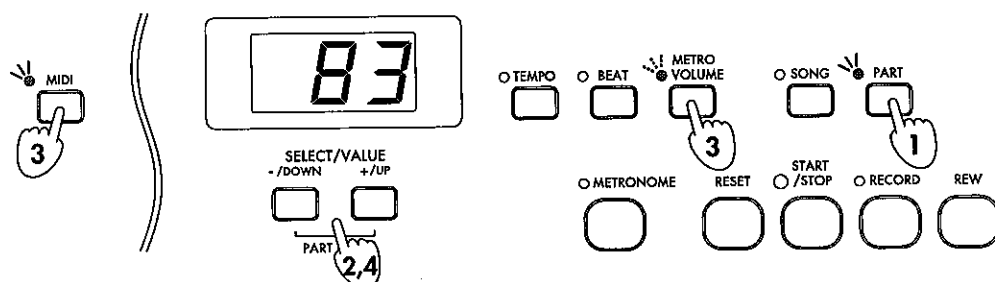


現在選んでいるパートの**[SURROUND]**、**[EFFECT]**の効果がすべてのパートにかかります。

#### パートごとの音量を調節するには

複数のパートのそれぞれの音量を調節して、演奏のバランスを整えます。

1. **[PART]**スイッチを押します。  
[PART]スイッチ左上のランプが点灯します。
2. **[-/DOWN]**スイッチまたは**[+/UP]**スイッチを押して、音量を調節するパートを選びます。
3. **[MIDI]**スイッチを押しながら、**[METRO VOLUME]**スイッチを押します。  
[MIDI]スイッチ左上のランプが点灯し、[METRO VOLUME]スイッチ左上のLEDが点滅します。LED画面には現在のパートの音量が0(最小)~127(最大)で表示されます。
4. **[-/DOWN]**スイッチまたは**[+/UP]**スイッチを押して、音量を調節します。



## マイナスワン演奏をするには

すでに録音をしてあるパートの演奏をミュート(音を一時的に消す)して、演奏やボーカルを加えることができます。これをマイナスワン演奏といいます。この操作は一時的に音を消すため「パートを消去します(31ページ参照)」のように永久的にデータを失うものではありません。また前ページの「パートごとの音量を調節するには」の操作で音量を「0」にすることができますが、この場合は鍵盤を弾いたときの音量も「0」になって音が鳴らなくなります。

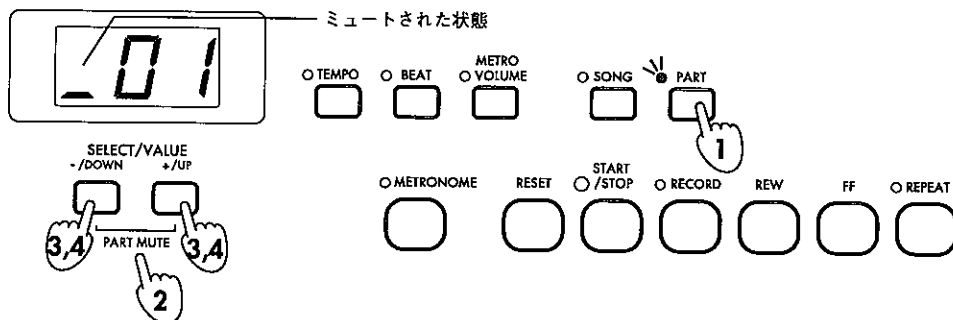
### 1. [PART]スイッチを押します。

[PART]スイッチ左上のランプが点灯し、LED画面に現在のパート番号(01~16)とパート番号の左側に選ばれているパートの状態(21ページ参照)が表示されます。

### 2. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、ミュートしたいパートを選びます。

### 3. [-/DOWN]スイッチと[+UP]スイッチを同時に押して、パートをミュートします。

LED画面の表示が図のように変わり、演奏データを再生するとこのパートは再生されません。



### 4. もう一度、[-/DOWN]スイッチと[+UP]スイッチを同時に押すと、ミュートが解除されます。

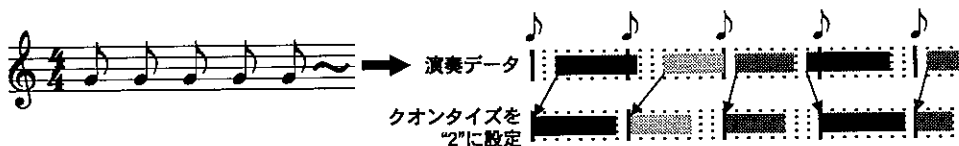
LED画面の表示と音量がミュート前の状態に戻ります。

## GMスコアを作るには(XC-2000fのみ)

XC-2000f で作った演奏データをスタンダードMIDIファイル(SMF)に変換する(41ページ参照)などとして、他のGM音源で演奏を聴くときには、ドラムパートにパート10(MIDIチャンネル10)を選び、[DRUM KIT]の「01」(GM Kit)を使用します。他の1~9, 11~16のパートには[GM]の中の音色を選んでください。このように設定することによって、他のGM音源でも同様の音色で再生することができます。[SURROUND]や[EFFECT]の設定は、他の音源では反映されません。

## 4. 録音した演奏データのタイミングを整えるには

演奏するタイミングを自動的に補正させながら録音することができます。これを(リアルタイム)クオンタイズ機能といいます。たとえば、メトロノームに合わせて演奏を譜面のように録音したとします。タイミングがずれてしまった場合に、この機能を使うと自動的に正確なタイミングに補正してくれます。音符は補正するタイミングの精度に対して近いほうへずれ、補正されます。下の例ではすべて8分音符ですのでクオンタイズを次の操作手順に沿って“2”=1/8に設定します。



1. 「1. 演奏を録音します」(21ページ)の操作“4”までを行います。

2. XC-2000fでは[MIDI]スイッチを押しながら、[GM]スイッチを押します。

XC-1000では[MIDI]スイッチを押しながら、[BASS]スイッチを押します。

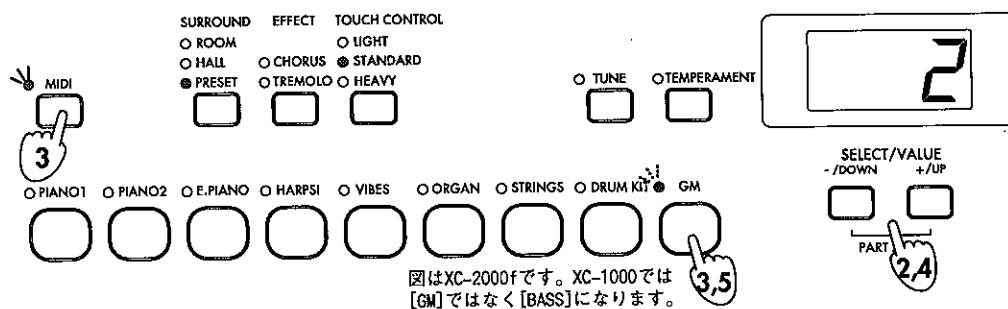
[MIDI]スイッチ左上のランプが点灯し、XC-2000fでは[GM]スイッチ、XC-1000では[BASS]スイッチ左上のランプが点滅します。LED画面にクオンタイズの精度が表示されます。

3. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、補正するタイミングの精度を選びます。

“96”にすると、補正を行わないで演奏したとおりに録音されます。“12”～“1”に設定すると、その音符単位でタイミングを補正します。“12”=1/8、“8”=1/4、“6”=1/8、“4”=1/4、“3”=1/8、“2”=1/4、“1”=1/2です。

例：“12”では32分音符の3連符単位でタイミングを補正し、“1”では4分音符単位でタイミングを補正します。

補正するタイミングの精度によって演奏が著しく変わる場合があります。適切なクオンタイズを選んでください。



4. 「1. 演奏を録音します」の操作“5”からを行い、録音をはじめてください。

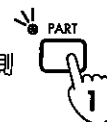
クオンタイズのタイミングはメトロノームの拍子とテンポに従います。[METRONOME]スイッチを押して、メトロノームをオンにしてから録音を始めてください。

## 5. 2つのパートの演奏データを1つのパートにまとめるには

2つのパートに別々に録音した演奏データを一方のパートにまとめることができます。これをバウンス機能といいます。データを一方のパートにまとめると、もう一方のトラックは自動的に空になり、新たにそのパートに録音することができます。

### 1. [PART]スイッチを押します。

スイッチ左上のランプが点灯し、LED画面に現在のパート番号(01~16)とパート番号の左側に選ばれているパートの状態(21ページ参照)が表示されます。



### 2. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、2つのパートのうち、データをまとめるほうのパート(バウンス先)を選びます。

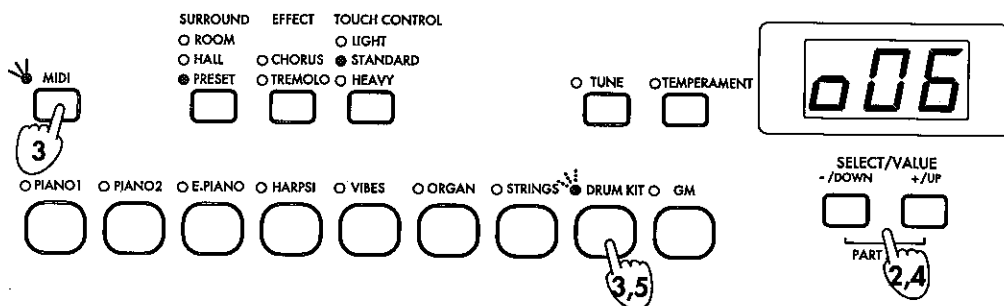
### 3. [MIDI]スイッチを押しながら、[DRUM KIT]スイッチを押します。

[MIDI]スイッチ左上のランプが点灯し、[DRUM KIT]スイッチ左上のランプが点滅します。

### 4. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、データをまとめるもう一方のパート(バウンス元)を選びます。

### 5. [DRUM KIT]スイッチを押すと、バウンス元のパートのデータが操作“2”で選んだパートに重ねられ、操作“4”で選んだパートは空になります。

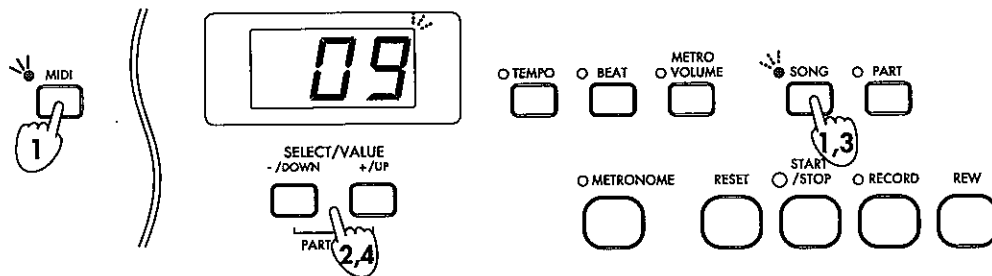
音色はバウンス先の音色になります。たとえば、ピアノ(バウンス先)とストリングス(バウンス元)とした場合、ピアノのパートに両方のデータがまとめられ、ピアノの音になります。



## 6. ソング/パートを消去します

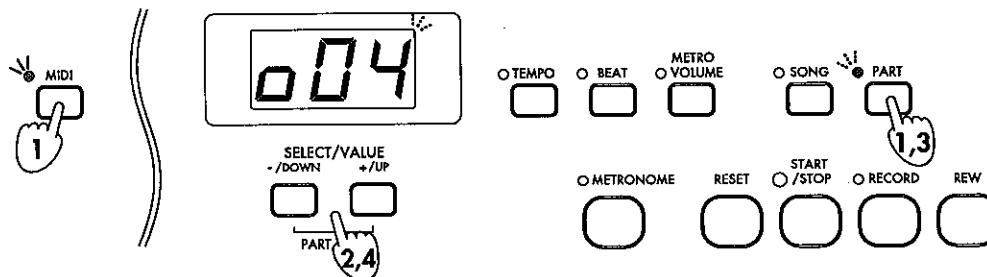
### ソングを消去します

1. **[MIDI]**スイッチを押しながら、**[SONG]**スイッチを押します。  
[MIDI]スイッチ左上のランプが点灯し、[SONG]スイッチ左上のランプとLED画面のソング番号が点滅します。
  2. **[+/UP]**スイッチまたは**[-/DOWN]**スイッチを押して、消したいソング番号を選びます。
  3. **[SONG]**スイッチを押すと、選んだソングデータが消去されます。  
[MIDI]スイッチ左上のランプが消灯し、LED画面のソング番号が点灯します。
- ソングデータを消したくない場合は[MIDI]スイッチ(または[RESET]スイッチ)を押してください。



### パートを消去します

1. **[MIDI]**スイッチを押しながら、**[PART]**スイッチを押します。  
[MIDI]スイッチ左上のランプが点灯し、[PART]スイッチ左上のランプとLED画面のパート番号が点滅します。
  2. **[+/UP]**スイッチまたは**[-/DOWN]**スイッチを押して、消したいパート番号を選びます。
  3. **[PART]**スイッチを押すと、パートのデータが消去されます。  
[MIDI]スイッチ左上のランプが消灯し、LED画面のパート番号が点灯します。
- パートのデータを消したくない場合は[MIDI]スイッチ(または[RESET]スイッチ)を押してください。



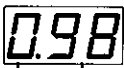
## 7. いくつかの録音方法

### 録音モードの設定

XC-2000f/XC-1000のレコーダーでは次の録音方法を選ぶことができます。

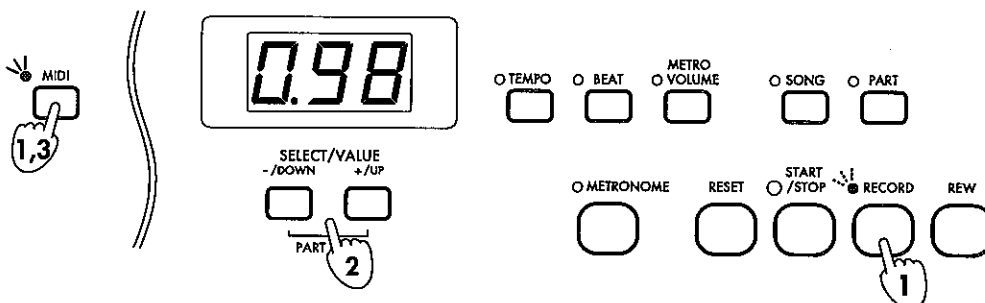
ID	録音モード	説明
0	上書き	録音時に前に録音したデータは消され、新しく録音したデータだけが残ります。
1	重ね書き	前に録音したデータと新しく録音したデータと重ね合わせます。
2	自動パンチイン/アウト	録音を始める前に録音する小節を設定し、その小節区間だけを録音します。
3	手動パンチイン/アウト	録音時にソステヌートペダルを踏んで、ある区間内を録音します。

1. [MIDI]スイッチを押しながら、[RECORD]スイッチを押します。

例:  [MIDI]スイッチ左上のランプが点灯し、[RECORD]スイッチ左上のランプが点滅します。LED画面には録音モードとメモリー残量が表示されます。メモリー残量については34ページをご覧ください。

録音モード    メモリー残量

2. [+ /UP]スイッチまたは[- /DOWN]スイッチを押して、録音モード(0~3)を選びます。



3. [MIDI]スイッチ(または[RESET]スイッチ)を押して、設定モードから抜けます。

⚡ 電源オン時は“上書き”に設定されます。

### 上書き

すでに録音してある演奏データに、新しい演奏データが上書きされます。新しく録音を開始した小節以降の演奏データがすべて書き換えられます。録音を終了した小節以降にも演奏データがあった場合には、それらのデータも消去されます。

通常はこの方法で録音します。

- 録音モードを“0”に設定し(上記操作参照)、録音を行ってください。

### 重ね書き

すでに録音してある演奏データに、新しい演奏データが書き加わります。録音を開始した小節以降に録音されている演奏データは消去されずに、新しい演奏データと重なっていきます。

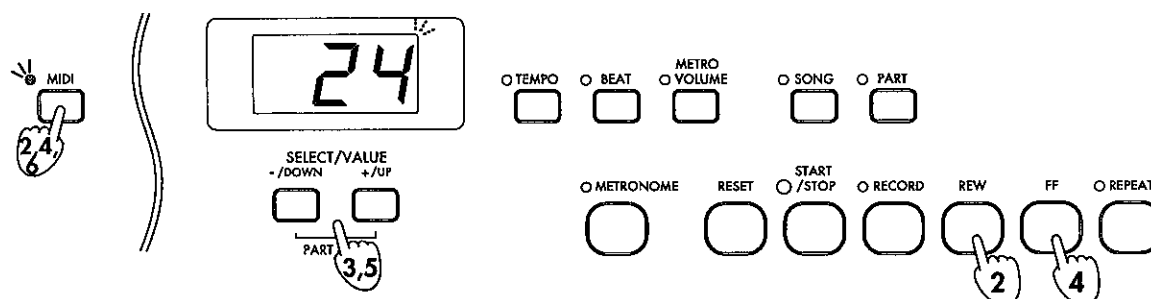
- 録音モードを“1”に設定し(上記操作参照)、録音を行ってください。

[RECORD]スイッチを押して録音待機にしているとき(22ページ操作“7”参照)、LED画面に“録音モードとメモリー残量”が点滅表示され、現在の録音モードが確認できます(このとき録音モードは変更できません)。  
[START/STOP]スイッチまたは鍵盤を押すと、重ね書き録音が始まります。

## 自動パンチイン/アウト

指定小節間を録音します。ある区間内を修正するときなどに便利です。最初に録音する小節を設定します。その後、通常どおり録音を開始すると指定区間内だけを録音することができます。

1. 録音モードを“2”に設定します(前ページ参照)。
2. [MIDI]スイッチを押しながら[REW]スイッチを押します。  
[MIDI]スイッチ左上のランプが点灯し、LED画面に小節番号が点滅します。
3. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、録音開始(パンチイン)小節を設定します。  
録音時、この小節の頭から録音が始まります。
4. [MIDI]スイッチを押しながら[FF]スイッチを押します。  
[MIDI]スイッチ左上のランプが点灯し、LED画面に小節番号が点滅します。
5. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して録音終了(パンチアウト)小節を設定します。  
録音時、この小節の終りまでが録音されます。



6. [MIDI]スイッチ(または[RESET]スイッチ)を押して、設定画面から抜けます。
7. 通常どおり録音を始めます。  
[RECORD]スイッチを押して録音待機にしているとき(22ページ操作“7”参照)、LED画面に“録音モードとメモリ残量”が点滅表示され、現在の録音モードが確認できます(このとき録音モードは変更できません)。  
[START/STOP]スイッチまたは鍵盤を押すと、自動パンチイン/アウト録音が始まります。  
録音開始(パンチイン)小節より前の小節から必ず録音を始めてください。録音を開始すると録音開始小節まで再生され、録音開始小節から(上書き)録音が始まります。録音終了小節までくると録音が終了し、それ以降の小節から再生に切り替わります。



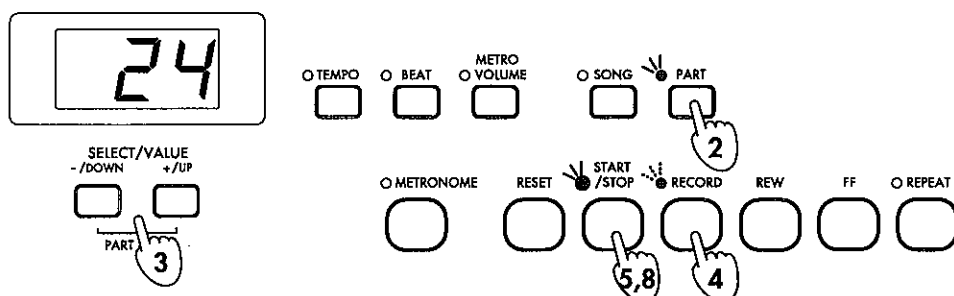
ここでの“小節”はメトロノームで設定されている拍子とテンポに従います。そのためメトロノームの拍子、テンポに関係なく演奏を録音している場合は、実際の演奏の拍子、テンポとは一致しません。

## 手動パンチイン/アウト

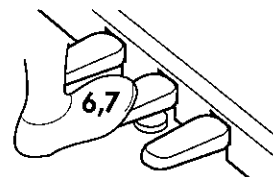
指定区間内を録音します。ある区間内を修正するときなどに便利です。録音時にソステヌートペダルを踏むことで録音する小節を設定します。

1. 録音モードを“3”に設定します(前ページ参照)。
2. [PART]スイッチを押します。  
[PART]スイッチ左上のランプが点灯します。

3. [-/DOWN]または[+/UP]を押して録音したいパートを選びます。
4. [RECORD]スイッチを押します。  
[RECORD]スイッチ左上のランプが点滅し、録音待機の状態になります。
5. [START/STOP]スイッチを押して、演奏を再生します。  
[START/STOP]スイッチ左上のランプがテンポに合わせて点滅し、再生が始まります。この状態では[RECORD]スイッチ左上のランプが点滅したままで、演奏は録音されていません。



6. 録音したいところで[ソステヌートペダル]を踏みます。  
[RECORD]スイッチ左上のランプが点灯に変わり、(上書き)録音が始まります。
7. 録音を終了したいところでもう一度[ソステヌートペダル]を踏みます。  
[RECORD]スイッチ左上のランプが点滅に変わり、録音が終了し、再生に切り替わります。
8. [START/STOP]スイッチを押して、演奏を停止します。  
[START/STOP]スイッチ左上のランプと[RECORD]スイッチ左上のランプが消灯します。

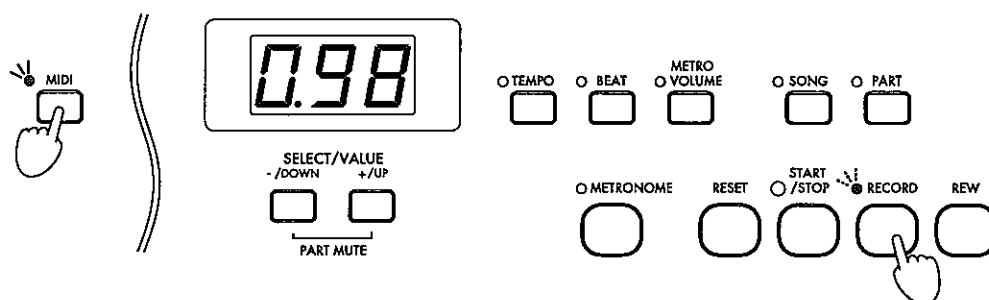


この録音モードでは、[ソステヌートペダル]がバンチイン/アウトのタイミングを設定するスイッチになるため、ソステヌートペダル機能が使用できなくなります。

## 録音可能なメモリーの残量表示

本体のレコーダーの録音できる容量をパーセント表示します。

- [MIDI]スイッチを押しながら、[RECORD]スイッチを押します。  
[MIDI]スイッチ左上のランプが点灯し、[RECORD]スイッチ左上のランプが点滅します。LED画面に現在のレコーダーのメモリー残量が“00”～“99”の範囲で表示されます。




メモリー残量が少なくなると録音が行えなくなります。メモリー残量が少なくなったら、外部のMIDIデータファイラー等(48ページ参照)や内蔵のディスクドライブ(XC-2000fのみ)にデータを保存して(36ページ参照)から、本体内のソングやパートを消去してください(31ページ参照)。



# XC-2000fのさまざまな機能

## 1. ディスクのフォーマット(初期化)

新しいフロッピーディスクをXC-2000f用に使うには、ディスクをフォーマット(初期化)する必要があります。また古いディスクに入った必要のないデータを消して、もう1度フォーマットし直すこともできます。MS-DOSコンピューターでもフォーマットすることができます。

 フォーマットを実行すると、フロッピーディスクのデータはすべて消えてしまいます。フォーマットしてもよいかどうかを必ず確認してから実行してください。

1. ディスクドライブにフォーマットするフロッピーディスクを挿入します。
2. [MIDI]スイッチを押しながら、[DEMO]スイッチを押します。

[MIDI]スイッチ左上のランプが点灯し、[DEMO]スイッチ左上のランプが点滅します。フロッピーディスクをチェック後、LED画面に次のいずれかが表示されます。

その他のメッセージが表示されるときは、70ページをご覧ください。

**- F -**

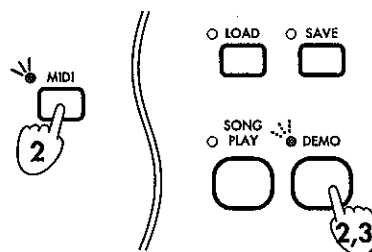
フォーマットされて  
いないディスク。


**00F**

フォーマットされたディスク。  
フロッピーディスクにソング  
ファイルがない。

**0 1F**

フォーマットされたディスク。  
フロッピーディスクにソング  
ファイルがある。  
(左2桁はファイル番号)




 [DEMO]スイッチがオン(左上のランプが点灯)になっているとここでの操作は行えません。オフにしてください。

3. [DEMO]スイッチを押すと、フォーマットが始まります。

LED画面に“**0F**”が点滅表示されます。

所要時間は、2DDフロッピーディスクで約1分30秒、2HDフロッピーディスクで約2分です。フォーマットが終了すると、[MIDI]スイッチ左上のランプと[DEMO]スイッチ左上のランプが消灯し、LED画面はフォーマット前の表示に戻ります。

フォーマットしたくないときは、左上のランプが点灯している[MIDI]スイッチを押します。

 LED画面の右端の“.”が点灯中はディスクドライブが実行中です。実行中は、決してフロッピーディスクを取り出さないでください。

## 2. 演奏データをフロッピーディスクに保存します(セーブ)

本体レコーダーの演奏データをフロッピーディスクに保存(セーブ)します。  
レコーダーの10ソングを1ファイルとして保存します。



**XC-2000f**は電源をオフにするとレコーダーに録音した演奏データはすべて消えてしまいます。  
そのため大切なデータは必ず電源をオフにする前にフロッピーディスク(またはデータファイ  
ラー)に保存してください。

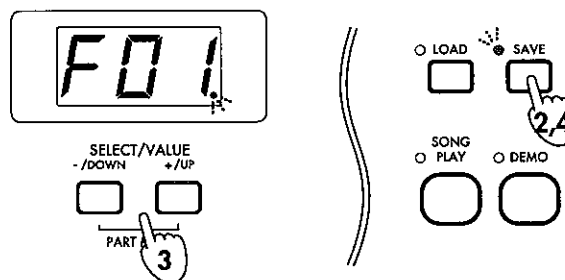
この他、レコーダーの演奏データをSMFのソングファイル(\*.MID)に変換して保存することがで  
きます(41ページ参照)。

1. ディスクドライブに(フォーマット済みの)フロッピーディスクを挿入します。
2. [SAVE]スイッチを押します。  
[SAVE]スイッチ左上のランプが点滅し、ディスクを認識後、LED画面にファイル番号("F01"~  
"F99")が表示されます。
3. [+ /UP]スイッチまたは[- /DOWN]スイッチを押して、保存するファイル番号を選びます。



保存しようとしているファイルと同じ番号のファイルがディスク上にあると、LED画面のファイル  
番号が点滅して、ファイルが新しいファイルに置き替わってもよいか、というメッセージを出しま  
す。すでにあるファイルに取っておきたいデータが入っていないことを確認してから、先に進ん  
でください。このセーブ操作によって、元のファイルは消えてしまいます。上書き(前のファイル  
を消して新しいファイルを同一の番号で保存)するとき以外は、点滅していないファイル番号を  
選んでください。保存をやめるときは、[MIDI]スイッチを押します。

4. [SAVE]スイッチを押すと、保存が実行されます。  
LED画面の右端の"."が点滅します。保存が終了すると[SAVE]スイッチ左上のランプとLED画  
面の右端の"."が消灯します。



### 3. フロッピーディスクから演奏データを読み込みます(ロード)

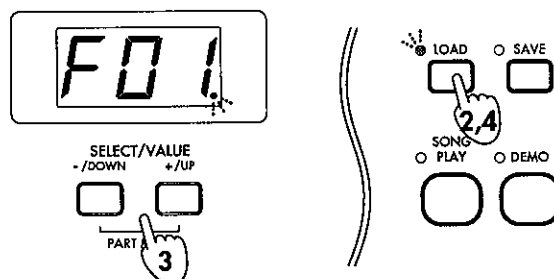
フロッピーディスクからレコーダーの演奏データを本体のレコーダーに読み込み(ロード)ます。

この他、SMFのソングファイル(\*.MID)をレコーダー用のソングファイル(KORGPF\*\*.\*.SNG)に変換してレコーダーに読み込むことができます(40ページ参照)。



データを読み込むと本体内のレコーダーの演奏データがすべて(10ソング)消えてしまいます。演奏データを読み込む前に、本体内の大切な演奏データは、必ずディスクに保存しておいてください。

1. ディスクドライブにフロッピーディスクを挿入します。
2. [LOAD]スイッチを押します。  
[LOAD]スイッチ左上のランプが点滅し、ディスクを認識後、LED画面にファイル番号("F01" ~ "F99")が表示されます。
3. [+ / UP]スイッチまたは[- / DOWN]スイッチを押して、読み込みたいソングファイルを選びます。
4. [LOAD]スイッチを押すと、読み込みが実行されます。  
LED画面の右端の"."が点滅します。読み込みが終了すると[LOAD]スイッチ左上のランプとLED画面の右端の"."が消灯します。  
読み込まないときは、[MIDI]スイッチを押します。



## 4. スタンダードMIDIファイルを再生します

シーケンサー(レコーダー)の演奏データのフォーマットを規定し、メーカーや機種が異なってもフロッピーディスクを介してデータのやり取りを可能にしたのがスタンダードMIDIファイル(SMF)です。1曲(1ソング)が1ファイルになります。XC-2000fでは、1つのトラック(パート)にすべての演奏情報が入っている“フォーマット0”と、演奏情報をMIDIチャンネルごとにトラック(パート)に振り分けた“フォーマット1”に対応しています。

スタンダードMIDIファイル(SMF)のソングファイルをフロッピーディスクから直接ロードして再生します。ソングプレイといいます。SMFのソングファイルを何曲か連続して再生したいときや、素早く再生したいときにこのモードが便利です。

1. SMFのソングファイルが収録されているフロッピーディスクを、XC-2000fのディスクドライブに挿入します。

2. [SONG PLAY]スイッチを押します。

[SONG PLAY]スイッチ左上のランプが点灯し、ディスクを認識後、LED画面にはフロッピーディスクに収録されているソングファイル("F01"~"F99")が表示されます。

3. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、再生したいソングファイルを選びます。

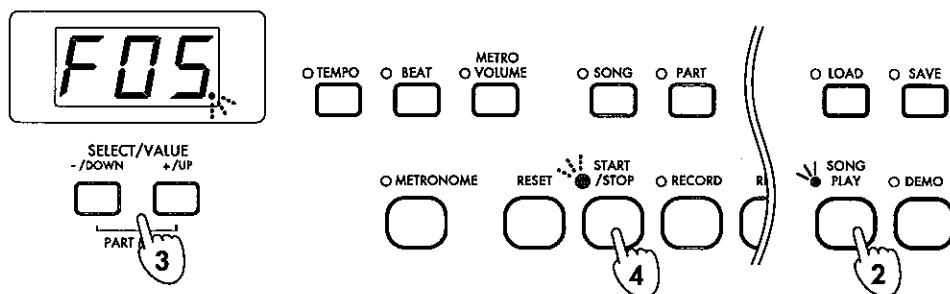
4. [START/STOP]スイッチを押します。

再生させるソングファイルがフォーマット0の場合

[START/STOP]スイッチ左上のランプとLED画面の右端の"."が点滅して、再生が始まります。選んだファイル番号から最後のファイル番号の曲まで順番に再生します。

再生させるソングデータがフォーマット1の場合

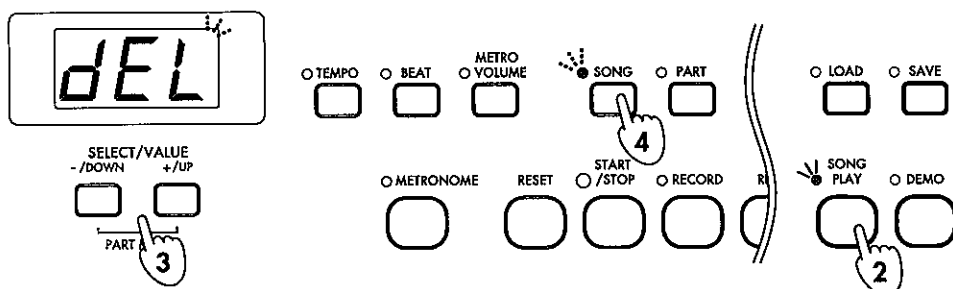
・本体レコーダーに演奏データが入っていないときは、[START/STOP]スイッチ左上のランプが素早く点滅した後、テンポに合わせた点滅に変わり、再生が始まります。選んだファイル番号から最後のファイル番号の曲まで順番に再生します。



・本体レコーダーに演奏データが入っているときは、[SONG]スイッチ左上のランプが点滅し、LED画面にそれらのソングデータを消してもいいかというメッセージ"dEL"(delete)が点滅表示します。



フォーマット1のソングデータをソングプレイで再生すると、本体レコーダーに入っているすべてのデータが消えてしまいます。消したくない場合は[SONG PLAY]スイッチを押してランプを消灯します。そしてフロッピーディスクに演奏データを保存してから次へ進んでください。



[SONG]スイッチを押すと、[SONG]スイッチ左上のランプが点灯に変わり、LED画面の右端の“.”と[START/STOP]スイッチ左上のランプが数秒点滅した後、テンポに合った点滅に変わり再生が始まります。選んだファイル番号から最後のファイル番号の曲まで順番に再生します。

5. 演奏を止めたいときは、[START/STOP]スイッチを押します。

[START/STOP]スイッチ左上のランプが消灯します。

6. 演奏を聴き終えたら、[SONG PLAY]スイッチを押します。

[SONG PLAY]スイッチ左上のランプが消灯します。

ソングプレイモードのときにもパートの音色や、音量を変えたり(27ページ参照)、ミュートする(28ページ参照)ことができます。正面右側の[INPUT]端子にマイクを接続して、オプションのKORG SMF/GM ライブラリーや市販のSMF/GMデータのメロディーパートをミュートすればカラオケを楽しむことができます(42ページ参照)。



音色などが正しく再生されない場合は、「プログラムフィルターの設定」(47ページ参照)や、音律に“平均律”が選ばれているか(19ページ参照)を確認してください。そして[RESET]スイッチを押した後、もう一度再生してみてください。

ソングプレイではサラウンドが自動的に“PRESET”に設定され、変更できません。またレイヤーは選べません。

LED 画面に表示される番号は、SMFがディスクに書き込まれた順です。ディスクに書かれている曲の順番と異なる場合があります。

## 5. スタンダードMIDIファイルを読み込みます

SMF フォーマットのソングファイルをレコーダーの演奏データに変換して、本体レコーダーに読み込みます。本体のレコーダーでソングファイルを編集するときなどに便利です。

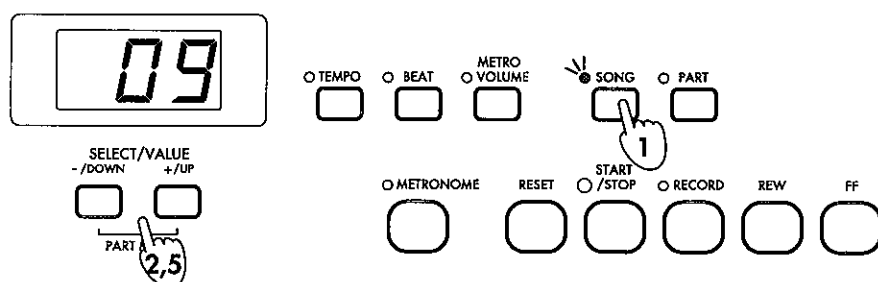
1. [SONG]スイッチを押します。

[SONG]スイッチ左上のランプが点灯し、画面にソング番号が表示されます。

2. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、読み込み先のレコーダーのソング番号を選びます。



フロッピーディスクに収録されているSMFのソングファイルが、選んだソングに読み込まれます。指定したソング番号のみに読み込まれ、他のソングの演奏データは消えません。読み込み先のソングに取っておきたいデータがあるときは、事前にフロッピーディスクに保存しておいてください。

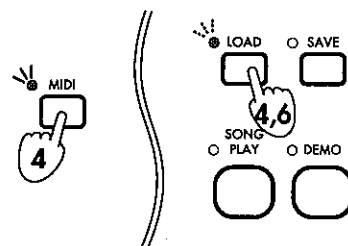


3. SMFのソングファイルが収録されているフロッピーディスクを、XC-2000fのディスクドライブに挿入します。

4. [MIDI]スイッチを押しながら、[LOAD]スイッチを押します。

[MIDI]スイッチ左上のランプが点灯し、[LOAD]スイッチのランプが点滅します。ディスクを認識後、LED画面にファイル番号が表示されます。

5. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、本体レコーダーに読み込むSMFのソングファイルを選びます。



6. [LOAD]スイッチを押すと、読み込みが実行されます。

LED画面の右端の"."が点滅します。本体レコーダーにデータを変換しながらソングファイルを読み込みます。読み込みが終了すると[LOAD]スイッチ左上のランプとLED画面の右端の"."が消灯します。

読み込まないときは、[MIDI]スイッチを押します。

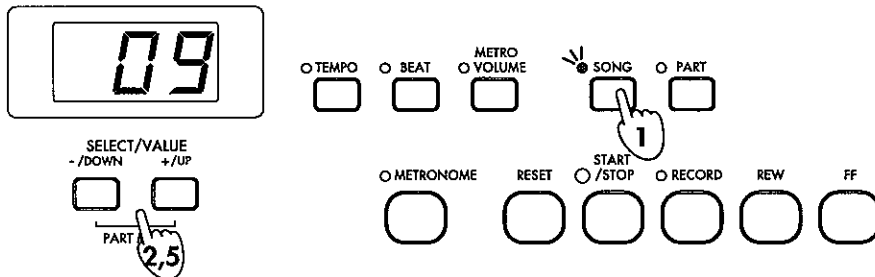
## 6. 演奏データをSMFにしてフロッピーディスクに保存します

本体レコーダーで作った演奏データをSMFに変換して、フロッピーディスクに保存します。SMFに対応した他の機器などで再生、編集するときなどに便利です。

1. [SONG]スイッチを押します。

[SONG]スイッチ左上のランプが点灯し、画面にソング番号が表示されます。

2. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、SMFとして保存するレコーダーのソング番号を選びます。



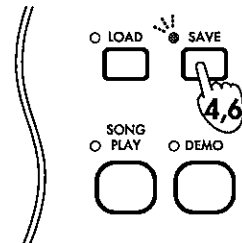
3. フロッピーディスクを、XC-2000fのディスクドライブに挿入します。

4. [MIDI]スイッチを押しながら、[SAVE]スイッチを押します。

[MIDI]スイッチのランプが点灯、[SAVE]スイッチのランプが点滅します。ディスク認識後、LED画面にはファイル番号が表示されます。

5. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、保存するファイルを選びます。

レコーダーの1ソングを1ソングファイルとして保存します。



保存しようとしているファイルと同じ番号のファイルがディスク上にあると、LED画面のファイル番号が点滅して、ファイルが新しいファイルに置き替わってもよいか、というメッセージを出します。すでにあるファイルに取っておきたいデータが入っていないことを確認してから、先に進んでください。このセーブ操作によって、元のファイルは消えてしまいます。上書き(前のファイルを消して新しいファイルを同一の番号で保存)するとき以外は、点滅していないファイル番号を選んでください。なお、ここで選んだファイル番号は、ソングプレイで再生するときや、SMFのデータをレコーダー用のソングファイルに変換するときのファイル番号と異なります。保存をやめるときは、[MIDI]スイッチを押します。

6. [SAVE]スイッチを押すと、保存を実行します。

LED画面の右端の"."が点滅します。フロッピーディスクに本体レコーダーのデータをSMFに変換しながら保存します。保存が終了すると[SAVE]スイッチ左上のランプとLED画面の右端の"."が消灯します。

## 7. マイクを接続して歌ってみましょう

XC-2000f にマイクを接続すればカラオケも楽しむことができます。オプションのKORG SMF/GMライブラリーや市販のSMF/GMデータを使って歌ってみてください。

1. 本体右側にある[MIC VOLUME]スライダーを“0”に下げます。

2. マイクを本体正面右側にある[INPUT]端子に接続します。  
(マイクにオン/オフスイッチがある場合はオンにします。)

3. [MIC/LINE]スイッチを“MIC”側に設定します。

4. マイクの音量を[MIC VOLUME]スライダーで調節します。  
音が歪むときは[MIC/LINE]スイッチを“LINE”側に切り替えてください。

5. エコーのかかり具合を[ECHO VOLUME]スライダーで調節します。

6. SMFのソングファイルが収録されているフロッピーディスクを、XC-2000fのディスクドライブに挿入します。

7. [SONG PLAY]スイッチを押します。

[SONG PLAY]スイッチ左上のランプと[SONG]スイッチ左上のランプが点灯します。ディスクを認識後、LED画面にはフロッピーディスクに収録されているソングファイル(“F01”~“F99”)が表示されます。

8. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、曲(ソングファイル)番号を選びます。

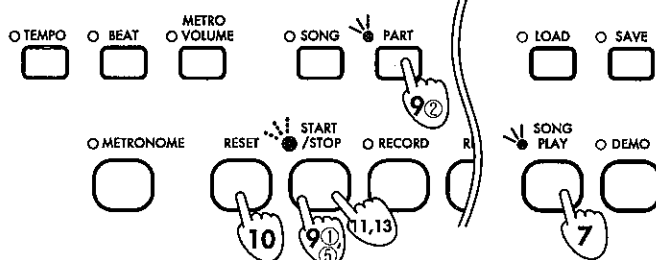
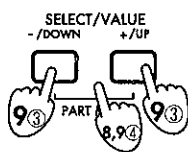
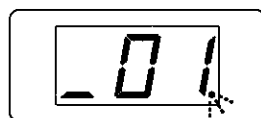
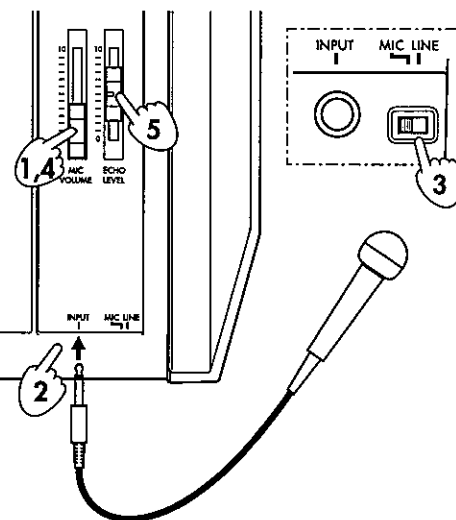


オプションのKORG SMF/GMライブラリーはフォーマット0で保存されています。市販されているSMF/GMデータの多くも同様にフォーマット0で保存されています。そのためここではフォーマット0のソングファイルを再生する場合について説明します。フォーマット1のソングファイルを再生する場合は38ページをご覧ください。

9. 歌(メロディ)のパートをミュート(消音)します。

歌のパートが見つからないときは、次のようにして確認してください。

①[START/STOP]スイッチを押して演奏を再生します。②[PART]スイッチを押します。③[+/UP]スイッチと[-/DOWN]スイッチを同時に押して、パートをミュートします(28ページ参照)。歌のパートが消えましたか?消えない場合はもう一度[+/UP]スイッチと[-/DOWN]スイッチを同時に押してミュートを解除してください。④次のパートを[+/UP]スイッチを押して選び、ミュートして確認してみてください。このように次々にパートを確認して歌のパートをミュートします。⑤[START/STOP]スイッチを押して演奏を止めてください。





10. [RESET] スイッチを押して最初の小節に戻します。
11. [START/STOP] スイッチを押して、演奏に合わせて歌ってください。  
[START/STOP] スイッチ左上のランプがテンポに合わせて点滅します。
12. 音程が合わないときは、[KEY TRANSPOSE] スライダー動かして、キーを調節してください。  
“C”を基準にスライダーを左に1目盛りずつ動かすとキーが半音ずつ下がり、右に動かすと半音ずつ上がります。通常は“C”にしておきます。
13. 演奏が終わったら [START/STOP] スイッチを押します。

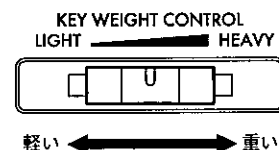


- ・本機能をご使用にならないときは、[MIC VOLUME] スライダーおよび[ECHO LEVEL] スライダーを“0”に下げ、機器（マイク）を[INPUT] 端子から抜いておいてください。
- ・[INPUT] 端子に接続した機器の音量を調節できるのは[MIC VOLUME] スライダーだけです。[MASTER VOLUME] スライダーでは[INPUT] 端子の音量を調節できません。
- ・[INPUT] 端子はモノラル端子です。シンセサイザーなどのステレオ出力の機器をつなげて、本体スピーカーから音を出したいときは、本体後ろ側底面にある[INPUT] 端子に接続してください。
- ・[INPUT] 端子に出力の大きい機器を接続するときは、[MIC/LINE] スイッチを“LINE”側に切り替えてください。
- ・次の条件でご使用になりますとハウリングを起こす場合がありますので、最適な状態に調整してご使用ください。  
マイクの種類、マイクの向きが本体に向いている。/マイクと本体の距離が近すぎる。/マイクボリュームとエコーレベルの調整具合。

## 8. 鍵盤のタッチの重さを変えます

鍵盤のタッチの重さを切り替えることができます。これをキーウエイトコントロール機能といいます。好みや、演奏する音色に合わせて設定を選んでください。

- HEAVY** 通常のピアノ鍵盤のタッチです。
- LIGHT** オルガンやシンセサイザーの鍵盤のタッチです。



- ・故障の原因になりますので、[KEY WEIGHT CONTROL] スライダーを長時間連続して動かさないようにしてください。
- ・キーウエイトコントロールは、モーターを使用しているため、使用条件または周囲環境の変化により、動作音が大きく感じられたり、動作速度が遅くなることがあります。

# 他の機器との接続

## 1. シンセサイザーやオーディオ機器との接続

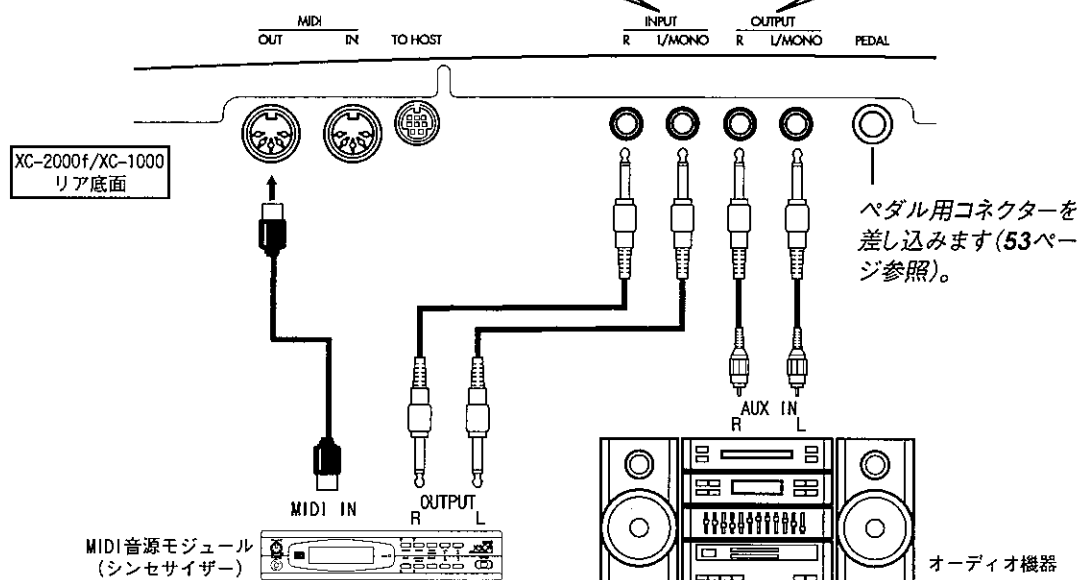
XC-2000f/XC-1000にシンセサイザーやオーディオ機器を接続して、本体のスピーカーから音を出したり、演奏をテープレコーダーなどに録音することができます。

### [INPUT] 端子 (L/MONO, R)

シンセサイザーやオーディオ機器のアウトプット端子と接続して、本体のスピーカーから音を出すための入力端子です。モノラルで接続するときは“L/MONO”に接続します。音量は接続した機器のボリュームで調節してください。

### [OUTPUT] 端子 (L/MONO, R)

オーディオ機器のインプット端子と接続して、より大きい音を出したり、テープレコーダーなどに演奏を録音するための出力端子です。モノラルで接続するときは“L/MONO”に接続します。音量は本体の[MASTER VOLUME]スライダーで調節します。[INPUT]端子に接続した機器の音も同時に出力されます。また、XC-2000fでは正面の[INPUT]端子(43ページ参照)に接続した機器の音もこの端子から出力されます。



## 2. MIDI機器との接続

### MIDIとは?

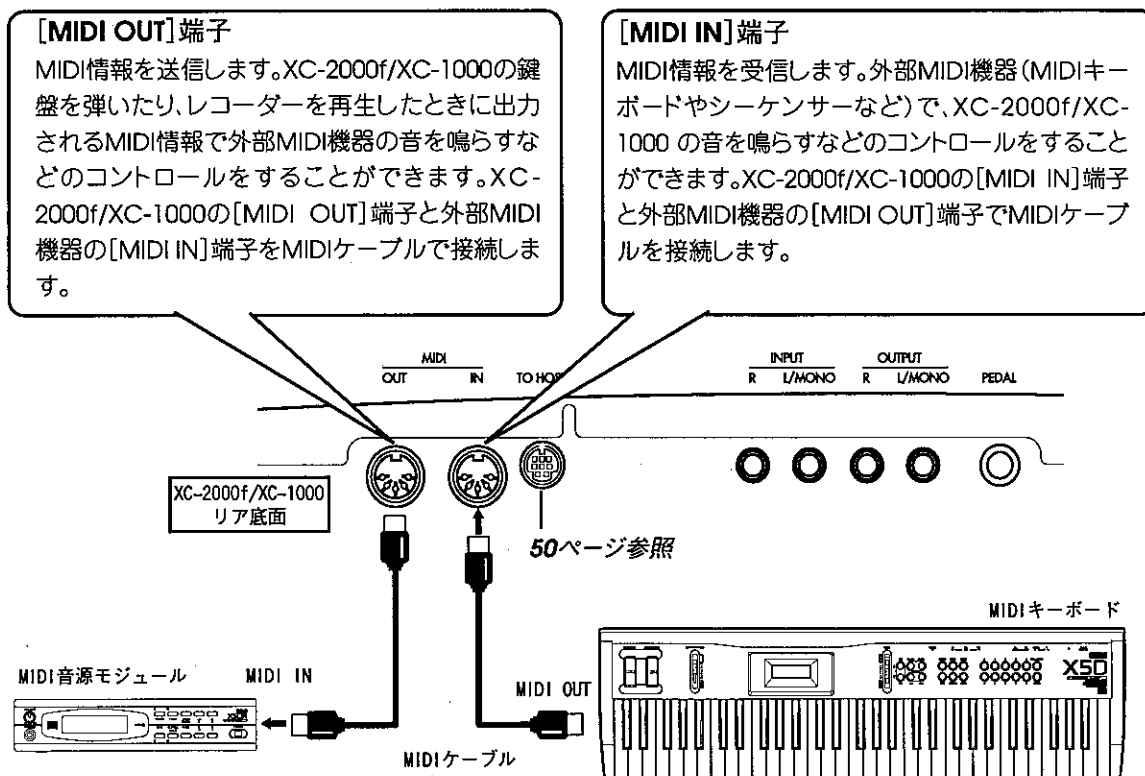
MIDI (Musical Instrument Digital Interface)は、楽器の演奏情報(鍵盤の演奏や、音色の選択など)をデジタル信号に変換して、電子楽器やコンピュータの間でやりとりするための統一規格です。

XC-2000f/XC-1000を演奏することによって、他のMIDIを備えた楽器を鳴らすことができます。このとき、音色の切り替えや、ダンパーペダルなどのさまざまな効果をいっしょにコントロールすることもできます。同様に他のMIDIキーボードやシーケンサー(自動演奏装置)からXC-2000f/XC-1000をコントロールすることもできます。

ここでは、XC-2000f/XC-1000に関連したMIDIの使用方法について説明します。MIDIについて興味のある方のためにMIDIについて解りやすく説明した本も数多く出版されていますのでご利用ください。

### MIDI端子の接続

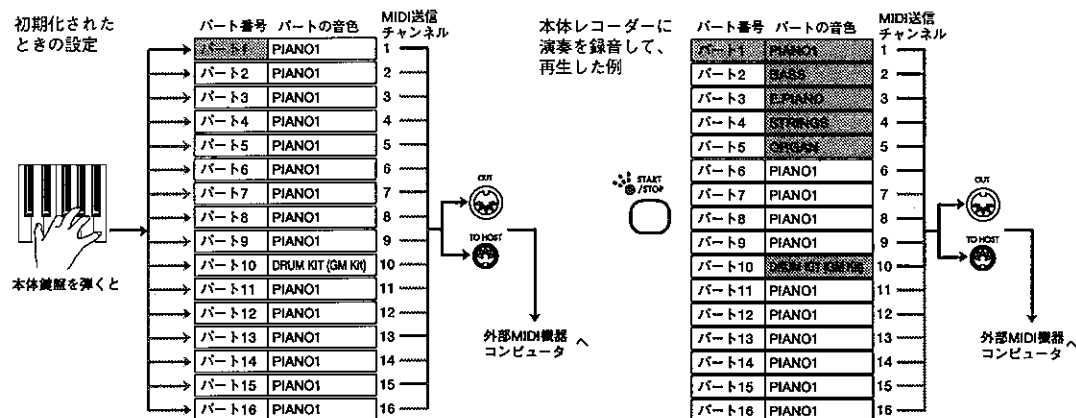
MIDI情報をやり取りするには、専用のMIDIケーブルを使います。このケーブルをXC-2000f/XC-1000のMIDI端子と、情報をやり取りする外部MIDI機器のMIDI端子と接続します。



## MIDIチャンネルの設定

MIDI機器との接続が終わったら、XC-2000f/XC-1000と接続するMIDI機器とのMIDIチャンネルを合わせます。MIDIチャンネルには1～16のチャンネルがあります。

本体鍵盤を弾くと、現在選んでいるソングのパートに設定されているMIDIチャンネルで鍵盤の情報を送信します。レコーダーの演奏データは、録音したソングのパートに設定されているMIDIチャンネルで送信します。



また、外部MIDI機器からのMIDI情報は現在選んでいるソングのパートにそれぞれ設定されているMIDIチャンネルで受信します。MIDIチャンネルを各パートに振り分ければ、外部シーケンサーからの情報を受信して、XC-2000f/XC-1000を最大16の異なる音色で鳴らすことができます。これをマルチティンバー機能といいます。



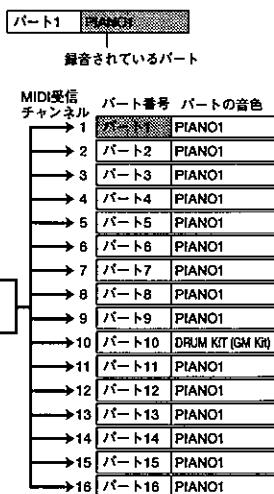
**最大同時発音数は32音です。ただし音色やレイヤーにするなどの条件により発音数が少なくなることがあります。**

## MIDIチャンネルの変更

本体鍵盤を弾いたときに送信するMIDIチャンネルを変えるには、パート番号を変えるのが一番早い方法です。しかしパートのMIDIチャンネルを変更したい場合があります。そのようなときには次のように変更します。

1. MIDIチャンネルを変更するソングのパートを選びます。
2. [MIDI]スイッチを押しながら、[BEAT]スイッチを押します。  
[MIDI]スイッチ左上のランプが点灯し、[BEAT]スイッチ左上のランプが点滅します。LED画面は現在選ばれているパートのMIDIチャンネルが表示されます。
3. [+UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して、MIDIチャンネルを変更します。  
初期設定のときにパートのMIDIチャンネルを変更すると、2つのパートが同一のチャンネルになってしまいます。この状態では、そのチャンネルでデータを受信したときに2つのパートに設定されているそれぞれの音色が同時に鳴ります。音色がおかしいときはもう一方のパートのMIDIチャンネルを変更したパートのMIDIチャンネルと入れ替えてください。
4. 設定が終わったら、[MIDI]スイッチ(または[RESET]スイッチ)を押します。  
[MIDI]スイッチ左上のランプと[BEAT]スイッチ左上のランプが消灯します。

☞ XC-2000fでは電源を入れた直後は、自動的に上記初期設定になります。XC-1000では電源をオフにしても直前の設定が記憶されています。



### グローバルMIDIチャンネルの変更

システムエクスクルーシブメッセージを送受信するときは、グローバルのチャンネルで行います。XC-2000f/XC-1000ではデータダンプ(48ページ参照)を行うときにグローバルMIDIチャンネルで送受信します。グローバルMIDIチャンネルは次のように設定します。

1. **[MIDI]**スイッチを押しながら、**[VIBES]**スイッチを押します。  
[MIDI]スイッチ左上のランプが点灯し、[VIBES]スイッチ左上のランプが点滅します。LED画面にグローバルMIDIチャンネルが表示されます。
  2. **[+/UP]**スイッチまたは**[-/DOWN]**スイッチを押して、グローバルMIDIチャンネルを設定します。
  3. 設定が終わったら、**[MIDI]**スイッチ(または**[RESET]**スイッチ)を押します。  
[MIDI]スイッチ左上のランプと[VIBES]スイッチ左上のランプが消灯します。
- ☛ 電源を入れた直後は、自動的に1チャンネルに設定されます。

### ローカルオン/オフの設定

XC-2000f/XC-1000の鍵盤を弾いたときに本体の音は鳴らさないでMIDI(またはTO HOST)で接続している外部の音源だけを鳴らすときや、シーケンサーを接続してシーケンサー側でエコーバック(シーケンサーが受信したデータを送り返す動作)を設定したときに、戻ってきた情報で2重に鳴るのを防ぎたいときにXC-2000f/XC-1000をローカルオフに設定します。通常はローカルオンに設定して鍵盤を弾いて音が鳴るようにします。

- **[MIDI]**スイッチを押しながら、**[PIANO1]**スイッチを押します。押すたびに設定が切り替わります。  
[MIDI]スイッチを押している間、[MIDI]スイッチ左上のランプが点灯し、[PIANO1]スイッチ左上のランプが点灯、または消灯します。

設定	[PIANO1]	説明
ローカルオン	消灯	鍵盤を弾くと本体の音が鳴ります
ローカルオフ	点灯	鍵盤を弾いても本体の音が鳴らず、MIDI情報を出力するだけになります

- ☛ 電源を入れた直後は、自動的にローカルオンに設定されています。

### プログラムフィルターの設定

外部MIDI機器(シーケンサやコンピュータ)からMIDIデータを受信してXC-2000f/XC-1000本体の音源を鳴らしたときに、バンク番号が異なるために指定外の音色で再生されることがあります。また、XC-2000f/XC-1000のレコーダーやXC-2000fのソングプレイで、外部MIDI機器にMIDIデータを送信して外部MIDI機器を鳴らしたときにも同様な問題が起こることがあります。プログラムフィルターの設定を変えることによってこのような問題を回避できることがあります。

- **[MIDI]**スイッチを押しながら、**[EFFECT]**スイッチを押します。**[EFFECT]**スイッチを押すたびに設定が切り替わります。  
[MIDI]スイッチを押している間、[MIDI]スイッチ左上のランプが点灯し、[EFFECT]スイッチ左上の2つのランプが設定によって点灯または消灯します。

CHOURUS	TREMOLO	No.	送受信の場合	ソングプレイで内部音源を鳴らした場合
消灯	消灯	1	プログラムチェンジ、バンクセレクトを無視	バンクセレクトを無視
点灯	消灯	2	バンクセレクトを無視	バンクセレクトを無視
点灯	点灯	3	両方有効 (48ページ参照)	両方有効
点灯	点滅	4	両方有効 (48ページ参照)	両方有効

通常は“3”にしてください。音色正しく割り当てられないときは“2”や“4”に設定してください。

### プログラムチェンジとコントロールチェンジナンバーについて

前述のプログラムフィルターを“3”または“4”に設定すると次のようにプログラムチェンジとバンクセレクトを送信します。括弧外が“3”、括弧内が“4”のときの状態です。受信については括弧内外のどちらも有効です。

バンクセレクト		プログラムチェンジ#	音色セクター
MSB	LSB		
0 (0)	4 (4)	0	PIANO1
0 (0)	4 (4)	1	PIANO2
0 (0)	4 (4)	2	E.PIANO
0 (0)	4 (4)	3	HARPSI
0 (0)	4 (4)	4	VIBES
0 (0)	4 (4)	5	ORGAN
0 (0)	4 (4)	6	STRINGS
62 (0)	0 (2)	0, 16, 25, 32, 40, 64, 24, 48	DRUM KIT1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8 :XC-2000fのみ
56 (0)	0 (0)	0~127	GM :XC-2000fのみ
62 (2)	0 (0)	0~127	DRUMKIT :XC-1000のみ
56 (0)	0 (0)	32~39	BASS :XC-1000のみ

外部のMIDIシーケンサーなどからXC-2000f/XC-1000の音色を切り替える場合は、コントロールチェンジ#0にMSB(表参照)を、コントロールチェンジ#32にLSB(表参照)を送り、続いてプログラムチェンジを送ります。これらの動作は「プログラムフィルターの設定」(前ページ参照)により異なります。

### コントロールチェンジの設定

本体のダンパーペダルなどの情報を、接続した外部MIDI機器に送信してコントロールしたり、外部MIDI機器からボリュームやパン(音の定位)、ダンパーペダルなどの情報を受信して、本体をコントロールします。送受信するコントロールチェンジについては64ページをご覧ください。

- [MIDI]スイッチを押しながら、[PIANO2]を押します。[PIANO2]を押すたびに送受信するか、しないかが切り替わります。

[MIDI]スイッチを押している間、[MIDI]スイッチ左上のランプが点灯し、[PIANO2]スイッチ左上のランプが設定によって点灯または消灯します。

設定	[PIANO2]説明
イネーブル	消灯コントロールチェンジを送受信する
ディセーブル	点灯コントロールチェンジを送受信しない



この設定をディセーブルにしてもバンクセレクトを送受信します。  
コントロールチェンジを送受信するかしないかを設定するときは、ペダルを踏まない状態で行ってください。

### 本体レコーダーの演奏データをデータファイラーに保存します

本体のレコーダーに録音した演奏データを、外部のMIDIデータファイラー(記憶装置)に保存します。そして必要なときにデータファイラーから本体レコーダーに演奏データを読み込みます。これをデータダンプ機能といいます。



必ずデータファイラーの取扱説明書をよく読んでからここでの操作を行ってください。

本体の演奏データをデータファイラーに保管するには

1. MIDIデータダンプデータを受信可能な外部MIDI機器(データファイラー等)の[MIDI IN]端子とXC-2000f/XC-1000の[MIDI OUT]端子、またはコンピューターのシリアルポートとXC-2000f/XC-1000の[TO HOST]端子をMIDIケーブルで接続します。
2. データファイラーを操作して、XC-2000f/XC-1000からのMIDIデータを受信待ちの状態にします。

### 3. [MIDI]スイッチを押しながら、[STRINGS]スイッチを押します。

データダンプが開始し、演奏データが[MIDI OUT]端子からデータファイラーに送信されます。



データダンプ実行中に、本体の鍵盤やスイッチに触れないでください。  
データダンプに要する時間は演奏データによって異なります。

データファイラーの演奏データを本体のレコーダーに読み込むには

1. MIDIデータダンプデータを送信可能な外部MIDI機器(データファイラー等)の[MIDI OUT]端子とXC-2000f/XC-1000の[MIDI IN]端子、またはコンピューターのシリアルポートとXC-2000f/XC-1000の[TO HOST]端子を接続します。
2. 送信側のチャンネル(データファイラーに保存されている演奏データを送信するときは、そのデータを保存したときのグローバルMIDIチャンネル)と、受信側のグローバルMIDIチャンネルを合わせます。
3. データファイラーを操作して、XC-2000f/XC-1000の演奏データを送信します。



データダンプの実行中に、本体の鍵盤やスイッチに触れないでください。

ペダルの設定の変更の情報(「レイヤーでのペダルの設定」参照)は、データファイラーに記録しておくことはできません。

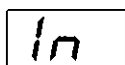
### 本体レコーダーと外部MIDI機器との同期

XC-2000f/XC-1000のレコーダーは、MIDIで接続したMIDIリズムマシンやシーケンサーなどと同時に演奏を行うことができます。これを「同期をとる」といいます。

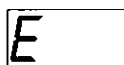
マスター機(コントロールする側のMIDI機器)の[MIDI OUT]端子とスレーブ機(コントロールされる側)のMIDI機器の[MIDI IN]端子、またはコンピューターのシリアルポートとXC-2000f/XC-1000の[TO HOST]端子を接続します。

### 1. [MIDI]スイッチを押しながら[TEMPO]スイッチを押します。

[TEMPO]スイッチのランプが点滅します。LED画面には現在の設定が表示されます。



内部 (Internal)



外部 (External)

2. XC-2000f/XC-1000がマスターのときは“In”に、スレーブのときは“E”に、[+/UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して選びます。
3. XC-2000f/XC-1000がマスターのときは[START/STOP]スイッチを押します。同期させる外部MIDI機器については外部MIDIの取扱説明書をご覧ください。
4. 設定が終わったら、[MIDI]スイッチを押します。  
[MIDI]スイッチ左上のランプと[TEMPO]スイッチ左上のランプが消灯します。



本体から出力されるMIDIクロック(テンポを合わせるための信号)はメトロノームのテンポに従います(接続するMIDI機器のクロックの設定などはそれぞれの取扱説明書をご覧ください)。

“E”(外部)に設定したときは、MIDIクロックが入力されないレコーダーの再生/録音はできません。[START/STOP]スイッチを押すとLED画面に“E-”が表示されます。この表示は[TEMPO]スイッチを押したときにも現れます。

### 3. コンピュータとの接続

XC-2000f/XC-1000はコンピュータと専用のPC I/F接続ケーブルを接続することにより、コンピュータでXC-2000f/XC-1000を鳴らしたり、XC-2000f/XC-1000でのキーボード演奏をコンピュータに記録するなど前述のMIDIと同様に行えます。

XC-2000f/XC-1000は、次のコンピュータと専用PC I/F接続ケーブルで接続することができます。

#### IBM PC (互換機):

接続キットAG-001A/AG-001(接続ケーブル、ドライバーソフトウェア“KORG MIDI Driver”)[別売]。ただし、Windowsに対応していないアプリケーションでは、特にXC-2000f/XC-1000をサポートしている場合を除いて、この接続ではご利用になれません。

#### Apple Macintosh シリーズ:

接続キットAG-002(接続ケーブル、ドライバーソフトウェア“KORG MIDI Driver”)[別売]。

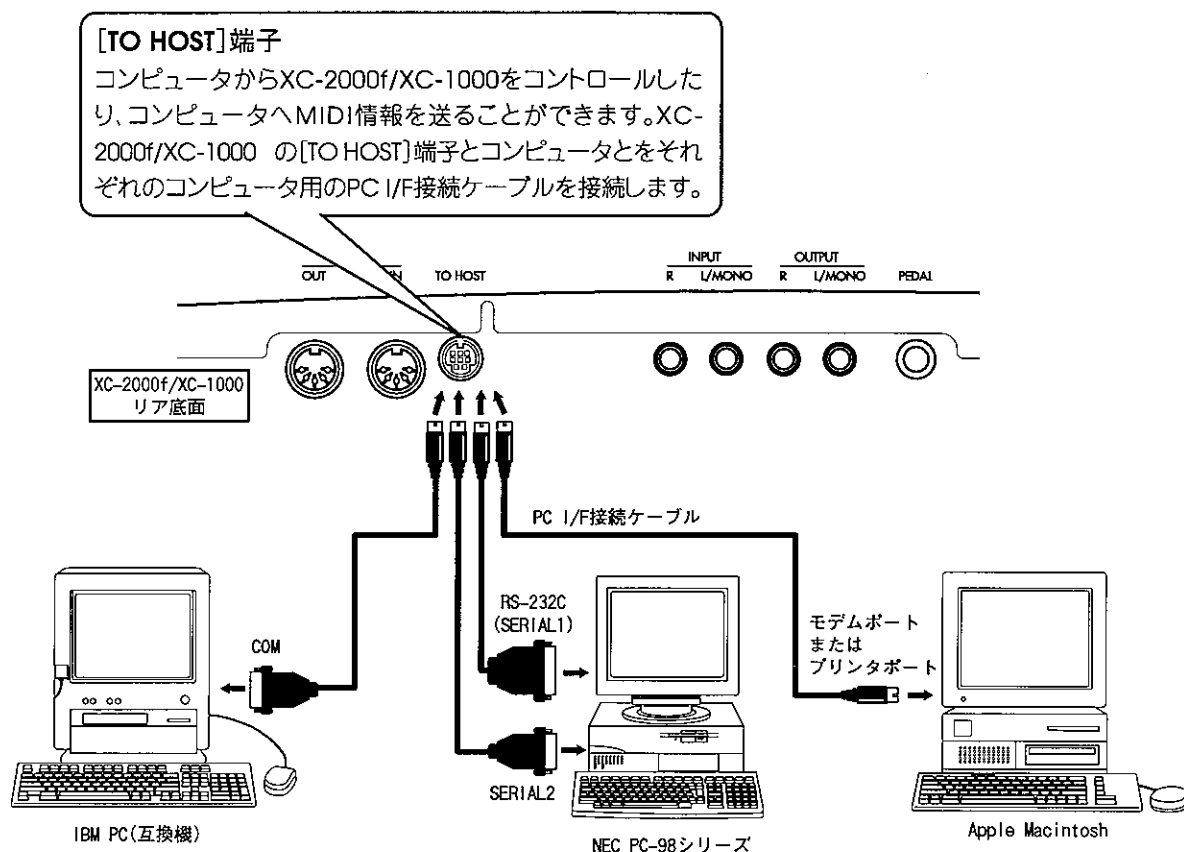
#### NEC PC-98シリーズ:

##### RS-232C (SERIAL1)を利用する場合

接続キットAG-003(接続ケーブル、ドライバーソフトウェア“KORG MIDI Driver”)[別売]。ただし、コンピュータの機種、またはアプリケーション(シーケンサー)の種類によってはご使用になれませんので注意してください。アプリケーション(シーケンサー)はRS-232C/MIDI変換アダプターの使用できるもの、またはWindowsに対応しているものに限りです。

##### SERIAL2 を利用する場合

接続キットAG-001A(接続ケーブル、ドライバーソフトウェア“KORG MIDI Driver”)[別売]。ただし、Windowsに対応していないアプリケーションでは、特にXC-2000f/XC-1000をサポートしている場合を除いて、この接続ではご利用になれません。







**XC-2000f/XC-1000の[MIDI OUT]と[TO HOST]の両方を外部の一台の機器に接続しないでください。必ずどちらか一方だけを接続してください。**

**XC-2000f/XC-1000はコンピュータから受信したデータをMIDI OUTに送信したり、MIDI INから受信したデータをコンピュータ側へ送信することはできません。**

### IBM PC (互換機)との接続

1. IBM PC (互換機)のシリアルポート(COMポート)とXC-2000f/XC-1000の[TO HOST]端子を専用のPC I/F接続ケーブル(AG-001A/AG-001[別売])で接続します。  
コンピュータのシリアルポートが25ピンの場合は9ピン→25ピン変換アダプター(AG-004[別売])をご利用ください。
2. [MIDI]スイッチを押しながら、[ORGAN]スイッチを押します。
3. [-/DOWN]スイッチを押して、同期周波数を“38.4”(38.4kBPS)に設定します。
4. Windowsでお使いになる場合は、KORG MIDI Driverをインストールします。インストールの方法は、55ページをご覧ください。

### Apple Macintoshとの接続

1. Apple MacintoshのモデムポートあるいはプリンタポートとXC-2000f/XC-1000の[TO HOST]端子を専用のPC I/F接続ケーブル(AG-002[別売])で接続します。
  2. [MIDI]スイッチを押しながら、[ORGAN]スイッチを押します。
  3. [+UP]スイッチを押して、同期周波数を“31.2”(31.25kBPS)に設定します。
- KORG MIDI Driverをお使いになる場合は59ページをご覧ください。

### NEC PC-98シリーズとの接続

#### RS-232C (SERIAL1)を利用する場合

1. NEC PC-98シリーズのRS-232C(SERIAL1)端子とXC-2000f/XC-1000の[TO HOST]端子を専用のPC I/F接続ケーブル(AG-003[別売])で接続します。
2. [MIDI]スイッチを押しながら、[ORGAN]スイッチを押します。
3. [+UP]スイッチを押して、LED画面の数値を“31.2”(31.25kBPS)に設定します。
4. MS-DOS上のアプリケーション(シーケンサー)をお使いになる場合は、RS-232C/MIDI変換アダプターモードに設定します。また、Windowsでお使いになる場合は、KORG MIDI Driverをインストールします。インストールの方法は、55ページをご覧ください。

#### SERIAL2 を利用する場合

1. NEC PC-98シリーズのSERIAL2端子とXC-2000f/XC-1000の[TO HOST]端子を専用のPC I/F接続ケーブル(AG-001A[別売])で接続します。
2. [MIDI]スイッチを押しながら、[ORGAN]スイッチを押します。
3. [-/DOWN]スイッチを押して、同期周波数を“38.4”(38.4kBPS)に設定します。
4. Windowsでお使いになる場合は、KORG MIDI Driverをインストールします。インストールの方法は、55ページをご覧ください。

## ST-3000 (付属) スタンドの組み立て方

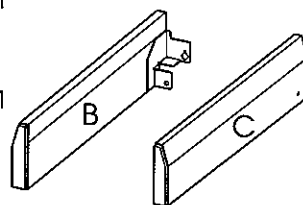
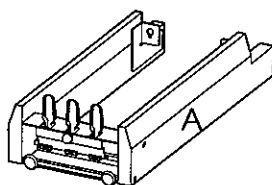
- ・ 箱を開けて部品を取り出し、各部品がそろっているかを確認してください。
- ・ 組み立てにあたって、+ (プラス) のドライバーをご用意ください。
- ・ 部品の種類や向きをまちがわないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- ・ 必ず二人以上で組み立ててください。特に大きな部品をネジ止めするときなどは、部品を支える人とネジ止めをする人というように、分担して作業を進めてください。作業中にピアノを起こすときも同様に注意してください。楽器やスタンドは重量が大きいので、作業中は確実に支えていないと、ネジやネジ穴に無理な力が掛かったり、転倒して、破損やけがの原因となります。

- 1 長ネジ……2×  
2 中ネジ……6×  
3 短ネジ……2×  
4 スプリングワッシャー……8×  
5 キャップ……6×

A ペダルスタンド……1

B 左側板……1

C 右側板……1



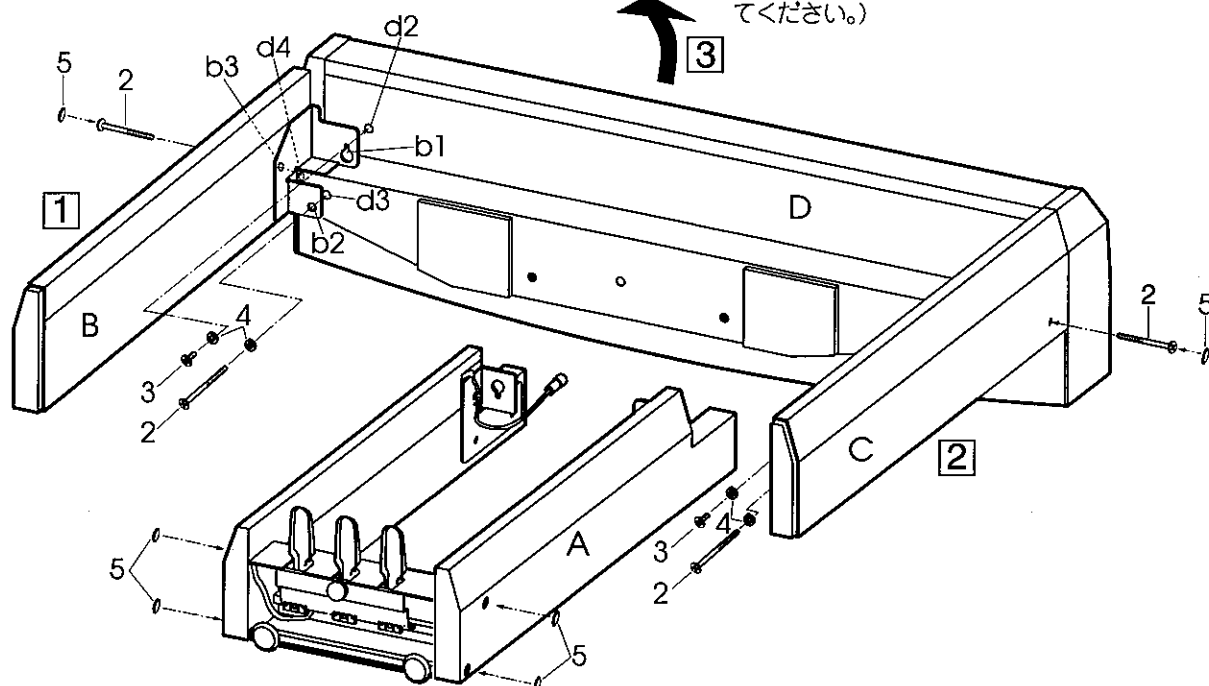
- ・ 組み立ては下図のように本体背面側を床に置いて行うと容易に組み立てられます。その際に本体包装用シートを下に敷いて床面の保護に役立ててください。

- 1** 左側板“B”をピアノ本体“D”に取り付けます。
1. 左側板内側の“b1”とピアノ本体底面の“d2”を合わせて、スプリングワッシャー“4”を入れた短ネジ“3”で仮締め(ネジを緩めた状態)にします。
  2. 左側板内側の“b2”とピアノ本体底面の“d3”を合わせて、スプリングワッシャー“4”を入れた中ネジ“2”で仮締めにします。
  3. 左側板外側の“b3”とピアノ本体側面の“d4”を合わせて、中ネジ“2”で仮締めにします。

4. 3本のネジが入ったことを確認した後、全てのネジを完全に止まるまで締め付けます。

- 2** 右側板“C”を、左側板“B”と同じようにピアノ本体に取り付けます。

- 3** ここまでの作業が終わったことを確認した後、ピアノを起こしてください。  
(キャップは全てのネジ止めが終了してから取り付けてください。)

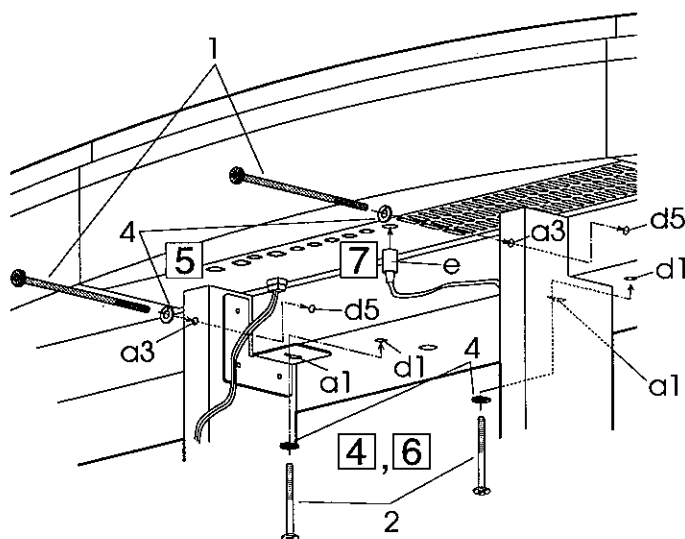


- 4** ペダルスタンド“A”の2箇所の“a1”とピアノ本体“D”底面の2箇所の“d1”を合わせて、スプリングワッシャー“4”を入れた中ネジ“2”で仮締めします。

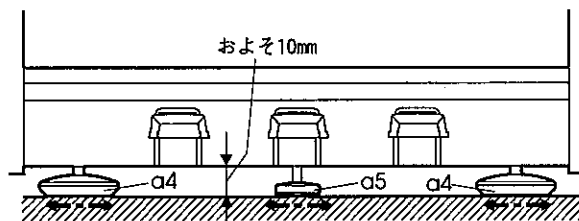
- 5** ピアノ本体背面の2箇所の“d5”とペダルスタンドの2箇所の“a3”を合わせて、スプリングワッシャー“4”を入れた長ネジ“1”で固定します。

- 6** 4で仮締めにしたネジを完全に止まるまで締め付けます。

- 7** ペダル用コネクタ“e”を差し込みます。コネクタの矢印をピアノ正面側に向けて、充分に注意しながら差し込んでください。



- 8** ピアノが水平になるようにアジャスター“a4”を調節します(地面が完全に水平なところに設置する場合、ペダルスタンドの下側と地面との間が10mmくらいが目安となります)。続いてペダルスタンド底部(正面)のアジャスター“a5”を床に接触するまで調節します。3つのアジャスターがきちんと調節されていないと、楽器の音がビリつくことがあります。



### [点検]



ときどきスタンドの点検をしてください。長期間ご使用になっているうちに、スタンド各部のネジの締め付けが徐々にゆるんできて、スタンドの揺れがはげしくなることがあります。このような場合には必ず各ネジをもう一度締め直してからご使用ください。ネジが緩んだままの状態でご使用を続けると、スタンドの破損や倒壊の原因となり、たいへん危険です。使用場所を移動する場合も同様に各ネジを締め直してから移動させてください。

電源コードを側板、ペダルスタンド、アジャスター等の下にはさみこんだ状態でご使用になるのはたいへん危険です。十分にご注意ください。

その他異常があった場合には使用を中止して、コルグ営業所、またはお買い上げになった販売店に修理を依頼してください。

ピアノの設置場所を移動するときに引きずって行くと床面を傷つけます。必ず2人以上で持ち上げて行ってください。

## 2. PC-3000 (付属) イスの組み立て方

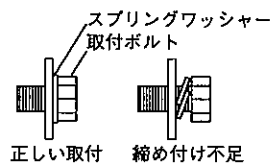
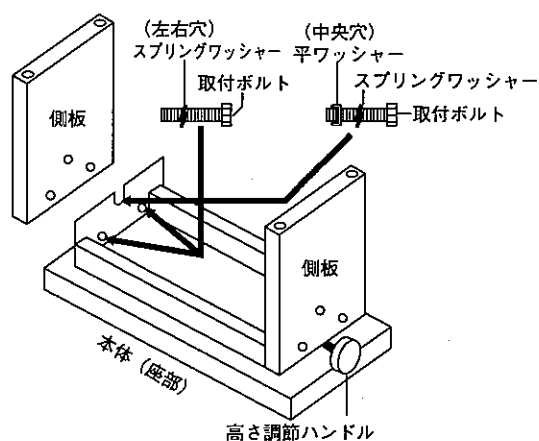
1. 部品がそろっているかご確認ください。

本体(座部) ..... ×1  
 側板 ..... ×2  
 取付けボルト ..... ×6  
 スプリングワッシャー ..... ×6  
 平ワッシャー ..... ×2  
 スパナ ..... ×1

2. イス本体の座部を下向きにし、安定した平らな場所に置いてください。

3. 側板のボルト穴を座部のボルト穴に合わせ、座部の内側からワッシャーを入れた取付けボルトで両側板を軽く締めてください。

4. 次にイスを起こして側板を床面に合わせて調節した後、専用スパナで各取付けボルトをしっかりと締め付けてください。



### [点検]




ときどきイスの点検をしてください。側板取付けボルトのゆるみなどがあった場合には締め直してください。また、その他異常があった場合には使用を中止して、コルグ営業所、またはお買い上げになった販売店に修理を依頼してください。

### 3. KORG MIDI Driverのインストールとセットアップ

XC-2000f/XC-1000とコンピュータを接続するためのオプション[別売]AG-001A/AG-001、AG-002、AG-003には、“KORG MIDI Driver”が付属されています。IBM PC(互換機)、NEC PC-98シリーズでお使いになるアプリケーション(シーケンサー)がWindowsに対応している場合にKORG MIDI Driverを使用しますと、シリアルポート(COM, RS-232C, Serial2)に接続したXC-2000f/XC-1000をMIDIデバイスとして扱えるようになります。また、Apple Macintoshシリーズでお使いになるアプリケーション(シーケンサー)がApple MIDI Managerに対応している場合にKORG MIDI Driverを使用しますと、シリアルポート(モデム、プリンタ)に接続したXC-2000f/XC-1000とMacintoshとの間で相互に情報のやり取りが行えるようになります。

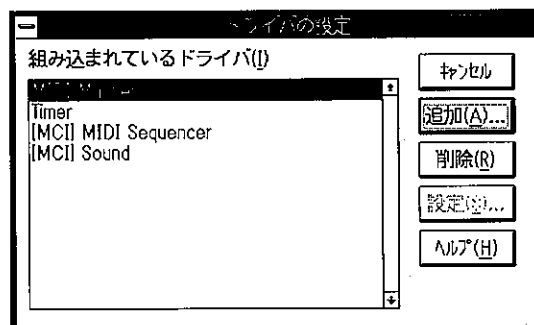
#### KORG MIDI DriverのWindows 3.1 へのインストール

 お使いのコンピュータの処理速度が十分に速くない場合、MIDI INデータを正しく受信できないことがあります。

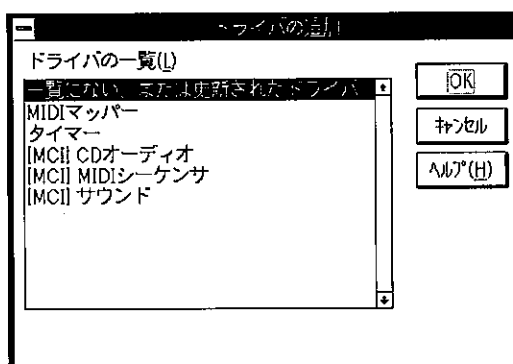
1. コントロールパネルの中のドライバアイコンをダブルクリックします。



2. [追加] ボタンをクリックします。

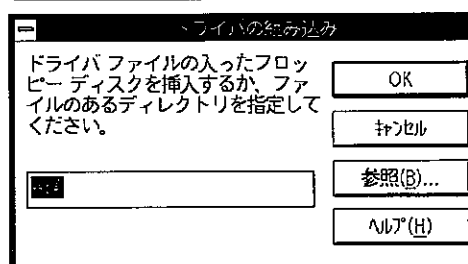


3. ドライバの一覧の中から[一覧にない、または更新されたドライバ]を選び、[OK] ボタンをクリックします。

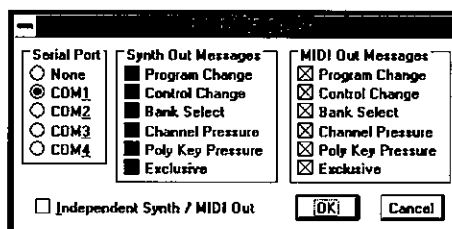


4. AG001A/AG-001、AG-003の付属ディスクをコンピュータのドライブに挿入します。Aドライブに入れた場合は“A:¥” (Bドライブの場合は“B:¥”)と入力し、[OK] ボタンをクリックします。

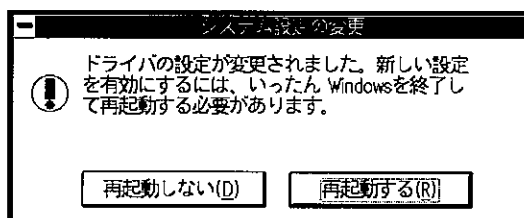
ただし、PC-98シリーズでAG-001Aの付属ディスクからインストールする場合は、ディスクをAドライブに入れた場合は“A:¥PC98” (Bドライブの場合は“B:¥PC98”)と入力し、[OK] ボタンをクリックしてください。



5. KORG PC/IF Driverを選び、[OK] ボタンをクリックすると、セットアップの画面になります。次の「KORG MIDI Driver(Windows)のセットアップ」に従って、セットアップを行ってください。



6. セットアップ後、ドライバを有効にするために、ディスクを取り出し、[再起動する]を選択します。

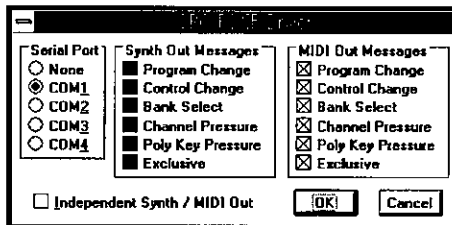


## KORG MIDI Driver (Windows) のセットアップ

1. コントロールパネルの中のドライバアイコンをダブルクリックし、[KORG PC/IF Driver]を選び、設定のボタンをクリックするとセットアップの画面になります。

2. Serial PortではXC-2000f/XC-1000を接続したシリアルポートを[COM1]～[COM4]の中から選びます。PC-98シリーズではRS-232C(SERIAL1)に接続している場合は[COM1]に、SERIAL2に接続している場合は[COM2]を選んでください。

KORG MIDI Driverを組み込んだ後に、シリアルポートを別の用途に使うときには、ドライバを削除 (Delete) するか、または[None]を選んでドライバを無効にしてください。



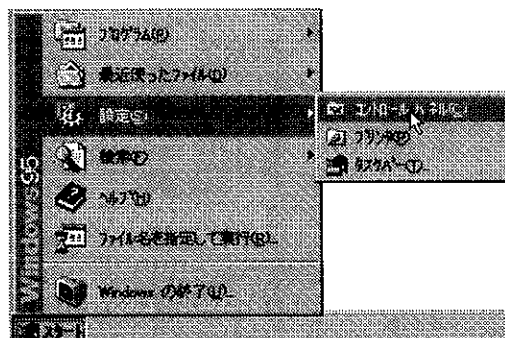
3. XC-2000f/XC-1000と接続したときは、[Independent Synth/MIDI Out]は使用しませんので、チェックしないでください。チェックすると誤動作の原因になります。
4. [MIDI Out Messages]ではXC-2000f/XC-1000へ送るメッセージを選ぶことができます。
5. 選択が終わったら[OK] ボタンをクリックします。また、無効にしたい場合は[Cancel]をクリックします。

## KORG MIDI DriverのWindows95へのインストール

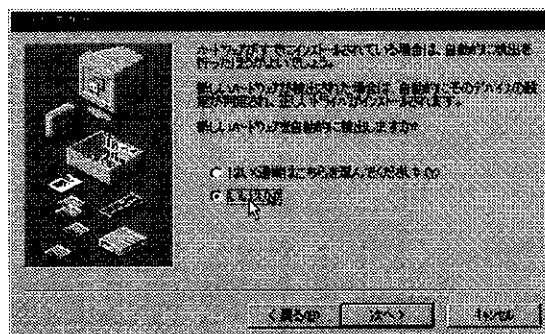


お使いのコンピュータの処理速度が十分に速くない場合、MIDI INデータを正しく受信できないことがあります。

1. タスクバーの[スタート]ボタンをクリックして、[設定]の中の[コントロールパネル]をクリックします。

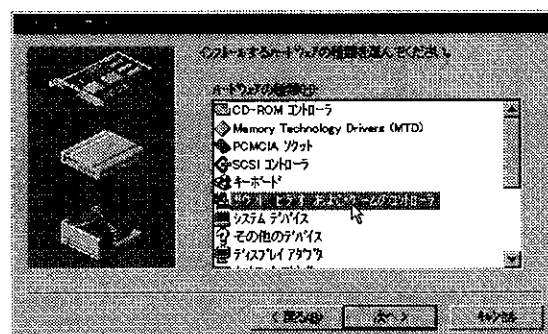


2. コントロールパネルの中の[ハードウェア]アイコンをダブルクリックすると、ハードウェアウィザードが起動するので[次へ>]ボタンをクリックします。



3. 「新しいハードウェアを自動的に検出しますか?」という質問に対して、必ず[いいえ]を選び、[次へ>]ボタンをクリックします。

4. [サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ]を選び、[次へ>]ボタンをクリックします。

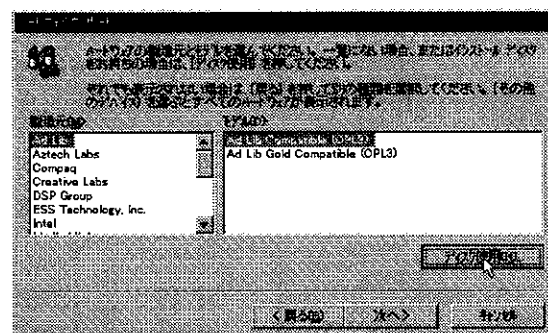


5. [ディスク使用]をクリックします。

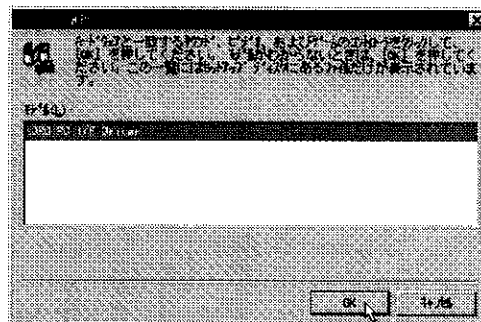
ドライブとディレクトリを指定するダイアログが表示されます。

6. AG001A/AG-001、AG-003の付属ディスクをコンピュータのドライブに挿入します。Aドライブに入れた場合は「A:¥」(Bドライブの場合は「B:¥」)と入力し、[OK]ボタンをクリックします。

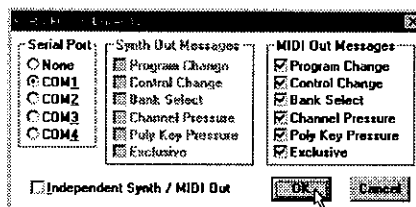
ただし、PC-98シリーズでAG-001Aの付属ディスクをインストールする場合は、ディスクをAドライブに入れた場合は「A:¥PC98」(Bドライブの場合は「B:¥PC98」)と入力し、[OK]ボタンをクリックしてください。



7. [OK] ボタンをクリックして、[完了]をクリックします。



8. 「KORG MIDI Driver (Windows) のセットアップ」(56ページ)に従ってセットアップを行い、[OK] ボタンをクリックします。



9. ドライバーを有効にするために必ず再起動させてください。



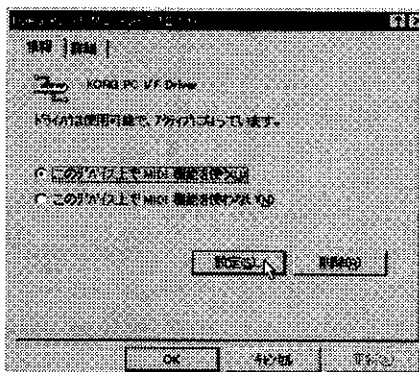
## KORG MIDI DriverのWindows95のセットアップを変更する場合

1. コントロールパネルの中の[マルチメディア]アイコンをダブルクリックすると、マルチメディアのプロパティダイアログが表示されます。
2. 右上の[詳細設定]タブをクリックします。
3. [MIDIデバイス]の[+]をクリックして(表示が[-]に変わります) [KORG PC I/F MIDI Port]をクリックします。
4. [プロパティ]ボタンをクリックします。



KORG PC I/F MIDI Port のプロパティが表示されます。

5. [設定] ボタンをクリックします。



「KORG MIDI Driver (Windows) のセットアップ」(56ページ)に従ってセットアップを行い、[OK] ボタンをクリックします。

設定を変更した場合にはWindowsを再起動させてください。



## KORG MIDI DriverのMacintoshへのインストール

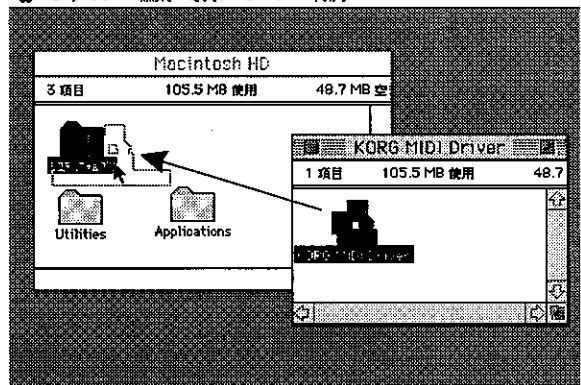


KORG MIDI Driverを使用するには、あらかじめApple MIDI ManagerおよびPatchBayがインストールされている必要があります。Apple MIDI ManagerおよびPatchBayは、お使いのMIDIアプリケーションに付属されているものをお使いください。AG-002には付属されていません。

KORG MIDI Driverを使うと、“Modem MIDI Out/Port setting”ダイアログ(60ページ参照)でXC-2000f/XC-1000に送るMIDIチャンネルとメッセージの種類を設定することができます。そのような機能が必要ない場合は、KORG MIDI Driverを使わずに、Apple MIDI Driverをそのまま使用することができます。Apple MIDI Driverを使う場合や、Apple MIDI Managerを使用しないMIDIアプリケーション(シーケンサー)を使う場合は60ページをご覧ください。

1. AG-002の付属ディスク内のKORG MIDI Driverを起動ディスクのシステムフォルダにコピーします。
2. システムフォルダ内にApple MIDI Driverがあるときは削除するか、他のフォルダに移動してください。Apple MIDI Managerは削除や移動を行わないように注意してください。  
※ KORG MIDI Driverは、Apple MIDI Driverの機能を含んでいます。
3. 特別メニューから“再起動”を選択します。

ファイル 編集 表示 ラベル 特別



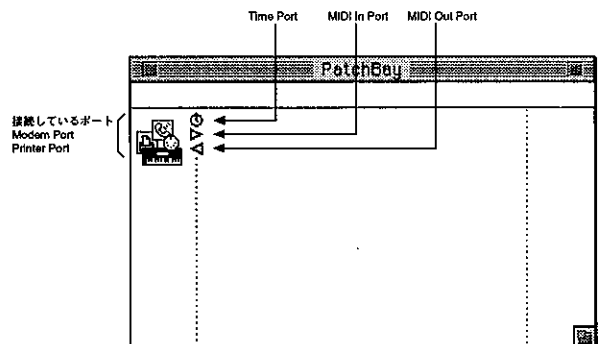
## KORG MIDI Driver (Macintosh) のセットアップ

1. PatchBayを起動します。

インストールが正しく行われた後、PatchBayを起動すると右図のようにPatchBayウインドウ内にKORG MIDI Driverのアイコンが表示されます。(Modem/Printerの各ポートはセットアップの状態により表示が異なる場合があります。)

2. PatchBayの中のKORG MIDI Driverのアイコンをダブルクリックします。

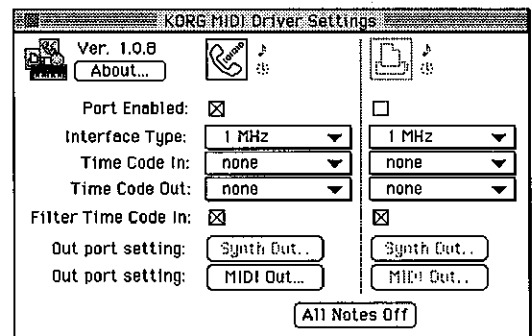
セットアップダイアログが表示されます。



3. XC-2000f/XC-1000を接続しているポートのPort Enabledをチェックし、Interface Typeを[1MHz]に設定します。

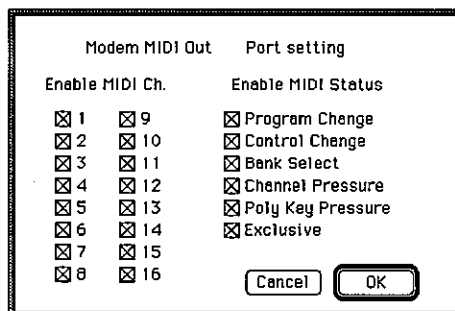
(XC-2000f/XC-1000には、KORG PC IFが内蔵されていないので、[KORG PCIF]は選択しないでください。)

4. [Out Port Setting] ボタンを押します。



次のダイアログが現れます。ここで各ポートへ出力されるMIDIチャンネル/メッセージを選択することができます。チェックされているチャンネル/メッセージのみ出力します。

5. 設定後、[OK]ボタンを押します。
6. MIDIアプリケーション(シーケンサー)を起動して、MIDIアプリケーションのOut Portの◀からマウスをドラッグしてMIDI DriverのMIDI Outに接続します。



・ PatchBayの使用方法については、“”メニューの“About PatchBay...”等の説明をご覧ください。

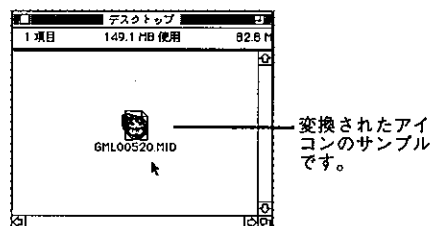
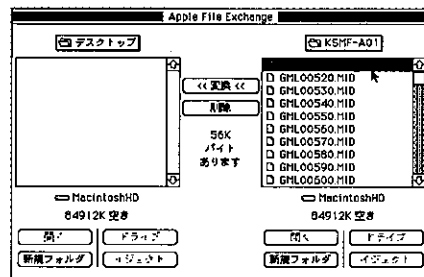
Apple MIDI Driverを使う場合は、(KORG MIDI Driverがシステムフォルダ内にあるときは、削除または移動した後)PatchBayを起動し、その中のApple MIDI Driverのアイコンをダブルクリックして、XC-2000f/XC-1000を接続したPortのEnabledをチェックし、Interface Typeを[1MHz]に設定して、ダイアログを閉じます。PatchBay上で、MIDIアプリケーション(シーケンサー)のOutPortの◀からマウスをドラッグして、MIDI Outに接続します。

Apple MIDI Managerを使用しないMIDIアプリケーション(シーケンサー)を使う場合は、XC-2000f/XC-1000が接続されているPortを選択し、クロックの設定を[1MHz]に設定してください。

### AG-002付属のMIDI File Translatorについて

市販のスタンダードMIDIファイル(SMF)のソングファイルのほとんどが、MS-DOSフォーマットで保存されています。AG-002に付属されているMIDI File Translatorは、これらのMS-DOSのSMFソングファイルをMacintoshのMIDIアプリケーションがSMFとして認識できるように変換するApple File Exchange用のTranslator(翻訳プログラム)です。

1. MIDI File TranslatorをApple File Exchangeと同じフォルダに入れます。
2. Apple File Exchangeをダブルクリックして、起動します。
3. 変換したいMS-DOSディスクをドライブに挿入します。  
右のような画面が現れます(画面上はKORG SMFライブラリKSMF-A01です)。MS-DOSフォーマットのディスクは必ず"Apple File Exchange"を起動させてから、ディスクドライブに入れてください。
4. 変換したいソング(曲)ファイルを選びます。
5. 中央の「<<変換<<」(又は「>>変換>>」)ボタンを押します。  
変換が始まります。棒グラフが100%までいくと、変換が完了します。左側のボックスに変換されたファイルが現れます。
6. Apple File Exchangeを終了します。



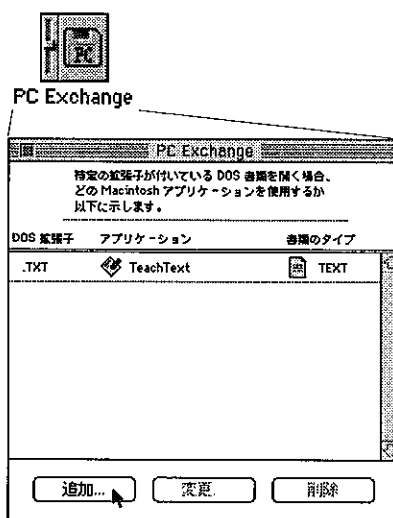
## PC ExchangeによるSMFの変換方法

MacintoshのシステムにApple File Exchangeが付属されていない場合は、PC Exchangeを使用することで、MS-DOSフォーマットのSMFソングファイルをMacintoshで認識できるようにすることができます。

例として、KORG Audio Gallery[別売]に付属されているMIDI PlayerでMS-DOSのSMFソングファイルを開くための設定方法を説明します。

### 1. コントロールパネル内のPC Exchangeを開きます。

PC Exchangeのコントロールパネルが現れます。



### 2 [追加...] ボタンを押します。

[DOS拡張子に対応するアプリケーションの指定]ウィンドウが現れます。

### 3 DOS拡張子項目に“MID”と入力します。

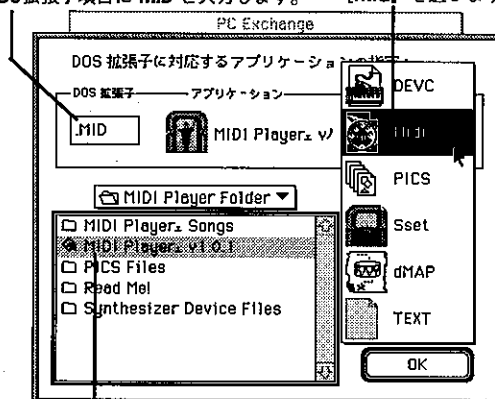
MS-DOSでは、ファイルの種類を分類するために拡張子というピリオドの後に続く3文字をファイル名の後に付けます。SMFには、“.MID”という拡張子をつけるのが一般的です。

### 4 ダイアログの下半分に表示されている一覧から、お持ちのSMFを扱えるMIDIアプリケーション(シーケンサー)を選びます。

ここでは例として、[MIDI Player v1.0.1]を選びます。アプリケーション項目に選択したアイコンが現れます。

### 5 [書類のタイプ]ポップアップメニューから[Midi]を選び、[OK]ボタンをクリックします。

DOS拡張子項目に“MID”と入力します。 [midi] を選びます。

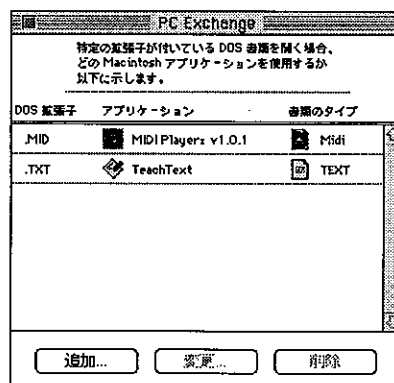


[MIDI Player v1.0.1] を選びます。

PC Exchangeウィンドウに追加された項目が表示され、登録されました。

MS-DOSのSMFをディスクドライブに挿入すると、そのまま使用することができます。

\* 詳しくは“Macintosh PC Exchange”の解説をご覧ください。



## 4. MIDIインプリメンテーション

### 1. TRANSMITTED DATA

#### 1-1 CHANNEL MESSAGES

Status	Second	Third	Description	ENA
1000 nnnn	0kkk kkkk	0100 0000	Note Off kkk kkkk = 16-114	A
1001 nnnn	0kkk kkkk	0vvv vvvv	Note On kkk kkkk = 16-114 vvv vvvv = 1-127	A
1010 nnnn	0kkk kkkk	0vvv vvvv	Poly Key Pressure (Recorded Data)	C, Q
1011 nnnn	0000 0000	0mmm mmmm	Bank Select(MSB)	*1 P
1011 nnnn	0010 0000	0111 1111	Bank Select(LSB)	*1 P
1011 nnnn	0100 0000	0vvv vvvv	Damper Pedal vvv vvvv = 0-127	C
1011 nnnn	0100 0010	0000 0000	Sostenuto Off	C
1011 nnnn	0100 0010	0111 1111	Sostenuto On	C
1011 nnnn	0100 0011	0vvv vvvv	Soft Pedal vvv vvvv = 0-127	C
1011 nnnn	0ccc cccc	0vvv vvvv	Control Data (Recorded Data) ccc cccc = 0-127	C
1100 nnnn	0ppp pppp	-----	Program Change ppp pppp = 0-127	*1 P
1101 nnnn	0vvv vvvv	-----	Channel Pressure	C

nnnn : MIDI Channel No. (0-15)

vvvv : Value

ENA = A : Always Enabled

C : Enabled when Control Filter is ENA

P : Enabled when Program Filter is ENA

Q : Enabled when sequence is playing (transmitting)  
or recording (receiving)

\*1 :  
 XC-2000f    PIANO1 ~ STRINGS    : mm, ll, pp = 00, 04, 00 ~ 06  
              Drum1                : mm, ll, pp = 3E, 00, 00  
              Drum2                : mm, ll, pp = 3E, 00, 10  
              Drum3                : mm, ll, pp = 3E, 00, 19  
              Drum4                : mm, ll, pp = 3E, 00, 20  
              Drum5                : mm, ll, pp = 3E, 00, 28  
              Drum6                : mm, ll, pp = 3E, 00, 40  
              Drum7                : mm, ll, pp = 3E, 00, 18  
              Drum8                : mm, ll, pp = 3E, 00, 30  
              GM1 ~ GM128        : mm, ll, pp = 38, 00, 00 ~ 7F  
  
 XC-1000     PIANO1 ~ STRINGS    : mm, ll, pp = 00, 04, 00 ~ 06  
              Drum1                : mm, ll, pp = 3E, 00, 00  
              Bass1 ~ Bass8       : mm, ll, pp = 38, 00, 20 ~ 27

#### 1-2 SYSTEM COMMON MESSAGES

Status	Second	Third	Description
1111 0010	0sss ssss	0ttt tttt	Song Position Pointer sss ssss : Least significant(LSB)*2 ttt tttt : Most significant(MSB) *2
1111 0011	0000 ssss	-----	Song Select ssss : Song No. = 0-9

\*2 : For Example Time Signature = 4/4, 8/8

tt, ss = 00, 10 / Measure

#### 1-3 SYSTEM REALTIME MESSAGES

Status	Description
1111 1000	Timing Clock *3
1111 1010	Start *3
1111 1011	Continue *3
1111 1100	Stop *3
1111 1110	Active Sensing

\*3 : Transmits when Recorder is playing or recording (Internal Clock)

### 1-4 UNIVERSAL SYSTEM EXCLUSIVE MESSAGE (DEVICE INQUIRY REPLY)

Byte	Description
1111 0000	Exclusive Status
0111 1110	Non Realtime Message
0000 gggg	MIDI GLOBAL CHANNEL (DEVICE ID)
0000 0110	INQUIRY MESSAGE
0000 0010	IDENTITY REPLY
0100 0010	KORG ID (MANUFACTURERS ID)
0100 0011	XC-series ID (FAMILY CODE (LSB))
0000 0000	(FAMILY CODE (MSB))
0001 1111	(MEMBER CODE (LSB))
0000 0000	(MEMBER CODE (MSB))
0*** ****	ROM No. 1- (Minor Ver. (LSB))
0000 0000	(Minor Ver. (MSB))
0*** ****	SOFT VER. 1- (Major Ver. (LSB))
0000 0000	(Major Ver. (MSB))
1111 0111	END OF EXCLUSIVE

Transmits when INQUIRY MESSAGE REQUEST Received

 i 1111 = 0D (XC-2000f)  
          = 1D (XC-1000)

### 1-5 STRUCTURE OF KORG SYSTEM EXCLUSIVE MESSAGES

1st Byte = 1111 0000 : Exclusive Status  
 2nd Byte = 0100 0010 : KORG ID  
 3rd Byte = 0011 gggg : Format ID g:Global Ch.  
 4th Byte = 0100 0011 : XC-series ID  
 5th Byte = 0fff ffff : Function Code  
 6th Byte = 0ddd dddd : Data  
 LastByte = 1111 0111 : End of Exclusive ..... EOX

Ex. Header

### 2. RECOGNIZED RECEIVE DATA

#### 2-1 CHANNEL MESSAGES

Status	Second	Third	Description	ENA
1000 nnnn	0kkk kkkk	0xxx xxxx	Note Off	A
1001 nnnn	0kkk kkkk	0000 0000	Note Off	A
1001 nnnn	0kkk kkkk	0vvv vvvv	Note On vvv vvvv = 1-127	A
1010 nnnn	0kkk kkkk	0vvv vvvv	Poly Key Pressure (for Seq. rec)	C, Q
1011 nnnn	0000 0000	0mmm mmmm	Bank Select(MSB)	*1 P
1011 nnnn	0000 0001	0vvv vvvv	Modulation1 Depth (Pitch Modulation)	C
1011 nnnn	0000 0010	0vvv vvvv	Modulation2 Depth (CutOff Modulation)	C
1011 nnnn	0000 0110	0vvv vvvv	Data Entry(MSB)	C
1011 nnnn	0000 0111	0vvv vvvv	Volume vvv vvvv = 0-127	C
1011 nnnn	0010 0000	0111 1111	Bank Select(LSB)	*1 P
1011 nnnn	0010 0110	0vvv vvvv	Data Entry(LSB)	C
1011 nnnn	0100 0000	0vvv vvvv	Damper Pedal vvv vvvv = 0-127	C
1011 nnnn	0100 0010	0xxx xxxx	Sostenuto Off	C
1011 nnnn	0100 0010	01xx xxxx	Sostenuto On	C
1011 nnnn	0100 0011	0vvv vvvv	Soft Pedal vvv vvvv = 0-127	C
1011 nnnn	0100 1000	0vvv vvvv	Release Time	*4 C
1011 nnnn	0100 1001	0vvv vvvv	Attack Time	*4 C
1011 gggg	0101 1100	0000 0000	Effect1 OFF	C
1011 gggg	0101 1100	0xxx xxxx	Effect1 ON	C
1011 gggg	0101 1110	0000 0000	Effect2 OFF	C
1011 gggg	0101 1110	0xxx xxxx	Effect2 ON	C
1011 nnnn	0110 0100	0000 00rr	RPN Parameter No.(LSB)	*3 A
1011 nnnn	0110 0101	0000 0000	RPN Parameter No.(MSB)	*3 A
1011 nnnn	0111 1000	0000 0000	All Sound Off	C
1011 nnnn	0111 1001	0000 0000	Reset All Controllers	C
1011 nnnn	0111 1010	0000 0000	Local Control Off	A
1011 nnnn	0111 1010	0111 1111	Local Control On	A
1011 nnnn	0111 1011	0000 0000	All Notes Off	A
1011 nnnn	0111 110x	0000 0000	Omni Mode Off/On (All Notes Off)	A
1011 nnnn	0111 1110	000m mmmm	Mono Mode On (All Notes Off)	A
		mmmm = 0-16		
1011 nnnn	0111 1111	0000 0000	Poly Mode On (All Notes Off)	A
1100 nnnn	0ppp pppp	-----	Program Change	*1, *2 P
1101 nnnn	0vvv vvvv	-----	Channel Pressure	C
1110 nnnn	0bbb bbbb	0bbb bbbb	Bank Change	C

9999 : Global Channel  
 xxxx xxxxx : random (>0)

```
*1 :
  XC-2000f      MIDI In      : Program
    mm, ll, pp = 00, 04, 00 - 06 : PIANO1 ~ STRINGS
                = 38, 00, 00 - 7F : GM1 ~ GM128
                = 3E, 00, 00      : Drum1
                = 3E, 00, 10      : Drum2
                = 3E, 00, 19      : Drum3
                = 3E, 00, 20      : Drum4
                = 3E, 00, 28      : Drum5
                = 3E, 00, 40      : Drum6
                = 3E, 00, 18      : Drum7
                = 3E, 00, 30      : Drum8

  XC-1000
    = 00, 04, 00 - 06 : PIANO1 ~ STRINGS
    = 38, 00, 20 - 27 : Bass1 ~ Bass8
    = 3E, 00, 00      : Drum1
```

\*2 : After processing (while Exclusive = ENA)  
 transmits exclusive message  
 [DATA LOAD COMPLETED] or [DATA LOAD ERROR].

\*3 : xr = 0 : Pitch Bend Sensitivity  
       = 1 : Fine Tune  
       = 2 : Coarse Tune

\*4 : vv < 40 : Fast  
       = 40 : No change  
       > 40 : Slow

## 2-2 SYSTEM COMMON MESSAGES

Status	Second	Third	Description
1111 0010	0sss ssss	0ttt tttt	Song Position Pointer
1111 0011	000s ssss	---- ----	Song Select

Received when in SONG mode (External Clock)

## 2-3 SYSTEM REALTIME MESSAGES

Status	Description
1111 1000	Timing Clock *5
1111 1010	Start *5
1111 1011	Continue *5
1111 1100	Stop *5
1111 1110	Active Sensing *5

\*5 Received when in SONG mode (External Clock)

## 2-4 UNIVERSAL SYSTEM EXCLUSIVE MESSAGE (NON REALTIME)

Byte	Description
1111 0000	EXCLUSIVE STATUS
0111 1110	NON REALTIME MESSAGE
0ggg gggg	MIDI CHANNEL *6
0000 aaaa	SUB ID 1 *7
0000 00bb	SUB ID 2 *7
1111 0111	END OF EXCLUSIVE

\*6 : gg = 0-F : Received if Global Channel  
       = 7F : Received on any Channel

\*7 : a, b = 06, 01 : INQUIRY MESSAGE REQUEST  
       09, 01 : GENERAL MIDI MODE ON  
       (Received anytime except when Seq playing/recording)

## 2-5 UNIVERSAL SYSTEM EXCLUSIVE MESSAGE (REALTIME)

Byte	Description
1111 0000	EXCLUSIVE STATUS
0111 1111	REALTIME MESSAGE
0ggg gggg	MIDI CHANNEL *6
0000 0100	SUB ID 1
0000 00bb	SUB ID 2
0vvv vvvv	VALUE(LSB) *8
0mmmm mmmmm	VALUE(MSB) *8
1111 0111	END OF EXCLUSIVE

\*8 : b = 01 : MASTER VOLUME (mm, vv = 00,00 - 7F, 7F : Min ~ Max)  
       = 02 : MASTER BALANCE  
       (mm, vv = 0, 00 - 40, 00 - 7F, 7F : L ~ Center ~ R)

## 3. MIDI EXCLUSIVE FORMAT (R:Receive, T:Transmit)

### ALL SONG DATA DUMP

Byte	Description
F0, 42, 3g, 43	EXCLUSIVE HEADER
0100 1000	ALL SONG DATA DUMP
0sss ssss	Seq. Data Size
0ddd dddd	Control Data
0ddd dddd	Sequence Data
1111 0111	EOX

[ デジタルピアノ ]

XC-2000f/XC-1000

MIDIインプリメンテーションチャート

ファンクション…		送 信	受 信	備 考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	1 1~16	1 1~16	
モード	電源ON時 メッセージ 代用	×	3 ×	
ノート ナンバー :	音域	16~114 *****	0~127 0~108	レコーダーデータは送信時0~127 一部の音色で受信0~127
ベロシティ	ノート・オン ノート・オフ	1~127 ×	1~127 ×	レコーダーデータは送信時2~126
アフター タッチ	キー別 チャンネル別	×	○ ○	キー別はレコーダーデータのみ
ピッチ・ベンド		×	○	*C
コントロール チェンジ	0,32	○	○	バンクセレクト *P
	1,2	×	○	モジュレーション *C
	6,38	×	○	データエントリー
	7	○	○	ボリューム *C
	10	×	○	パンポット *C,*3
	11	×	○	エクスプレッション *C
	64	○0~127	○0~127	ダンパペダル *C
	66	○	○	ソステヌートペダル *C
	67	○0~127	○0~127	ソフトペダル *C
	72,73	×	○	EG タイム *C
	92,94	×	○	エフェクト 1,2 ON/OFF *C
	100,101	×	○	R P N *2
	120,121 0~101	×	○	オールサウンドオフ,リセットオールコントロール (シーケンスデータ)
プログラム チェンジ :	設定可能範囲	○0~127 *****	○0~127	*P
エクスクルーシブ		○	○	Device Inquiry Sequence Data Dump
コモン :	：ソング・ポジション	○	○	*1
	：ソング・セレクト	○0~9	○0~9	*1
	：チューン	×	×	
リアル タイム :	：クロック	○	○	*1
	：コマンド	○	○	*1
その他 :	：ローカル・ON/OFF	×	○	
	：オール・ノート・オフ	×	○123~127	
	：アクティブ・センシング	○	○	
	：リセット	×	×	
備考	*C：コントロールチェンジがイネーブルに設定されているとき (送) 受信する。 *P：プログラムチェンジがイネーブルに設定されているとき (送) 受信する。 *1：クロックがインターナルのとき送信し受信しない。エクスターナルのときはその逆。 *2：LSB,MSB=00,00：ピッチベンドレンジ,=01,00：ファインチューン,=02,00：コースチューン *3：[PIANO1]、[PIANO2]、[GM] “001” は除く。			

モード1：オムニ・オン、ポリ

モード2：オムニ・オン、モノ

○：あり

モード3：オムニ・オフ、ポリ

モード2：オムニ・オフ、モノ

×：なし

## 5. 音色グループリスト

### [GM] 音色リスト (XC-2000fのみ)

<b>[Piano]</b> 1 Piano 2 BritePiano *3 HammerPno *4 HonkeyTonk 5 New Tines 6 Digi Piano 7 Harpsicord 8 Clav	<b>[Bass]</b> 33 Jazz Bass 34 Deep Bass 35 Pick Bass 36 Fretless 37 SlapBass 1 38 SlapBass 2 *39 SynthBass1 40 SynthBass2	<b>[Reed]</b> 65 SopranoSax 66 Alto Sax 67 Tenor Sax 68 Bari Sax 69 Sweet Oboe 70 EnglishHrn 71 BasoonOboe 72 Clarinet	<b>[SynthEffects]</b> *97 Ice Rain *98 SoundTrack *99 Crystal *100 Atmosphere *101 Brightness *102 Goblin 103 Echo Drop *104 Star Theme
<b>[Percussion]</b> 9 Celesta 10 Glocken 11 Music Box 12 Vibes 13 Marimba 14 Xylophon 15 Tubular 16 Santur	<b>[Strings]</b> 41 Violin 42 Viola 43 Cello 44 ContraBass 45 TremoloStr 46 Pizzicato 47 Harp 48 Timpani	<b>[Pipe]</b> 73 Piccolo 74 Flute 75 Recorder 76 Pan Flute 77 Bottle 78 Shakuhachi 79 Whistle 80 Ocarina	<b>[Ethnic]</b> *105 Sitar 106 Banjoe 107 Shamisen 108 Koto 109 Kalimba *110 Scotland *111 Fiddle 112 Shanai
<b>[Organ]</b> 17 Full Organ *18 Perc Organ 19 BX-3 Organ 20 ChurchPipe 21 Positive 22 Musette 23 Harmonica 24 Tango	<b>[Ensemble]</b> 49 Marcato 50 SlowString *51 Analog Pad 52 String Pad 53 Choir 54 Doo Voice 55 Voices 56 Orch Hit	<b>[Synth Lead]</b> *81 SquareWave *82 Saw Wave *83 SynCaliope *84 Syn Chiff *85 Charang *86 AirChorus *87 Rezzo4ths *88 Bass&Lead	<b>[Percussive]</b> 113 Metal Bell 114 Agogo 115 SteelDrums 116 Woodblock *117 Taiko 118 Tom 119 Synth Tom 120 Rev Cymbal
<b>[Guitar]</b> 25 ClassicGtr 26 A.Guitar 27 JazzGuitar 28 Clean Gtr 29 MuteGuitar 30 Over Drive 31 DistGuitar *32 RockMonics	<b>[Brass]</b> 57 Trumpet 58 Trombone 1 59 Tuba 60 Muted Trpt *61 FrenchHorn 62 Brass *63 SynBrass 1 *64 SynBrass 2	<b>[Synth Pad]</b> *89 Fantasia 90 Warm Pad *91 Poly Pad 92 Ghost Pad *93 BowedGlas *94 Metal Pad *95 Halo Pad 96 Sweep	<b>[Sound Effects]</b> 121 Fret Noise 122 NoiseChiff *123 Seashore *124 Birds *125 Telephone *126 Helicopter *127 Stadium!! 128 GunShot

### [BASS] 音色リスト (XC-1000のみ)

- 01 Jazz Bass
- 02 Deep Bass
- 03 Pick Bass
- 04 Fretless
- 05 SlapBass 1
- 06 SlapBass 2
- \*07 SynthBass1
- 08 SynthBass2

\* のついた音色を選ぶと最大発音数は16音になります。

[PIANO1], [PIANO2] and [GM]  
 "001" sounds processed by Infinity™.



# [DRUM KIT] (ドラムキット) マップ

	Key	PC#	1. GM Kit	Ex. asn	2. Power Kit	Ex. asn	3. Analog Kit	Ex. asn	4. Jazz Kit	Ex. asn
A0	21		↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	23	22	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	24		↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
C1	26	25	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	28	27	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	29		Rock Kick	Off	Ambi.Kick	Off	Syn Kick 3	Off	CrispKick	Off
	31	30	Snare 3	Group6	Rock Snare	Off	Syn Snare2	Off	Snare 4	Group6
	33		Open HHS	Group1	Open HHS	Group1	Open SynHHS	Group1	Open HHS	Group1
	35	32	Fat Kick	Off	Gated Kik	Off	Dance Kick	Off	Ambi.Kick	Off
C2	36	33	Timbale-Paila	Off	Timbale-Paila	Off	Timbale-Paila	Off	Timbale-Paila	Off
	38	34	Snare 1	Group6	TightSnare	Off	Ambi.Snare	Off	RollSnare2	Group6
	40	35	RollSnare1	Group6	Rev Snare	Off	Rev Snare	Off	RollSnare1	Group6
	41	36	Real Kick	Off	Gated Kik	Off	Crisp Kick	Off	Punch Kick	Off
	43	37	ProcesKick	Off	Metal Kick	Off	Syn Kick 1	Off	Rock Kick	Off
	45	38	Side Stick	Off	Side Stick	Off	Syn Rim	Off	Side Stick	Off
C3	47	39	Rock Snare	Group6	PowerSnare	Off	Syn Snare1	Off	Soft Snare	Group6
	49	40	Hand Claps	Off	Hand Claps	Off	Syn Claps	Off	Hand Claps	Off
	51	41	LightSnare	Group6	GatedSnare	Off	LightSnare	Off	Snare 2	Group6
	53	42	Tom Lo	Off	ProcessTom	Off	SynTom1 Lo	Off	Tom Lo	Off
	55	43	Tite HH	Group1	Tite HH	Group1	CloseSynHH	Group1	Tite HH	Group1
	57	44	Tom Lo	Off	ProcessTom	Off	SynTom1 Lo	Off	Tom Lo	Off
C4	59	45	Pedal HH	Group1	Pedal HH	Group1	CloseSynHH	Group1	Pedal HH	Group1
	61	46	Tom Lo	Off	ProcessTom	Off	SynTom1 Lo	Off	Tom Lo	Off
	63	47	Open HHL	Group1	Open HHL	Group1	Open SynHHL	Group1	Open HHL	Group1
	65	48	Tom Hi	Off	ProcessTom	Off	SynTom1 Lo	Off	Tom Hi	Off
	67	49	Tom Hi	Off	ProcessTom	Off	SynTom1 Lo	Off	Tom Hi	Off
	69	50	Crash Cym	Off	Crash Cym	Off	Open SynHH	Off	Crash Cym	Off
C5	71	51	Tom Hi	Off	ProcessTom	Off	SynTom1 Lo	Off	Tom Hi	Off
	73	52	Ride Edge	Off	Ride Edge	Off	Ride Edge	Off	Ride Cym 2	Off
	75	53	China Cym	Off	China Cym	Off	China Cym	Off	China Cym	Off
	77	54	Ride Cup	Off	Ride Cup	Off	Ride Cup	Off	Ride Cym 1	Off
	79	55	Tambourine	Off	Tambourine	Off	Tambourine	Off	Tambourine	Off
	81	56	Splash Cym	Off	Splash Cym	Off	Splash Cym	Off	Splash Cym	Off
C6	83	57	Cowbell	Off	Cowbell	Off	SynCowbell	Off	Cowbell	Off
	85	58	Crash Cym	Off	Crash Cym	Off	Crash Cym	Off	Crash Cym	Off
	87	59	Vibraslap	Off	Vibraslap	Off	Vibraslap	Off	Vibraslap	Off
	89	60	Ride Cym 1	Off	Ride Cym 1	Off	Ride Cym 1	Off	Ride Edge	Off
	91	61	Hi Bongo	Off	Hi Bongo	Off	Hi Bongo	Off	Hi Bongo	Off
	93	62	Lo Bongo	Off	Lo Bongo	Off	Lo Bongo	Off	Lo Bongo	Off
C7	95	63	Mute Conga	Off	Mute Conga	Off	SynTom1 Hi	Off	Mute Conga	Off
	97	64	Open Conga	Off	Open Conga	Off	SynTom1 Hi	Off	Open Conga	Off
	99	65	Open Conga	Off	Open Conga	Off	SynTom1 Hi	Off	Open Conga	Off
	101	66	Hi Timbale	Off	Hi Timbale	Off	Hi Timbale	Off	Hi Timbale	Off
	103	67	Lo Timbale	Off	Lo Timbale	Off	Lo Timbale	Off	Lo Timbale	Off
	105	68	Agogo	Off	Agogo	Off	Agogo	Off	Agogo	Off
C8	107	69	Agogo	Off	Agogo	Off	Agogo	Off	Agogo	Off
	109	70	Cabasa	Off	Cabasa	Off	Cabasa	Off	Cabasa	Off
	111	71	Maracas	Off	Maracas	Off	SynMaracas	Off	Maracas	Off
	113	72	Whistle S	Group2	Whistle S	Group2	Whistle S	Group2	Whistle S	Group2
	115	73	Whistle L	Group2	Whistle L	Group2	Whistle L	Group2	Whistle L	Group2
	117	74	Guiro S	Group3	Guiro S	Group3	Guiro S	Group3	Guiro S	Group3
C9	119	75	Guiro L	Group3	Guiro L	Group3	Guiro L	Group3	Guiro L	Group3
	121	76	Claves	Off	Claves	Off	Syn Claves	Off	Claves	Off
	123	77	WoodBlock2	Off	WoodBlock2	Off	WoodBlock2	Off	WoodBlock2	Off
	125	78	WoodBlock3	Off	WoodBlock3	Off	WoodBlock3	Off	WoodBlock3	Off
	127	79	Hi Cuica	Group4	Hi Cuica	Group4	Hi Cuica	Group4	Hi Cuica	Group4
	129	80	Lo Cuica	Group4	Lo Cuica	Group4	Lo Cuica	Group4	Lo Cuica	Group4
C10	131	81	MuteTriang	Group5	MuteTriang	Group5	MuteTriang	Group5	MuteTriang	Group5
	133	82	OpenTriang	Group5	OpenTriang	Group5	OpenTriang	Group5	OpenTriang	Group5
	135	83	Cabasa	Off	Cabasa	Off	Cabasa	Off	Cabasa	Off
	137	84	JingleBell	Off	JingleBell	Off	JingleBell	Off	JingleBell	Off
	139	85	Bell Tree	Off	Bell Tree	Off	Bell Tree	Off	Bell Tree	Off
	141	86	Castanet	Off	Castanet	Off	Castanet	Off	Castanet	Off
C11	143	87	Side Stick	Off	Side Stick	Off	Side Stick	Off	Side Stick	Off
	145	88	Taiko Lo	Off	Taiko Lo	Off	Taiko Lo	Off	Taiko Lo	Off
	147	89	-	-	-	-	-	-	-	-
	149	90	-	-	-	-	-	-	-	-
	151	91	-	-	-	-	-	-	-	-
	153	92	-	-	-	-	-	-	-	-
C12	155	93	-	-	-	-	-	-	-	-
	157	94	-	-	-	-	-	-	-	-
	159	95	-	-	-	-	-	-	-	-
	161	96	-	-	-	-	-	-	-	-
	163	97	-	-	-	-	-	-	-	-
	165	98	-	-	-	-	-	-	-	-
C13	167	99	-	-	-	-	-	-	-	-
	169	100	-	-	-	-	-	-	-	-
	171	101	-	-	-	-	-	-	-	-
	173	102	-	-	-	-	-	-	-	-
	175	103	-	-	-	-	-	-	-	-
	177	104	-	-	-	-	-	-	-	-
C14	179	105	-	-	-	-	-	-	-	-
	181	106	-	-	-	-	-	-	-	-
	183	107	-	-	-	-	-	-	-	-
	185	108	-	-	-	-	-	-	-	-
	187	109	-	-	-	-	-	-	-	-
	189	110	-	-	-	-	-	-	-	-



	Key	PC#	5. Brush Kit	Ex. asn	6. Perc Kit	Ex. asn	7. Dance Kit	Ex. asn	8. Orch Kit	Ex. asn
A0		21	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
		23	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	C1		24	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
		26	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
		28	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
		29	Crisp Kick	Off	Hi Bongo	Off	Crisp Kick	Off	Pedal HH	Group1
		31	FingerSnap	Group6	Lo Bongo	Off	PicloSnare	Off	Open HH	Group1
		33	Open HHS	Group1	Tambourine	Off	Open HHS	Group1	Ride Edge	Off
		35	Ambi.Kick	Off	Agogo	Off	Syn Kick 2	Off	↓	↓
		37	Timbale-Paila	Off	VocalSnr 1	Off	Side Stick	Off	↓	↓
		39	Brush Slap	Group6	Agogo	Off	TightSnare	Off	↓	↓
		41	RollSnare1	Group6	Slap Bongo	Off	Rev Snare	Off	↓	↓
		43	Punch Kick	Off	WoodBlock3	Off	Ambi.Kick	Off	Real Kick	Off
		45	Rock Kick	Off	Claves	Off	Dance Kick	Off	Orch B.Drm	Off
		47	Side Stick	Off	WoodBlock2	Off	Side Stick	Off	Side Stick	Off
		49	Brush Tap	Group6	Cowbell	Off	Syn Snare2	Off	RollSnare2	Off
		51	Brush Slap	Off	WoodBlock1	Off	Hand Claps	Off	Castanet	Off
		53	BrushSwish	Off	Castanet	Off	Ambi.Snare	Off	RollSnare2	Off
		55	Brush Tom	Off	Baya 2	Off	ProcessTom	Off	↓	↓
		57	Tite HH	Group1	Cabasa	Off	Tite HH	Group1	↓	↓
		59	Brush Tom	Off	Baya 1	Off	ProcessTom	Off	↓	↓
		61	Pedal HH	Group1	Maracas	Off	Pedal HH	Group1	↓	↓
		63	Brush Tom	Off	Baya 2	Off	ProcessTom	Off	↓	↓
		65	Open HHL	Group1	Cabasa	Off	Open HHL	Group1	↓	↓
		67	Brush Tom	Off	Tabla 3	Group1	ProcessTom	Off	↓	↓
		69	Brush Tom	Off	Tabla 2	Group1	ProcessTom	Off	↓	↓
		71	Crash Cym	Off	Vlraslap	Off	Crash Cym	Off	↓	↓
		73	Brush Tom	Off	Tabla 1	Group1	ProcessTom	Off	↓	↓
		75	Ride Cym 2	Off	MuteTriang	Group3	Ride Edge	Off	↓	↓
		77	China Cym	Off	Orch B.Drm	Off	China Cym	Off	↓	↓
		79	Ride Cym 1	Off	OpenTriang	Group3	Ride Cup	Off	Timpani	Off
		81	Tambourine	Off	Gulro S	Group2	Tambourine	Off	Tambourine	Off
		83	Splash Cym	Off	JingleBell	Off	Splash Cym	Off	Splash Cym	Off
		85	Cowbell	Off	Gulro L	Group2	Cowbell	Off	Cowbell	Off
		87	Crash Cym	Off	Bell Tree	Off	Crash Cym	Off	Crash Cym	Off
		89	Vlraslap	Off	Thing	Off	Vlraslap	Off	Vlraslap	Off
		91	Ride Edge	Off	Maracas	Off	Ride Edge	Off	Orch Crash	Off
		93	Hi Bongo	Off	Hand Claps	Off	Hi Bongo	Off	Hi Bongo	Off
		95	Lo Bongo	Off	Syn Claps	Off	Lo Bongo	Off	Lo Bongo	Off
		97	Mute Conga	Off	Scratch Lo	Off	Mute Conga	Off	Mute Conga	Off
		99	Open Conga	Off	Scratch Hi	Off	Open Conga	Off	Open Conga	Off
		101	Open Conga	Off	ScratchDbl	Off	Open Conga	Off	Open Conga	Off
		103	Hi Timbale	Off	Whistle S	Group4	Hi Timbale	Off	Hi Timbale	Off
		105	Lo Timbale	Off	Whistle L	Group4	Lo Timbale	Off	Lo Timbale	Off
		107	Agogo	Off	Slap Conga	Off	Agogo	Off	Agogo	Off
		109	Agogo	Off	Mute Conga	Off	Agogo	Off	Agogo	Off
		111	Cabasa	Off	Open Conga	Off	Cabasa	Off	Cabasa	Off
		113	Maracas	Off	Open Conga	Off	Maracas	Off	Maracas	Off
		115	Whistle S	Group2	Mute Cuica	Off	Whistle S	Group2	Whistle S	Group2
		117	Whistle L	Group2	Open Cuica	Off	Whistle L	Group2	Whistle L	Group2
		119	Gulro S	Group3	P-Timbale	Off	Gulro S	Group3	Gulro S	Group3
		121	Gulro L	Group3	R-Timbale	Off	Gulro L	Group3	Gulro L	Group3
		123	Claves	Off	Hi Timbale	Off	Claves	Off	Claves	Off
		125	WoodBlock2	Off	Lo Timbale	Off	WoodBlock2	Off	WoodBlock2	Off
		127	WoodBlock3	Off	Syn Claves	Off	WoodBlock3	Off	WoodBlock3	Off
		129	Hi Cuica	Group4	SynCowbell	Off	Hi Cuica	Group4	Hi Cuica	Group4
		131	Lo Cuica	Group4	FingerSnap	Off	Lo Cuica	Group4	Lo Cuica	Group4
		133	MuteTriang	Group5	Taiko Hi	Off	MuteTriang	Group5	MuteTriang	Group5
		135	OpenTriang	Group5	Taiko Lo	Off	OpenTriang	Group5	OpenTriang	Group5
		137	Cabasa	Off	Zap 2	Off	Cabasa	Off	Cabasa	Off
		139	JingleBell	Off	RollSnare1	Group5	JingleBell	Off	JingleBell	Off
		141	Bell Tree	Off	RollSnare2	Group5	Bell Tree	Off	Bell Tree	Off
		143	Castanet	Off	Orch Crash	Group6	Castanet	Off	Castanet	Off
		145	Side Stick	Off	Orch Crash	Group6	Side Stick	Off	Side Stick	Off
		147	Taiko Lo	Off	↓	↓	Taiko Lo	Off	Taiko Lo	Off
		149	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		151	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		153	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		155	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		157	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		159	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		161	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		163	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		165	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		167	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		169	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		171	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		173	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		175	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		177	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		179	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		181	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		183	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		185	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		187	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		189	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		191	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		193	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		195	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		197	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		199	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		201	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		203	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		205	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		207	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		209	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		211	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		213	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		215	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		217	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		219	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		221	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		223	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		225	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		227	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		229	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		231	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		233	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		235	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		237	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		239	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		241	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		243	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		245	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		247	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		249	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		251	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		253	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		255	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		257	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		259	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		261	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		263	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		265	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		267	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		269	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		271	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		273	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		275	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		277	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		279	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		281	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		283	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		285	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		287	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		289	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		291	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		293	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		295	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		297	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		299	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		301	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		303	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		305	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		307	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		309	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		311	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		313	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		315	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		317	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		319	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		321	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		323	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		325	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		327	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		329	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		331	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		333	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		335	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		337	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		339	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		341	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		343	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		345	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		347	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		349	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		351	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		353	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		355	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		357	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		359	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		361	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		363	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		365	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		367	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		369	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		371	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		373	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		375	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		377	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		379	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		381	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		383	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		385	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		387	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		389	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		391	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		393	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		395	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		397	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		399	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		401	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		403	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		405	-	-	↓	↓	-	-	-	-
		407	-	-	↓	↓	-	-	-	-

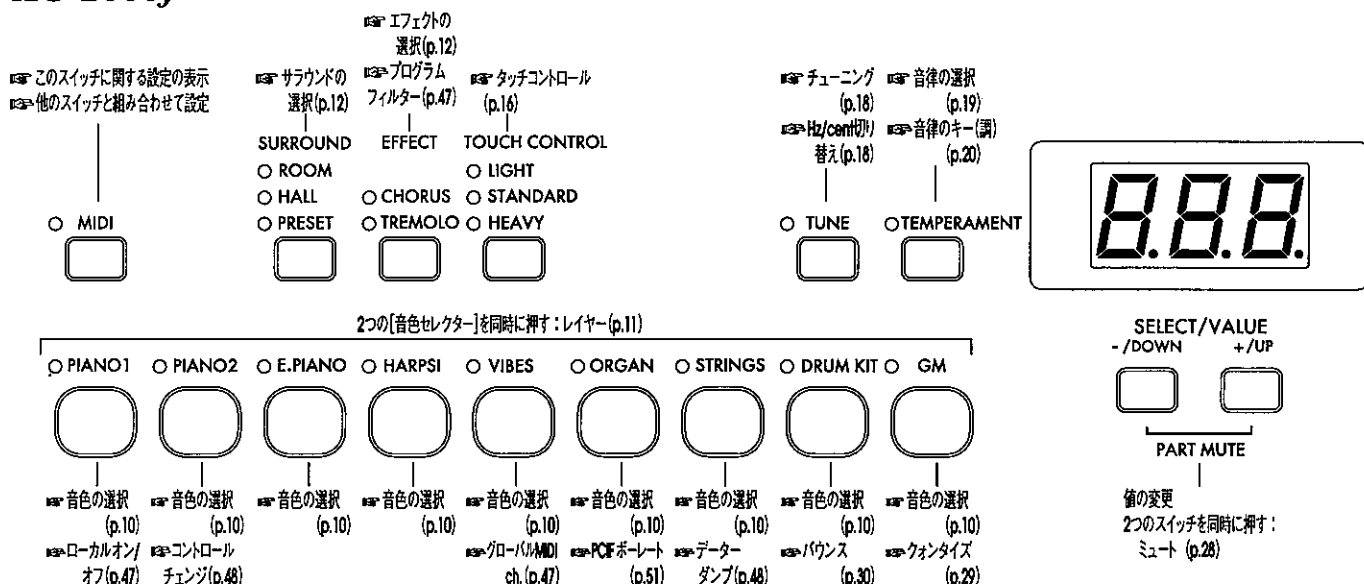
## 6. 操作スイッチ機能一覧

XC-2000f/XC-1000の操作スイッチの機能一覧です。

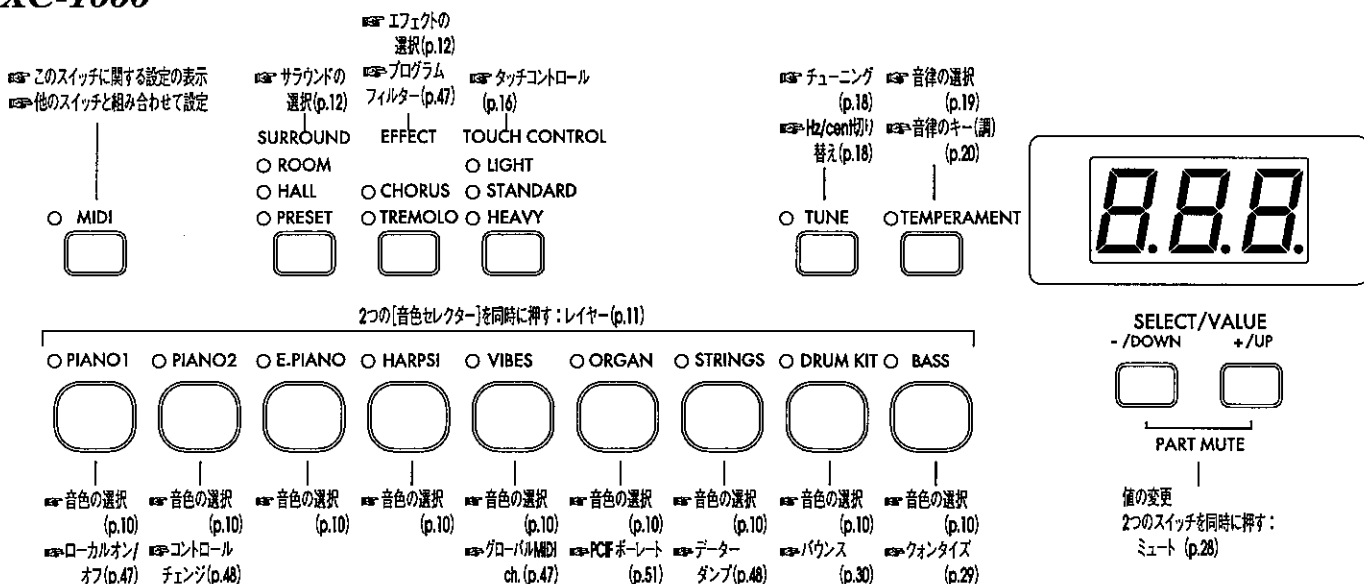
表記について

☞：単独でスイッチを押したときの機能。☞☞：[MIDI]スイッチを押しながら各スイッチを押したときの機能。

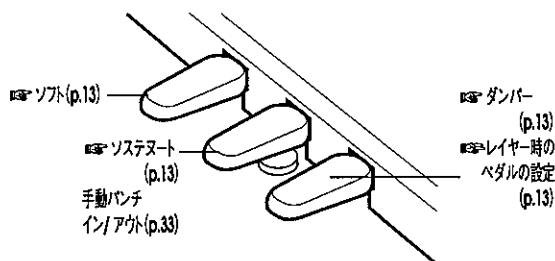
### XC-2000f



### XC-1000



## XC-2000f/XC-1000



テンポの調節 (p.14)  
レコーダーの同期 (p.49)  
拍子の選択 (p.14)  
パートのMIDI ch. (p.46)  
メトロノームの音量 (p.15)  
パートの音量 (p.27)

TEMPO  
BEAT  
METRO VOLUME

ソングの選択 (p.21, 24)  
ソングの消去 (p.31)  
パートの選択 (p.21, 27)  
パートの消去 (p.31)

SONG  
PART

ソングのロード (p.37)  
SMFのロード (p.40)  
ソングのセーブ (p.36)  
SMFに変換してセーブ (p.41)

LOAD  
SAVE

METRONOME  
RESET  
START / STOP  
RECORD  
REW  
FF  
REPEAT



メトロノームオン/オフ (p.14)  
メトロノームアクト音 (p.15)  
リセット (p.21)  
設定の初期化 (p.72)  
再生/停止 (p.22, 24)  
録音 (p.21)  
録音モード/メモリー残量 (p.34)  
巻き戻し (p.25)  
自動パンチイン小節 (p.33)  
早送り (p.25)  
自動パンチアウト小節 (p.33)  
繰り返し再生 (p.25)

SONG  
PLAY  
DEMO



ソングプレイ (p.9, 38, 42)  
デモ演奏 (p.8)  
デモ演奏 (p.8)  
フロッピーディスクのフォーマット (p.35)

テンポの調節 (p.14)  
レコーダーの同期 (p.49)  
拍子の選択 (p.14)  
パートのMIDI ch. (p.46)  
メトロノームの音量 (p.15)  
パートの音量 (p.27)

TEMPO  
BEAT  
METRO VOLUME

ソングの選択 (p.21, 24)  
ソングの消去 (p.31)  
パートの選択 (p.21, 27)  
パートの消去 (p.31)

SONG  
PART

METRONOME  
RESET  
START / STOP  
RECORD  
REW  
FF  
REPEAT



メトロノームオン/オフ (p.14)  
メトロノームアクト音 (p.15)  
リセット (p.21)  
設定の初期化 (p.72)  
再生/停止 (p.22, 24)  
録音 (p.21)  
録音モード/メモリー残量 (p.34)  
巻き戻し (p.25)  
自動パンチイン小節 (p.33)  
早送り (p.25)  
自動パンチアウト小節 (p.33)  
繰り返し再生 (p.25)

DEMO



デモ演奏 (p.8)

## 7. LED 画面のメッセージ

### メッセージ

E - -

レコーダーを外部クロックに設定しているときに[TEMPO]スイッチを押したときに表示されます。

Lo

内臓バックアップバッテリーの電圧が低下しています。最寄りのサービスセンターまたは販売店にお問い合わせください。

### エラーメッセージ(XC-2000fのみ)

E06

今セットされているディスクの中に、これ以上ファイルを作ることはできません。別のディスクと交換してからもう一度操作してください。

E10

選択したファイルにはデータが入っていません。

E11

ファイルのデータが途中で壊れています。正しいファイルを選択しているかどうかもう一度確かめてください。

E13

選択したファイルは、属性がリードオンリーになっています。XC-2000f本体を操作してもファイルの属性を変更することはできません。変更する場合はコンピュータを使って属性を変更してから再びXC-2000fにディスクをセットし操作してください。ファイルの属性、及びその変更については、コンピュータの取扱説明書、コンピュータのOS(基本ソフト)の説明書をご覧ください。

E14

指定したファイル番号は、そのディスクでは既にディレクトリとして使われています。別のファイル番号を指定して、もう一度操作してください。

E15

指定したファイル番号は、そのディスクでは既にシステムファイルとして使われています。別なファイル番号を指定してもう一度操作してください。

E16

選択したファイルはXC-2000fのものではありません。正しいファイル番号を指定してもう一度操作してください。

E18

XC-2000fの作業用として必要なメモリが不足しています。必要な空きメモリの容量を確保するためには今XC-2000fの本体内に記憶されているソングのデータを消去しなければなりません。消去したくないデータが残っていたらそのデータをディスクにセーブし、ソングのデータを消去して、空きメモリの容量を増やしておいてからもう一度操作してください。

E24

データの入っていないソングをセーブしようとしてしました。

E25

選択したファイルはスタンダードMIDIファイル・フォーマットに準拠していません。正しいファイルを選択してもう一度操作してください。

E26

選択したファイルはスタンダードMIDIファイル・フォーマット2に準拠しています。XC-2000fはスタンダードMIDIファイルのフォーマット2には対応していません。

E99

[RESET]スイッチまたは[MIDI]スイッチなどを押して、エラー表示を解除してから、もう一度キーウェイトコントロールを操作してください。それでも同じエラーが出る場合は、最寄りのコルグ製品販売店か、(株)コルグ営業技術課へご連絡ください。

-F-

今セットされているフロッピーディスクはXC-2000fで使えるディスクとはフォーマットが異なります。正しいディスクをセットしているかどうか確かめてください。

FUL

今セットされているディスクの中に、これ以上データを書き込める空き領域がありません。空き容量の残っている別のディスクと交換してからもう一度操作してください。

-P-

今指定したSMFフォーマット1の演奏データのすべてのトラックを演奏するのに必要なメモリが不足しています。このまま演奏しても一部のトラックの音を聴くことはできません。

nod

ディスクが書き込み禁止の状態になっています。書き換えを行っても構わないディスクなら書き込み禁止タブを閉じてからもう一度操作してください。

nof

フロッピーディスクがディスクドライブにセットされていません。ディスクをドライブに正しくセットしてからもう一度操作してください。

ディスクの中に該当するファイル(ソングモードの場合は\*.SNG、ソングプレイやSMFのロードの場合は\*.MID)がありません。

### その他のディスクに関するメッセージ(XC-2000fのみ)

BBF

点滅

今フォーマットしようとしているディスクには既にxx個のファイルが存在しています。このままフォーマットを実行するとディスクにあるファイルは全て失われてしまいます。正しいディスクをセットしているかどうかもう一度確かめてください。

FBB

点滅

セーブおよびSMFセーブの時、指定したものと同一番号のファイルが既にディスク上に存在します。このままセーブを実行するとその番号のファイルの内容を新しいものに置き換えてしまいます。

---

点滅

ディスクの内容をチェックしているときに表示されます。

FBB

点滅

セーブ、ロードなどで、ファイル番号を表示したままピリオドの部分が点滅します。ディスクからデータをロードしているか、あるいはセーブしています。

dF

点滅

フォーマットを実行しているときに表示されます。

dEL

点滅

指定したSMFフォーマット1の演奏データを演奏するために必要なメモリが不足しています。必要な空きメモリの容量を確保するためにXC-2000fの本体内に記憶されているソングのデータを消去します。消去したくないデータが残っている場合はそのデータをディスクにセーブしてからもう一度操作をしてください。消去してよい場合は、[SONG]スイッチを押すと、すべてのソングデータを消去してからSMFフォーマット1の演奏を開始します。

## 8. 設定の初期化

1つのソングのパートの音色、サラウンド、エフェクト、ボリューム、MIDIチャンネルの設定と、ペダルの設定を初期化することができます。パートのMIDIチャンネルを変更したり、外部シーケンサーや内蔵ディスクドライブ(XC-2000fのみ)で演奏データを読み込んだりして音が思うとおりに設定できなくなったときや、ペダルが正しく効かないときは、初期化してください。

パート	パートの音色	サラウンド	ボリューム	MIDIチャンネル
1~9, 11~16	PIANO1	PRESET	127	1~9, 11~16
10	DRUM KIT (GM KIT)	PRESET	127	10

1. [SONG]スイッチを押した後、[+/UP]スイッチまたは[-/DOWN]スイッチを押して初期化するソングを選びます。

ペダルはすべてのソングに対して共通に初期化されますのでペダルを初期化する場合は、パートに音色を選んでいないソングを選んでください。

2. [MIDI]スイッチと[RESET]スイッチを同時に押すと、初期化されます。



ペダルを踏まないでください。

## 9. 故障とお思いになる前に

症 状	対 策	参照ページ
電源が入らない	電源コードを適切なコンセントに差し込んでいますか？	2
	電源スイッチがオンになっていますか？	2
	それでも電源が入らない場合は、最寄りのコルグ製品販売店にご相談ください。	
音が出ない	XC-2000f/XC-1000の[MASTER VOLUME]スライダーが上がっていますか？	2
	ヘッドホンのプラグが差し込まれていませんか？	2
	パートの音量が“0”になっていませんか？	27
	ミュートしていませんか？	28
	ローカルオンになっていることを確認してください。	47
音色が変わらない	[DEMO]スイッチをオフにしてください。	8
音が途切れてしまう	XC-2000f/XC-1000の音色は、元になる楽器の音をサンプリング(録音)し、分析/加工してつくられています。音色によって1つの鍵盤を押すと、サンプリングデータの1つを鳴らす音色と、2つを鳴らす音色があります。[PIANO1]、[GM](XC-2000)と[BASS](XC-1000)の一部の音色で2つのデータを鳴らします。これらの音色を選ぶとダンパーペダルを踏んでいるときも含め同時に発音させることができる音数は16音となります。それ以外の音色では最大同時発音数は32音となります。また、レイヤーにして同時に2つの音色を鳴らすときのサンプリングデータを1つ使っているか2つ使っているかで最大同時発音数は異なってきます。たとえばサンプリングデータを1つ鳴らす音色と2つ鳴らす音色を組み合わせると最大同時発音数は10音になります。レイヤーや、レコーダーに複数のパートを録音する場合は音色の組み合わせを上手に選んでください。	
ペダルの効果が正しくかからない	電源オン時や、設定の初期化を行ったときにペダルを踏みませんでしたか？	2, 72
	ペダル用コネクターがはずれていませんか？	53
ソステヌートペダルの効果がかからない	録音モードに手動バンチインが選ばれていませんか？	32
	ペダル用コネクターがはずれていませんか？	53

症 状	対 策	参照ページ
再生できない	XC-2000f/XC-1000の設定が“In”(内部)になっていることを確認してください。スレーブ(同期される側)機として使う場合は、“E”(外部)にして、外部機器がMIDIクロックデータを正しく送信するようにしてください。	49
録音できない	レコーダーの空き領域は十分にありますか？	34
	録音モードの設定が合っていますか？	32
	XC-2000f/XC-1000の設定が“In”(内部)になっていることを確認してください。スレーブ(同期される側)機として使う場合は、“E”(外部)にして、外部機器がMIDIクロックデータを正しく送信するようにしてください。	49
送信されたMIDIデータに応答しない	MIDIケーブルがすべて正しく接続されていることを確認してください。	45
	送信機器と同じチャンネルでXC-2000f/XC-1000がMIDIデータを受信していることを確認してください。	46
	MIDIチャンネル(パート、グローバル)は合っていますか？	46,47
鍵盤を弾いても指定したドラム・サウンドが出ない	[KEY TRANSPOSE]スライダーが“C”になっていることを確認してください。	17

## フロッピーディスクに関する問題(XC-2000f)

症 状	対 策	参照ページ
フロッピーディスクをフォーマットできない	3.5インチ2DDまたは2HDのフロッピーディスクを使っていますか？このタイプのディスクを必ず使ってください。	iv
	ディスクが正しく挿入されていますか？	iv
	ディスクのライト・プロテクト・タブがプロテクト側にセットされていませんか？	iv
	[DEMO]スイッチがオンになっていませんか？	35
	本体ディスクドライブのヘッドをクリーニングしてください。	iv
データをフロッピーディスクにセーブできない	ディスクが正しく挿入されていますか？	iv
	ディスクのライト・プロテクト・タブがプロテクト側にセットされていませんか？	iv
	ディスクをフォーマットしていますか？	35
	本体ディスクドライブのヘッドをクリーニングしてください。	iv
データをフロッピーディスクからロードできない	ディスクが正しく挿入されていますか？	iv
	ディスクにデータが入っていますか？	35
	本体ディスクドライブのヘッドをクリーニングしてください。	iv

## 10. 索引

- ア行**  
 移調 ..... 17  
 上書き ..... 32  
 音色グループ ..... 10  
 音色セレクター ..... 10  
 音律 ..... 19  
 キー ..... 20  
 音量 ..... 2
- カ行**  
 重ね書き ..... 32  
 カラオケ ..... 42  
 キーウェイトコントロール ..... 43  
 キートランスポーズ ..... 17  
 共鳴効果 ..... 13  
 クオンタイズ ..... 29  
 グローバルMIDIチャンネル ..... 47  
 コントロールチェンジ ..... 48
- サ行**  
 再生 ..... 24  
 音色の変更 ..... 24  
 テンポの変更 ..... 24  
 サラウンド ..... 12  
 消去 ..... 31  
 ソング ..... 31  
 パート ..... 31  
 スタンダードMIDIファイル (SMF) ..... 38  
 Macintoshへの変換方法 ..... 40  
 再生 ..... 38  
 ストレッチチューニング ..... 20  
 セーブ ..... 36  
 演奏データ ..... 36  
 スタンダードMIDIファイル ..... 41  
 データファイラー ..... 48  
 設定の初期化 ..... 15, 72  
 接続 ..... 44  
 MIDI機器 ..... 45  
 オーディオ機器 ..... 44  
 コンピュータ ..... 50  
 シンセサイザー ..... 44  
 セント (cent) ..... 18  
 ソステヌートペダル ..... 13  
 ソフトペダル ..... 13  
 ソングプレイ ..... 38
- タ行**  
 タッチコントロール ..... 16  
 ダンパーペダル ..... 13  
 データダンブ ..... 48
- データファイラー ..... 48  
 ディスクドライブ ..... iv  
 ヘッドのクリーニング ..... iv  
 デモ演奏 ..... 8  
 テンポ ..... 14  
 同期 ..... 49  
 ドラムキット ..... 11
- ハ行**  
 ハーフペダル ..... 13  
 バウンス ..... 30  
 バックアップバッテリー ..... iii  
 パンチイン/アウト ..... 33  
 自動 ..... 33  
 手動 ..... 33  
 ピッチ ..... 18  
 拍子 ..... 14  
 複数のパートの録音 ..... 27  
 音量 ..... 27  
 付属のデモディスク ..... 9  
 プリリアンス ..... 12  
 プログラムフィルター ..... 47  
 フロッピーディスク ..... iv  
 スタンダードMIDIファイルのセーブ ..... 41  
 スタンダードMIDIファイルのロード ..... 40  
 セーブ ..... 36  
 フォーマット (初期化) ..... 35  
 ロード ..... 37  
 ペダル用コネクタ ..... iii, 53  
 ヘルツ (Hz) ..... 18
- マ行**  
 マイク ..... 42  
 マイナスワン ..... 28  
 マルチティンバー ..... 46  
 ミュート ..... 28  
 メトロノーム ..... 14  
 アクセント音 ..... 15  
 音量 ..... 15  
 テンポ ..... 14  
 拍子 ..... 14  
 メモリーの残量表示 ..... 34  
 モジュレーション ..... 12
- ラ行**  
 リピート ..... 25  
 1曲全体 ..... 25  
 A-B区間 ..... 26  
 レイヤー ..... 11  
 音量 ..... 11
- 注意 ..... 24  
 ペダルの設定 ..... 13  
 ローカルオン/オフ ..... 47  
 ロード ..... 37  
 演奏データ ..... 37  
 スタンダードMIDIファイル ..... 40  
 データファイラー ..... 49  
 録音 ..... 21  
 注意 (XC-2000f) ..... 23  
 録音モード ..... 32
- A**  
 Apple Macintosh ..... 50
- B**  
 [BASS] 音色リスト ..... 65
- D**  
 DRUMKIT ..... 11  
 [DRUM KIT] マップ ..... 66
- G**  
 GM ..... 11  
 GMスコア ..... 28  
 [GM] 音色リスト ..... 65
- I**  
 IBM PC (互換機) ..... 50
- K**  
 KORG MIDI Driver ..... 55
- L**  
 LED画面のメッセージ ..... 70
- M**  
 MIDI ..... 45  
 MIDIチャンネル ..... 46
- N**  
 NEC PC-98 ..... 50
- S**  
 SMF (スタンダードMIDIファイル) ..... 38
- T**  
 TOHOST ..... 50



## 11. 仕様

	XC-2000†	XC-1000
鍵盤	88鍵(キーウエイト・コントロール機能付)	88鍵
タッチコントロール	ライト、スタンダード、ヘビー、キーウエイトコントロール	ライト、スタンダード、ヘビー
音源システム	aiスクエアシンセシスシステム	
最大同時発音数	32/16*1	
音色プログラム数	ROM: 7 + GM128 + GM Dr1 + Dr 7	ROM: 7 + Bass 8 + GM Dr 1
音色プログラム(グループ)	ピアノ1、ピアノ2、エレクトリックピアノ、ハーブシコード、 ビブラフォン、オルガン、ストリングス、ドラムキット(8)、GM(128)	ピアノ1、ピアノ2、エレクトリックピアノ、ハーブシコード、 ビブラフォン、オルガン、ストリングス、ドラムキット、ベース(8)
エフェクター	サラウンド(ルーム/ホール/プリセット)、エフェクト(コーラス/トレモロ)	
レコーダー	16トラック、10ソング(最大記憶容量40,000ステップ) <リセット、スタート/ストップ、レコード、REW、FF、リピート、 ソングセレクト、パートセレクト、ロード、セーブ>	16トラック、10ソング(最大記憶容量31,000ステップ) <リセット、スタート/ストップ、レコード、REW、FF、リピート、 ソングセレクト、パートセレクト>
フロッピーディスクドライブ	3.5インチ2DD、2HD (SMFミュージックデータプレイバック可能)	—
メトロノーム	メトロノーム、テンポ、ビート、ボリューム	
ディスプレイ	8セグメントLED × 3	
ペダル	ダンパー*2、ソフト*2、ソステヌート	
接続端子	アウトプット*3(L/MONO, R)、インプット*3(L/MONO, R)、ヘッドホン*4 × 2、MIDI (IN, OUT)、PC I/F (TO HOST)	
マイクインプット	インプット*3、マイクボリューム、エコーレベルボリューム、 マイク/ライン切り替えスイッチ	—
コントロール	マスターボリューム、パワースイッチ、プリリアンズ、キートランスポーズ、チューニング、テンペラメント	
メインアンプ	40W × 2	30W × 2
スピーカー	13cm × 2、10cm × 2、5cm × 2	13cm × 2、5cm × 2
電源	100V	
消費電力	120W	75W
外形寸法	1,414(W) × 392(D) × 815,6(H)	
重量	53kg	49kg
外装仕上げ	レッドブラウンバースアイメイブル/ブラック	
付属品	デモデータディスク、イス、ヘッドホン	イス、ヘッドホン
オプション	lh. AG-001A/002/003/004、KSMF Disk	lh. AG-001A/002/003/004

\*1: 音色や、レイヤー設定時には少なくなることがあります。

\*2: ハーフペダルに対応しています。

\*3: 標準プラグです。

\*4: ステレオミニプラグです。

- Apple MacintoshおよびMIDI Manager, MIDI Driver, PatchBayは、米国アップルコンピュータ社の登録商標および商標です。
- IBMは米国IBM社の登録商標です。
- MIDI Playerはバスポートデザイン社の商標です。
- MS-DOSおよびWindowsは米国マイクロソフト社の登録商標および商標です。
- PC-98シリーズは日本電気株式会社の商標です。

## アフターサービス

■製品をお買い上げいただいた日より一年間は保証期間です。万一保証期間内に、製造上の不備による故障が生じた場合は無償修理いたしますので、お買い上げの販売店に保証書を提示して修理をご依頼ください。ただし次の場合の修理は有償となります。

1. 消耗部品（電池など）を交換する場合。
2. 輸送時の落下、衝撃などお客様の取扱方法が不適当のため生じた故障。
3. 天災（火災等）によって生じた故障。
4. 故障の原因が本製品以外の他の機種にある場合。
5. コルグ・サービスステーション及び、コルグ指定者以外の手で修理、改造された部分の処理が不適当であった場合。
6. 保証書に販売店名、お客様氏名、ご住所、お買い上げ日等が記入されていない場合。
7. 保証期間が切れている場合。
8. 日本国外で 사용되는場合。

■当社が修理した部分が再度故障した場合は、保証期間外であっても3ヵ月以内に限り無償修理いたします。また仕様変更に関しては有償になりますのでご了承ください。

■お客様が保証期間中に移転された場合でも、保証書は引き続きお使いいただけます。移転先のコルグ製品取扱店、またはコルグ・インフォメーションまでお問い合わせください。

■保証期間が切れますと修理は有償になりますが、引き続き製品の修理は責任を持ってさせていただきます。修理用性能部品（電子回路など）は通常8年間を基準に保有しております。ただし外装部品（パネルなど）の修理は、類似の代替品を使用することもありますのでご了承ください。

■その他、アフターサービスについてご不明の点は下記へお問い合わせください。

### ▼▲▼▲▼▲▼ 株式会社コルグ ▼▲▼▲▼▲▼

インフォメーション	〒168 東京都杉並区下高井戸 1-15-12	☎ (03) 5376-5022
東京営業所	〒168 東京都杉並区下高井戸 1-11-17	☎ (03) 3323-5241
名古屋営業所	〒466 名古屋市昭和区八事本町 100-51	☎ (052) 832-1419
大阪営業所	〒531 大阪市北区豊崎 3-2-1 淀川5番館7F	☎ (06) 374-0691
福岡営業所	〒810 福岡市中央区白金 1-3-25 第2池田ビル1F	☎ (092) 531-0166

■修理等のお問い合わせは最寄りの各営業所、または下記までお問い合わせください。

営業技術課 〒157 東京都世田谷区南烏山 4-28-20 ☎ (03) 3309-7004

#### <WARNING!>

This Product is only suitable for sale in Japan. Properly qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

（この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です。）



**KORG**

■本社：〒168東京都杉並区下高井戸1-15-12 ☎(03)3325-5691 ■インフォメーション：〒168東京都杉並区下高井戸1-15-12 ☎(03)5376-5022  
■東京営業所：〒168東京都杉並区下高井戸1-11-17 ☎(03)3323-5241  
■名古屋営業所/ショールーム/スタジオ：〒466名古屋市昭和区八事本町100-51 ☎(052)832-1419  
■大阪営業所：〒531大阪市北区豊崎3-2-1淀川5番館7F ☎(06)374-0691  
■福岡営業所：〒810福岡市中央区白金1-3-25第2池田ビル1F ☎(092)531-0166